事項一　米国ニ於ケル排日移民法成立問題

1　制定経緯

一　一月十六日(着)　在米国埴原大使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

下院移民帰化委員会クォータニ関シジョンソンノ原案採用決定方ニ関シ報告ノ件

第三〇号

往電第二二号ニ関シ

一月十二日及十四日ノ下院移民帰化委員会開会専ラ「クォータ」問題ニ付議スル所アリ「クォータ」ヲ一八九〇年「センサス」ノ二「パーセント」ニ二百人ヲ加ヘタル数トスル「ジョンソン」原案採用ノ事ト定マリタル趣ナルカ同委員会ヨリ下院ニ報告セラル可キ時期ハ尚確タル見込立タサル模様ニテ今週末若クハ来週中ト称セラレ居レリ

二　一月十九日(着)　在米国埴原大使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

下院移民帰化委員会ニ於ケルジョンソン案審議状況ニ関スル件

第三五号

往電第三〇号ニ関シ

下院移民帰化委員会ハ其後引続キ「ジョンソン」案ヲ基礎トシテ審議シツツアリ一月十五日及十六日ノ会合ニ於テ東洋人殊ニ日本人問題ニ付討論アリタル模様ナルカ当館諜報者カ一月十六日同委員会長「ジョンソン」ヨリ聞キ得タル処ニ依レハ Raker, Free 等ノ西部諸州代表議員ヨリ東洋人ニ関シ原案ヨリモ更ニ「ドラスチック」ノ条項ヲ挿入方提議セラレ例ヘハ日本人ニ付テモ支那人排斥法ニ於ケルト同種ノ条項ヲ設クヘシトノ主張モアリタルカ未タ決定ヲ見ルニ至ラス「ジョンソン」ハ帰化不能外国人ニ関スル条項等重要ノ点ハ少クトモ同人ノ原案通リ委員会ヲ通過スヘク尚委員会案決定シ下院ニ報告セラルルハ此処一週間前後ナルヘク但シ歳入委員会ヨリモ丁度其頃所謂減税案ノ報告ヲ提出ノ模様ナルヲ以テ何レカ先ニ下院ノ議事ニ上ルヤ不明ナリト語レル趣ナリ

本電桑港ヘ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ヘ暗号ノ儘郵送セシム

〜〜〜

許サルル趣旨ナリヤ若クハ日本人海員ノ上陸ハ全然第十八条ノ場合ニ限ラルル趣旨ナリヤ明瞭ナラス猶帰化不能外国人タル海員ヲ搭乗セシメ入国スル船舶出港ノ際此種海員ニ不足アル場合ノ処罰規定（原案第十九条c項）ハ削除セラレタリ但出港ノ際其外国人海員数ニ不足アル場合ノ処罰規定（原案第十九条a項）ハ新法案第二十条b項トシテ存置セラレ而テ新法案ニテハ此場合不足人員一人当リ壱千弗ノ割ニテ課金セラルルコトアルヘキ旨規定セリ次ニ直接帰化不能外国人ニ関セサル事項ノ内主ナルモノニ付言ヘハ

㈠ quota 制限ハ原案ノ通リトシ

㈡ 移民ノ家族ニ関シ原案中ノ non-quota relative immigrants ニ関スル条項ヲ一切削除シ移民ノ家族（夫妻十八歳以下ノ実子五十五歳以上ノ実父母）ニ限リ quota ニ拘ラス入国ヲ許スコトトセリ

新法案全文郵送ス

本電ハ桑港ニ（脱）「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ転送セシメタリ

五　二月十五日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

下院移民委員会ノ報告書中帰化不能外国人条項ニ関スル説明ニ付キ報告ノ件

第九一号

往電第八八号ニ関シ

下院移民委員会ノ報告書中ニハ本法案中ニ帰化不能外国人ニ関シ条項ヲ設ケタルハ本法案ノ特色ノ一ナリ移民委員会ハ東洋人移民入国制限ニ関シ現時ノ状態ヲ改善スル為該条項ノ提案ヲナスノ適切ナルヲ信スト述ヘタル後現行日米通商条約第一条全文同条約付帯ノ内田大使宣言並紳士協約協定事項要領（千九百八年度移民長官年報中ノ記事ヲ抜萃セルモノ）ヲ掲ケ紳士協約ハ公表セラレタルモノニアラス又文書ノ交換ニ過キス従来ノ厄介ナル問題ハ本法案同条項ニ依リ始メテ満足ニ終熄セシムルコトヲ得ヘシト述ヘタリ又市民トナルコトヲ得ス合衆国ニアリナカラ外国政府ニ忠誠ヲ尽ササルヲ得サルモノハ必要已ムナキモノノ外入国ヲ禁スルコト必要ナリト述ヘ又移民制限ノ必要ナルハ或種ノ外国人ハ同化不能若クハ同化困難ニシテ時ヲ要スル為ナリトノ趣旨ヲ述ヘ居レリ尚本案中再入国許可証（第九条）ハ再入国者ノ便宜ノ為発給スルモノニシテ彼等ニ対シ其ノ交付ヲ受ケ又ハ之ヲ所持スルノ義務ヲ負ハシムル趣旨ニアラスト説明セリ

右報告書全文郵送ス

六　二月十六日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

下院上院各移民委員会ノ動静及ビ民主党上院議員リードハジョンソン法案ニ対スル修正案ヲ準備中ノ趣ニ付キ報告ノ件

第一〇二号

往電第九九号ニ関シ

当館諜報者ノ報スルトコロヲ綜合スルニ大要左ノ如シ

一、下院移民委員会ハ二月十八日会議ヲ開キ国務長官書面中ノ修正意見ヲ採用スヘキヤ否ヤニ就キ審議スル筈ノ趣ナリ但「ジョンソン」ヲ初メ多数委員ハ日本移民並「クォータ」ノ基礎変更ニ関スル国務長官ノ修正意見ニ反対ニシテ此修正意見ハ採用セラルル見込ナシトノコトナリ

下院ハ十四日ヨリ愈々減税案ヲ上議シ居レルヲ以テ移民法案ノ上程ハ該議事終了後ナルモ Longworth（Republican 不明）ハ減税案等ニ対スル民主党ノ態度緩和策トシテ減税案ノ次ニハ民主党側ノ重キヲ置ケル「マッスルショウルス」問題ヲ上程スル目下ノ考ナル由

右ノ如クナル時ハ移民法案ハ更ニ其後ニ廻サルル次第ナリ

二、上院移民委員会ハ前述ノ通リ移民当局ノ意見ヲ徴シツツアリ十四日ノ会議ニテ紐育移民官 Cumimian ハ曩ニ下院移民委員会ニテ述ヘタルト略同様ノ意見（往電第一八号参照）ヲ述ヘ大体ニ於テ「ジョンソン」法案ハ最良ノ法案ナルコト殊ニ「クォータ」ハ一八九〇年「センサス」ヲ基礎トスルコト適当ナル旨述ヘタル趣ナルカ委員ハ前電ノ如ク一八九〇年「センサス」案ニ対シ相当強キ反対意見ヲ有シ来ル二十日ノ会議ニ矢張移民当局ヲ召集シ現行法ヲ暫ク其儘若クハ多少ノ修正ヲ施シテ継続セハ明年度ニ於テ移民ノ趨勢ニ如何ナル結果ヲ来タスヘキヤニ就キ説明ヲ聴取スルコトトナレル趣ナリ

猶委員ノ一人タル Reed（民主党「ペンシルバニア」選出）ハ「ジョンソン」法案カ上院ニ廻付セラレタル場合

申送ル筈ニシテ目下準備中ナル由

七　二月十八日　松井外務大臣ヨリ　在米国埴原大使宛（電報）

ヒューズ国務長官ヨリジョンソン下院移民委員長宛新移民法案ニ反対ナル趣ノ書面内容ニ付キ査報方訓令ノ件

第七一号

新聞電報ニヨレハ「ヒューズ」ハ「ジョンソン」ニ対シ新移民法案ニ反対スルノ書面ヲ送リタル趣ナルカ其内容詳細電報アリ度シ

八　二月二十日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

ジョンソン法案ハ日米通商条約ニ抵触シ日本人入国禁止条項ハ日米親善関係ヲ阻害ストノヒューズノ意見ニ付キ報告ノ件

第九九号

往電第九六号ニ関シ

一、「ジョンソン」法案ハ通商条約ニ抵触ストノ点ニ関シ国務長官ハ法案第三条(二)ニ所謂『「ビヂネス」又ハ遊覧ノ

ノ準備トシテ該案ニ対スル修正案ヲ用意シ居レル趣ナルカ之ニ拠レハ「クォータ」ハ各国トモ一九一〇年「センサス」ニ依ル在米国外国人数ノ一「パーセント」ニ二百人ヲ加ヘタル数トス但一九一〇年「センサス」ニ於テ合衆国居住特定外国人（foreign born individuals）総数ノ半分以上カ米国ニ帰化シ居ルコトヲ示シ居ル国ニ対シテハ前記一「パーセント」ノ外ニ更ニ四「パーセント」ヲ加算シタル数トナスコトニ定メアリ（此場合四「パーセント」ノ加算ヲ受ケ得ヘキ国ハ英国、独逸、仏国、和蘭、瑞西、瑞典、丁抹、諾威、「ルクセンブルグ」「パシフィック、アイランド」ノ諸国ナル趣）而テ前記 Reed ノ修正案ニ拠レハ帰化不能外国人ニ関スル「ジョンソン」案第十二条b項ヲ全然削除シアリテ日本ニモ「クォータ」ヲ適用セムトスル趣旨ナルヤニ思ハル

猶再渡航者ハ移民ノ部類ニ属セサルモノニシテ第三条中ニ加ヘ居レリ

三、国務長官ハ上院移民委員会ニ対シテモ今回公表セラレタル「ジョンソン」宛書面ト同様ノ意見（外ニ其後上院委員会側ヨリ提出セル質問ニ対スル答弁ヲ加フル筈）ヲ為一時入国スルモノ』トアルハ極ク短期間ノ入国ヲ目的トスルモノヲ指スモノト解スルノ外ナク通商条約ニ認ムル商人ノ如キハ之ニ含マシムルヲ得スト解セラル従テ該条約ト帰化不能外国人ニ関スル第十二条(b)項トハ相俟テ日本商人ノ入国ヲ全然禁止スル結果トナルト述ヘ尚前記第三条(二)ノ解釈ニ依レハ欧州諸国ノ商人ハ通商条約ニ依リ入国ヲ保障セラレ居ルニ拘ラス「クォータ」ノ制限ヲ受クルコトトナリ之又条約ニ抵触スト述ヘ居レリ

二、本法案カ日本人ニ対シ差別的立法ヲ含ムトノ点ニ関シテハ法案第十二条(b)項ハ第三条及第四条ノ規定ト相俟チ(イ)前述セル如ク特ニ日本商人ノ入国ヲ不可能ナラシメ(ロ)所謂移民ノ部類ニ属スル多クノモノ（註新渡航労働者米国在留者ノ家族組合長夫其他僧侶教師以外ノ自由職業者ヲ指ス）ノ入国ヲ禁止スル結果トナル而シテ(イ)ハ条約ニ抵触シ(ロ)ハ日本人入国禁止立法ヲ設クルコトトナル此後者ハ専ラ政策問題ナルカ（註現行通商条約付帯諒解ニ抵触ストハ述ヘ居ラス）斯ノ如キ立法カ日本国ヲ激怒セシムヘキハ必然ナリ帰化不能外国人ニ関スル規定ハ単ニ日本人ヲ目的トスルモノニアラスト弁疏スルカ如キハ無益ナリ何トナレハ支那人及亜細亜ノ特定地方人ニ関シテハ既ニ各種ノ規定現存スルヲ以テ第十二条(b)項ノ実際的効果ハ単ニ日本人排斥ニ存ス日本ハ之ニ依リ必スヤ侮辱ヲ感スヘク日米関係ノ改善ニ力アリタル華府会議ノ善果ハ之ニ依リ大部分水泡ニ帰スヘシ日本震災救援事業ノ如キハ何等日本人ノ怒ヲ減スルニ足ラス何トナレハ斯ノ如キ立法ハ慈善事業ノ如キニ依リ和クコトヲ得サル大侮辱ト見做サルヘキヲ以テナリ日本人ノ怒カ正当ナリヤ否ヤヲ論スルカ如キハ無益ナリ日本国民カ激昂シツツアルハ現実ノ事業（実？）ニシテ議論ノ問題ニアラス最モ親善ノ関係ヲ結ヒツツアル友国ニ対シ斯ノ如キ態度ニ出スルハ米国ニ取リ果シテ何ノ得ル処アリヤト述ヘ居レリ

三、日本人ニ「クォータ」ヲ適用スル点ニ付テハ「ジョンソン」法案ニ依ル時ハ日本人ノ「クォータ」ハ年々僅ニ百四十六名ニ過キス尤モ nonquota 移民ノ入国数ヲモ見込マサルヲ得サルモ若シ「ノンクォータ」移民ニ関スル第四条ノ規定カ不当ニ多数ノ日本人ヲ入ルル結果トナル惧アラハ排日立法手段ニ依ラスシテ何等カ適当ニ措置スルコトヲ得ヘシト述ヘ尚日本政府ハ既ニ本件法案ニ関シ国務省ノ注意ヲ喚起シタリ余ハ国交ノ見地ヨリ日本人排斥規定ノ削除ヲ強ク主張セサルヲ得スト述ヘ居レリ

四、尚「クォータ」ニ付一八九〇年「センサス」ニ基礎ヲ置クコトニ付欧米諸国ヨリ抗議アリタルコトヲ述ヘ余ハ此制限方法カ重要ノ意義ヲ有スルコトヲ認ムルモ同時ニ右「センサス」ニ基礎ヲ置クコトカ或国ニ対スル差別待遇ナリトノ抗議ニ対シ弁疏スヘキ論拠ヲ発見センコトヲ希望スト簡短ニ述ヘ居レリ

原文郵送ス

九　二月二十日(着)　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

ジョンソン移民法案ハ日米通商条約ニ抵触シ帰化不能外国人条項ハ対日関係上面白カラズトスル国務長官ヨリジョンソン下院移民委員長宛書面ノ内容ニ付キ報告ノ件

第一一一号

貴電第七四号ニ関シ再電ス

第九六号

去ル一月二十八日下院移民委員長「ジョンソン」ヨリ国務長官ニ宛テ「ジョンソン」法案ニ対スル国務省ノ意見ヲ求メタルニ対シ国務長官ハ二月八日付ヲ以テ長文ノ回答ヲ送リタル趣ニテ其全文国務省ヨリ昨十三日公表セラレタ右書面ノ約半分ハ日本移民ニ関シ費サレ居ル処国務長官ハ第一、本法案ハ日米通商条約ニ抵触ス（即チ同条約第一条ニ依リ入国ノ権利アル商人ノ入国ヲ許シ居ラス）第二、本法案中所謂帰化不能外国人ニ関スル規定ハ特ニ日本人ノ入国禁止ヲ目的トスル差別的立法タルコトハ何等弁解ノ余地ナク日本ノ感情ヲ害シ日米ノ国交ヲ害スルヲ以テ切ニ斯ル差別的規定ノ削除ヲ勧奨スト述ヘ同法案ニ対スル修正意見トシテ

(一)第三条移民ニ非サル者ノ内ニ「条約ノ規定ニ依リ合衆国ニ入国スルノ権利アル外国人」ヲ含マシメ以テ商人ノ入国ヲ自由ニスルコト

(二)第十二条(b)項帰化不能外国人ニ関スル条項ヲ削除スルコト

(三)其代リ日本人移民ニモ他国同様ノ基礎ニテ「クォータ」ノ制限ヲ適用スルコトヲ「サジェスト」セリ尚同長官ハ此ノ方法ニ依ル時ハ紳士協約ノ存立ニ顧ミ移民ニ対シ旅券トImmigration Certificate ノ両者ヲ発給セシムル本法案ノ規定ニ付日本政府ノ友好ナル共同ヲ受ケ得ルコトトナルヘク又米国ノ属領及米国ニ接続スル外国領土ヨリ合衆国本土ニ不正入国ヲ企ツル虞アル者ノ渡航禁止ニ付「クォータ」ニ依ル制限ノ上ニ更ニ紳士協約ニ依リ日本側ノ実行スル防止手続ヲ加フルコトトナリ極メテ有効ノ取締ヲ実行スルヲ得ヘシト述ヘ居レリ尚「ジョンソン」ハ往電第九一号ノ新法案報告書末段ニ「移民制限ニ依リ合衆国ノ健全ナル発達ヲ防護セントスル吾人ノ権利ニ干渉ヲ加ヘントスルカ如キ外国ノ申出ニ対シ国務省ハ何等recognition ヲ与フヘキニ非ス米国民カ移民問題ヲ国内問題トシテ処理シ得ル権利ヲ奪フカ如キ条約協約等ハ断シテ締結シ得ヘキニ非ス」トノ趣旨ヲ記載シ居レリ尚「ヒウズ」ノ回答書ノ詳細ハ追電ス

一〇　二月二十二日　松井外務大臣ヨリ　在米国埴原大使宛（電報）

移民法案ノ経過等ニ関スル諸情報ノ迅速詳細ナル報告方訓令ノ件

第八一号

貴電第一一一号ニ関シ

国務長官今回ノ措置ハ其究極ノ効果ノ如何ヲ問ハス移民法案ニ対スル打撃ナルハ勿論ニシテ殊ニ同長官ノ所見ニ対シ米国諸新聞カ筆ヲ揃ヘテ賛意ヲ表シタルハ当方ニ於テ最モ心強ク感スル所ナルト共ニ本邦諸方面ニ甚大ナル好感ヲ与ヘタルハ言ヲ俟タス只タ本件新聞通信ハ既ニ二月十六日当地新聞ニ掲載セラレタルニ係ラス貴電ハ漸ク二十日午後ニ至リ接到シ遺憾ナカラ之ヲ十分利用スルノ機ヲ失セルニ就テハ今後此種ノ情報ハ最モ迅速ナル「ライン」ヲ経テ電報相成様致シ度シ

尚移民法案其他ノ日米問題ニ対シ本邦輿論ノ常ニ注目ヲ怠ラス殊ニ有識者カ其経過ヲ重要視セル次第ハ嚮ニ往電第二〇号中ニ縷言セル通ニシテ万一下院通過シ更ニ上院ヲモ其儘通過スル如キコトアラハ重大ナル事態ヲ惹起スル虞レアルニ付当方ニ於テモ痛心憂慮本件経過ニ関スル情報ヲ鶴首セル次第ナルヲ以テ此点御考量ノ上本案今後ノ経過ハ勿論議会内外ノ情勢委員会内部ノ模様殊ニ国務省側ノ意向ニ就テハ事情ノ許ス限リ直接間接当局ト充分接触ヲ保チ出来得ル限リ迅速詳細ニ情報ヲ聚集セラレ随時電報方此上トモ御配慮相成度シ

一一　二月二十三日（着）　在米国埴原大使ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

国務長官ハ上院移民委員長コルトニ対シ国務省ノ見解ヲ披瀝シタル件

第一一九号

国務長官ハ二月十九日付書面ヲ以テ上院移民委員長「コルト」ニ対シ移民法案ニ対スル国務省ノ意見ヲ開陳セル趣発表セラレタルカ右書面ハ其冒頭ニ於テ「ジョンソン」草案中帰化不能外国人ニ関スル規定ノ日本ニ及ホス影響ニ付考慮ヲ加ヘンコトヲ求ムル旨記載シ下院移民委員長宛同長官書面（往電第九六号）全文写ヲ添付セリ一八九〇年「センサス」ニ基キ「クォータ」ヲ定ムル点ニ関シテハ伊太利及羅馬尼ヨリ抗議アリタルコトヲ述ヘ国務省ハ「クォータ」ノ基礎ニ関シ何等「サジェスト」スルヲ欲セサルモ只非難ヲ免レサルカ如キ差別（脱）サル基礎ニ依ランコトヲ希望スト述ヘ居レリ因ニ二月二十日下院ニ於テ移民委員長「ジョンソン」ハ前記羅馬尼ヨリノ抗書ヲ披露シタル上該抗議書中羅馬尼移民ハ其貯蓄ニ依リ羅馬尼ニ於ケル商業及財政ノ基礎ヲ強固ナラシムヘキ通貨ヲ増加シ以テ同国ノ経済的復興ヲ助ケツツアルモノナルヲ以テ同国ニ対スル差別的移民制限ハ同国ノ急速ナル復興ノ機会ヲ妨クルコトトナル苟モ世界ヲシテ速ニ欧州大戦ノ結果ヨリ回復セシメンコトニ勉メタル政府ハ右ノ如キ事態ニ付無関心ナルヲ得サルヘシトアル点ヲ指摘シ合衆国民ヲ犠牲ニシテ自国ノ経済復興ヲ企ツルノ権利ヲ要求スルカ如キハ驚クヘキ抗議ト云ハサルヘカラス外国政府ノ此種抗議コソ結局吾人ヲシテ真ノ移民制限法ヲ制定セシムルニ至ラシムル所以ナリト述ヘ喝采ヲ博シタル旨議会議事録ニ記載アリ

一二　二月二十四日（着）　在米国埴原大使ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

ジョンソン法案ノ成行及ビ上院議員リード移民法案ヲ上院委員会ニ提出ニ付キ報告ノ件

第一二三号

往電第一〇二号ニ関シ

当館諜報者ノ探聞セルトコロニ拠レハ

㈠下院移民委員会ハ国務長官修正意見採否ニ就キ未タ確タル決定ヲ為スニ至ラサル趣ナルカ若シ何等カ修正ヲ加フルトセハ曩ニ下院ニ報告セル「ジョンソン」法案移民委員会ニ re-committed セシメテ同委員会ニ於テ修正ノ上再ヒ報告スルノ手続ヲ執ルヘキヤ将又該法案カ下院議事ニ上リタル時議場ニ於テ修正案ヲ提出スルノ方法ニ依ルヘキヤニ就キ討議ノ末一応後者ノ手段ニ依ルコトニ決定セル趣ナリ

然ルニ其後紐育州選出下院議員中約二十名内外ノモノ会合ノ上「ジョンソン」法案カ一八九〇年「センサス」ニ基礎ヲ置ケルコト等ヲ理由トシテ該案ニ反対スヘキコトヲ決議シ之ヲ下院領袖ニ通告シ（紐育州選出下院議員総数四十三名内民主党二十二名ナリ猶下院移民委員中ノ紐育州選出議員カ少数意見ヲ報告セルコトハ往電第八八号及第一〇五号報告ノ通リナリ）又「ニューイングランド」六州選出下院議員（総数三十二名内民主党六名）中二十七八名モ「ジョンソン」法案ニ反対ナル形勢アル為「ジョンソン」以下下院移民委員等ニ於テモ多少焦慮シ前記ノ決議ヲ翻シテ寧ロ法案カ下院ノ議ニ上ラサル以前ニ移民委員会ニ再付託（re-committed）ヲ要求シ適当ノ修正ヲ加フルコト有利ナラスヤトノ議起リツツアル趣ナリ

㈡上院移民委員会ハ其後引続キ会議ヲ開キ政府ノ移民当局者ヲ招致シ移民入国ニ関スル手続其他詳細ノ事項ニ就キ意見ヲ聴取シツツアル趣ナリ

猶上院議員「リード」ニ依リ往電第一〇二号報告ノ「ジョンソン」案ニ対スル同人ノ修正案ニ更ニ国務長官修正案ヲ取入レテ多少ノ加除ヲ施シ同人提出法案トシテ二月二十日上院ニ提出シ同院移民委員会付託トナレリ内容追電ス（二月二十三日）

桑港ニ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸領事ニ転送セシム

一三　二月二十五日　在米国埴原大使ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

上下両院移民委員会ノ動静ニ付キ報告ノ件

第一二六号　（二月二十六日接受）

諜報者ノ報告其他ヲ綜合スルニ左ノ如シ

㈠移民当局ノ意見ヲ徴シツツアル上院移民委員会ハ二月二十八日ノ会合ニ於テ同委員会ノ執ルヘキ態度ニ付討議ニ入ル手順トナリタル趣ナリ委員長「コルト」ハ委員会大体ノ空気ハ今日ノ処現行法ニ多少ノ修正ヲ加ヘテ（例ヘハ「イミグレイション・サーティフィケート」ヲ領事館ヨリ発給セシムルコト其他）之ニ継続実施セシムル意見ニ傾キツツ

アル様見受ケラルル旨洩セル趣ナリ

㈡下院移民委員会ハ時々会合シ居ルモ専ラ各方面ヨリノ「ジョンソン」法案反対意見ニ付意見ヲ交換シ居ル程度ナル由「ジョンソン」法案委員会再付方ヲ要求スヘキヤ否ニ付テハ「ジョンソン」ハ矢張前ノ決定通議場ニ於テ修正スルノ方法ニ依ルコトニ決心シタル趣ナルカ同人ハ下院ニ於ケル同人法案反対態度漸次濃厚トナル形勢アル為同院ニ於ケル該法案ノ運命ヲ稍々悲観シ居ル趣ナリ

下院ニ於ケル該法案反対ノ空気ハ紐育州及「ニューイングランド」諸州選出議員中ニ濃厚トナリ既ニ二月二十五日紐育州選出民主党下院議員二十二名ハ法案反対ノ「ステイトメント」ヲ発表シタルノミナラス所謂急進派（「ラフォレット」一派）ノモノモ反対態度ヲ持スル形勢ナル趣ナリ尤之等ノ反対ハ南西欧州移民ニ関スル「クォータ」割当ノ点ニ関スルモノニシテ帰化不能外国人ニ関スル条項ニ付テハ寧ロ indifferent ナルモノト認メラル

㈢尚二月二十五日下院議長「ジレット」ノ本使ニ語ル処ニ依レハ「ジョンソン」移民法案ハ約二週間後ニ下院ノ議事ニ上ルコトトナルヘシトノコトナリ（二月二十五日）

本電ハ桑港総領事ニ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ郵送セシム

一四　二月二十七日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

リード移民法案トジョンソン法案トノ主ナ相異点ニ付キ報告ノ件

第一二八号

「リード」移民法案ハ下院ニ報告セラレ居ル「ジョンソン」法案ヲ骨子トシテ之ニ修正ヲ加ヘタルモノナルモ重要ノ点ニ於テ大ナル差異アリ

（甲）重ナル差異左ノ通リ

㈠immigration certificate ヲ visa certificate ト改称シ（内容ハ多者大体同様ナリ）移民ハ visa certificate 以外之ハ其旅券ニ対シ他ノ「ヴィザ」ヲ受クルコトヲ要セスト為シ居レルコト

㈡quota immigration ト non-quota immigration トノ区別及名称ヲ撤シ移民ハ一様ニ「クォータ」ニ数ヘラルルコトトシ唯市民ノ家族ニハ「ヴィザ・サーティフィケート」発給ニ付優先権ヲ得セシムルコト

㈢非移民ノ種類ヲ keihoo（?）拡張ス

㈣「クォータ」ノ計算方法ヲ異ニスルコト

㈤入国ヲ禁セラルル移民ハ適当ノ「ヴィザ・サーティフィケート」ヲ有セサルモノ及移民法規上入国ヲ許可サレサルモノ丈トシ帰化不能外国人入国禁止ニ関スル規定ヲ設ケサルコト

㈥移民ノ定義及帰化不能外国人ニモ適用スル趣旨ナルコト等ナリ

（乙）前記諸点其他ニ関スル重ナル条項ノ内容左ノ通

㈠米国領事館ハ immigration visa certificate ヲ発給ス（「ジョンソン」法案ノ immigration certificate ト内容大体同シ）右「サーティフィケート」ハ各国割当「クォータ」ノ数以上発給スルヲ得ス毎月ノ発給数ハ「クォータ」ノ十二分ノ一以内トス但「クォータ」カ三百名以下ノ国ニ付テハ移民長官ニ於テ毎月ノ発給数ヲ定ム「サーティフィケート」以外ニハ其旅券ニ何等他ノ「ヴィザ」ヲ受クルコトヲ要セス

㈡移民ノ定義中「ジョンソン」法案第三条ニ掲クル五種類ノ非移民（往電第七八号㈠ノ乙）ノ外ニ

㈠再入国者（再入国許可証ニ付テハ「ジョンソン」法案ノ規定ヲ其儘存置ス）

㈡条約ノ規定ニ依リ入国スルヲ得ルモノ

㈢加奈陀、「ニューファウンドランド」、墨西哥、玖馬、「ハイチ」、「ドミニカン」共和国、中南米諸国、中央亜弗利加及南米ニアル欧州諸国ノ殖民地及保護国西印度其他米国本土付近ノ島嶼等ニ生レ且其市民タルモノニシテ米国ニ帰化スルコトヲ得ルモノ及其妻子ヲモ非移民ト為シ更ニ別ノ一項（第三条第二項）ヲ設ケテ「非移民ノ親族ト雖其本人自身カ非移民ニアラサルトキハクォータノ制限ヲ受クヘク又移民ニ関シ若クハ移民禁止ニ関スル他ノ法律ノ適用ヲ受ケサルモノト雖本法ニ依リ所謂移民ナルトキハクォータノ制限ヲ受ク」ヘキ旨定ム（此点原文左ノ如シ）

No person who himself is not any of the exceptions specified in this section shall be excepted from the quota restrictions created by this Act by reason of his relations to any person who is so excepted or by season of being excepted from

the operation of any other law regulating or forbidding immigration.

然シテ第四条ニ於テ米国ニ居住スル米国市民ノ子（二十一歳以下ニテ未婚者）父母（五十歳以上ノモノ）夫及妻ニ対シテハ「ヴィザ・サーティフィケート」発給ニ付優先権ヲ与フル旨定ム

㈢「クォータ」ハ曩ニ電報セル「リード」修正案ト同様ナリ

㈣移民ハ有効ナル「ヴィザ・サーティフィケート」ヲ所持スルモノ若クハ該「サーティフィケート」ノ交付ヲ受ケタル後ニ生レタル子ニシテ「サーティフィケート」ニ記載スル国籍ノモノニ相違ナク且其他ノ点ニ付移民法上入国ヲ許サルヘキモノニアラサレハ入国スルヲ得ス正当ニ入国ヲ許サレタルモノニシテ常時屢々国外ニ出入スルモノハ入国ノ都度「ヴィザ・サーティフィケート」ノ交付ヲ受クルノ要ナク別ニ定ムル規定ニ依ラシム（帰化不能外国人ニ関スル規定ヲ削除セリ）

㈤非移民ノ内往電第七八号㈠ノ乙ノ㈡㈥㈡ニ掲クルモノニ付テハ一定ノ滞米期間ヲ定メ且終局ノ離米ヲ保証スルニ足ルヘキ条件（「ボンド」ノ提供等ヲ含ム）ノ下ニ入国ヲ許ス旨ノ規定アリ

㈥海員ニ関スル「ジョンソン」法案第十八条第十九条第二十条（往電第七八号参照）等ハ其儘存置セラレ尚其他大体「ジョンソン」法案ノ条項ヲ残シ居レリ

桑港ヘ転電シホノルルヲ含ム沿岸各領事ニ転電セシム

一五　三月一日（着）　在米国埴原大使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

上院移民委員会ノ動静及ビ下院ニ於ケルジョンソン法案ニ対スル意向ニ付キ報告ノ件

第一三六号

上院移民委員会ハ二月二十八日ノ会議ニ於テ

㈠移民法案ノ上院ニ於ケル審議ヲ迅速ナラシムル為「ジョンソン」法案ノ下院ヨリ廻付セラルルヲ俟タス上院移民委員会ニ於テ小委員会ヲ設置シ「リード」法案（往電第一二八号）ヲ基礎トシテ新法案ヲ起草セシムルコト（小委員会ニハ委員長ニ Reed「ミゾリ」選出民主党――委員ニ Colt「ロードアイランド」選出共和党――King「ウタ」選出民主党――Copeland 紐育選出民主党――ヲ指名セリ）

㈡「クォータ」ハ一九一〇年「センサス」ニ表ハルル米国本土居住外国人数ノ二％ニ各百（一〇〇）ヲ加ヘタル数トスルコト及帰化数ノ割合ニ応シ更ニ四％ヲ加算スル案ハ採用セサルコト（前記案ニ依リ日本カ「クォータ」ニ含メラルルコトトナラハ日本ニ対スル「クォータ」ハ一四五二名ト成ルヘシ）

一九一〇年「センサス」米国本土居住日本人数二二一五七名外ニ朝鮮人四六二名ナリ

㈢三月八日 public hearing ヲ開キ各方面団体ノ意見ヲ聴取ス尚三月十一日同シク「パブリック・ヒアリング」ヲ開キ「カリフォルニア」州諸団体ノ代表者ノ意見ヲ聴取スルコトニ決定セル趣ナリ

㈣当館諜報者ノ報告ニ依レハ下院「ジョンソン」ハ各方面ヨリノ反対ニ鑑ミ此際同氏法案ニ相当ノ修生ヲ加フルニ非サレハ下院ノ通過困難ナルヲ痛感シツツアルモ其ノ修正ノ程度方法等ニ付惑ヒ居ル趣ニテ二月二十八日同氏カ諜報者ニ内密洩セル処ニ依レハ三月四日委員会ヨリ（脱）召集シ此際寧ロ原「ジョンソン」案ヲ取止メ更ニ新ナル法案ヲ起草シ議会ニ提出センコトヲ提案スル内意ナル由而シテ「ジョンソン」ハ此新法案中国務長官修正案其ノ他ノ反対意見ヲ成ル可ク取入ルルコトトシタキ考ナルカ帰化不能外国人ニ関スル条項ハ飽迄モ削除ノ意思ナク「クォータ」ノ基礎ハ一八九〇年「センサス」ヲ採用スルコトニ付テハ同意ヲ得難シト思ハルル旨語リ尚上下両院移民委員会ノ意見ハ「クォータ」ノ点ヲ初メ甚タシク懸隔スル処アルニ鑑ミ両委員会ノ非公式合同会議ヲ開キ両者ノ接近ヲ図ルコトニセンカトモ内々考ヘ居ル由語レル趣ナリ

本電ハ桑港総領事ニ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ郵送セシム

一六　三月四日（着）　在米国埴原大使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

上院移民委員長コルトノクォータ其ノ他法案ニ対スル意向ニ付キ報告ノ件

第一四四号

往電第一三六号ニ関シ

上院移民委員長タル「コルト」ハ二月二十八日ノ同委員会

会議前委員等ノ参考トシテ数度「ジョンソン」移民法案ニ対スル意見書ヲ配付シ（該意見書ハ下院並ニ政府筋ヘモ配付セラレタル趣ナリ郵送ス）タル趣ナルカ同意見書ハ一八九〇年「センサス」ニ「クォータ」ノ基礎ヲ置クコトノ不可ナルヲ力説スルモノニシテ

㈠「クォータ」ニ依ル移民制限ノ方法ハ元来優良移民選択ノ目的トハ何等関係ナキモノナルコト

㈡一八九〇年「センサス」ニ「クォータ」ノ基礎ヲ置クコトハ啻ニ前記目的ヲ達成セサル而已ナラス南部及東部欧州諸国ニ対スル差別的入国禁止ヲ実行スル結果トナルコト

㈢移民問題ハ国内問題タルト共ニ国際問題タルヲ免カレス従テ前記ノ如キ差別待遇ハ外国政府ヲシテ重大ノ利害関係ヲ感セシメ又国内各人種間ノ人種的感情ヲ刺戟シ却テ其同化ヲ困難ナラシムルコト

㈣東部南部欧州移民ノ入国ハ他ノ欧州移民入国ニ比シ遅レ居ルヲ以テ其帰化数割合ノ比較的少ナルハ当然ニシテ単ニ之レ而已ヲ以テ同化困難ヲ論スルハ早計ナルコト最近之等移民ノ帰化出願数ハ他ノ移民ノ出願数ニ比シ其割合寧ロ多キコト

等ヲ指摘シ之等ノ事実ニ鑑ミ此際現行法ヲ改メテ更ニ差別不平等ノ「クォータ」法ヲ制定スルハ果シテ賢明ノ政策ト謂ヒ得ヘキヤトノ趣旨ヲ述ヘ居レリ二月二十八日ノ同委員会決定ハ大体右意見ニ基キタルモノナルハ明カニシテ小委員会ノ新法案起草モ大体此意見ニ依リ実行セラルヘシト考ヘラル尚右意見書ハ帰化不能外国人ニ付テハ直接論及スル所ナキモ同新法案起草ノ基礎トシテ採用セル「リード」法案ハ此点ニ関シ全然国務長官ノ意見ヲ採用シ居ルコト既報ノ通ニテ今ノ所ハ委員会カ此点ニ付キ方針ヲ変改スルノ虞アルカ如キ情報ヲ聞カス

本電ハ在桑港総領事ニ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ郵送セシム

一七　三月五日（着）　在米国埴原大使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

下院ニ於ケル移民問題ノ討議ニ付キ報告ノ件

第一四七号

往電第一三五号中三月一日下院ニ於ケル移民問題ニ関スル討議ノ詳報左ノ通

同日下院ニ於テ「ワシントン」市警察官ノ給与ニ関シ同院委員会開催中「オハヨー」選出共和党議員Cableハ議題ト直接関係無キ移民問題ニ論鋒ヲ移シ該問題ニ関連シテ foreign bloc トモ名付クヘキ外国系米国人ノ集団ヲ生シ政治上大ナル勢力ヲ示シ而モ本問題ノ如キ国家的重要問題ヲ政派問題化セシメツツアルハ憂フヘキ現象ナリトテ右集団ノ活動状況ヲ声明シ「ジョンソン」法案ヲ否決セントスル議会内外ノ運動ヲ攻撃シ所謂 foreign bloc ノ独リト目セラレ居ル Sabath（往電「ジョンソン」案ニ対スル委員会少数意見提出者参照）等ト議論ヲ闘ハシタルカ右討議中

㈠「ケーブル」ハ只ニ外国系米人ノミナラス世界ノ各国人ハ挙ッテ「ジョンソン」法案ヲ葬リ去ル事ニ努メツツアリトテ「日本ハ米国ニ対スル商品注文二億弗ヲ取消スニ至ルヘシ該法案ハ外国政府及外国系米人ノ加ヘツツアル威圧ノ結果其ノ通過乃至成立ヲ妨ケラレ少クモ大修正ヲ加ヘラルヘシ」トノ新聞記事其他該法案カ其儘通過セハ次期選挙ニ際シ紐育其他ノ州ハ民主党ニ投票スヘシ等ノ記事ヲ指摘シ尚国務長官カ該法案ニ反対スルニ至レルハ之等ノ威圧宣伝ニ基クモノナリヤトノ民主党一議員ノ質問ニ答ヘテ「予ハ同長官ヲ尊敬スルモノナリ但日本労働者ノ入国ヲ許サントスル同長官ノ提案ニハ同意スルヲ得ス」ト答ヘ又国務長官ノ声明ハ該法案ノ成立ヲ妨クルニ至ルヘキヤトノ前記議員ノ質問ニ対シ移民委員長「ジョンソン」之ヲ引受ケ移民委員会ハ若シ余暇アラハ同長官修正意見ノ内行政手続ニ関スル点ニ就テハ或ハ之ヲ採用シテ修正ヲ加フヘキモ移民政策上ノ点ニ関シテハ飽迄現在ノ案ヲ固執シ議場ニ於テ其ノ可否ヲ争ハントスト答ヘタリ続イテ「ケーブル」ハ今度ハ事ノ序ニ「ジョンソン」法案ノ内容ニ亘リテモ説明ヲ試ミ該法案ヲ可決実行スルノ必要ナル事ヲ力説シタルカ其ノ内帰化不能外国人ハ入国セシムルヲ得ス何ントナレハ米国ニハ市民タル義務責任ヲ負担シ得サル住民ヲ入ルルノ余地無キヲ以テナリト述ヘタリ

㈡右討論ヲ通シ多少ノ弁論ヲ試ミタル議員ハ多クハ「ジョンソン」案ヲ支持セントスル口吻ヲ示シ「ケーブル」ノ議論ニ対シ熱心反駁セルハ Sabath アリタルノミ同人ハ討論中国務長官カ「ジョンソン」案ハ条約ニ抵触シ且差別的立法ナル事ヲ指摘セルハ職務上忠実至当ノ措置ナル事ヲ述ヘタルカ之ニ関連シ民主党一議員ヨリ大統領モ差別不平等ノ

移民法ニハ反対ナル旨人ニ語レル旨数日前新聞ニ伝ヘラレタル事ヲ特ニ指摘セリ（因ニ大統領ハ数日前猶太人団体代表者ニ会見シ右ノ如キ言明ヲ為シタル趣ナルカ新聞社ハ余リ興味ヲ持タス之ヲ報道セルモノ少ナカリシ趣ナリ尚往電第百二十五号参照）

一八　三月六日（着）　在米国埴原大使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

移民法案ノ成行ニ付キ報告ノ件

第一五〇号

移民法案ニ関シ当大使館諜報者カ各方面ニ就キ探査セルトコロヲ綜合スルニ左ノ如シ

下院移民委員会ハ「クォータ」ヲ初メ重要ノ点ニ就キ国務長官其他ノ反対意見ニ折合フノ態度ヲ示サス此形勢ニテハ下院ニ於テハ右委員会及一般議員ノ両者ヲ満足セシムヘキ法案ヲ得ルコト頗ル困難ナリ而テ共和党 Floor Leader ハ目下下院ニテ討議中ノ「マッスルショウルス」問題終了セハ soldiers bonus bill 及歳出予算案ヲ上程スル方針ニテ移民法案ハ更ニ後廻トスル方針ヲ執リツツアリ移民委員長「ジョンソン」ハ三月四日諜報者ニ対シ下院ニ於ケル移民法案ハ斯ノ如クシテ容易ニ結着セス其間ニ上院ヨリ現行「クォータ」法施行期間ヲ延長スルノ決議案ヲ下院ニ廻付シ来ルカ如キコトトナリハセスヤト考ヘ居ル旨語レル趣ナリ猶三月四日開会スル筈ナリシ下院移民委員会ハ委員等ノ都合ニ依リ延期トナレル由ナリ

猶「ギューリック」博士ハ最近移民ノ「クォータ」ニ関シ大体左ノ如キ意見ヲ上院移民委員会ニ書送リタル趣三月四日ノ紐育「タイムス」ニ報セラル「クォータ」ノ基礎ハ

(一)帰化数ト米国生レ児童数（但両親ノ内孰カカ米国生レノモノタル場合ニ限ル）トヲ加ヘタル数トスルコト

(二)右計数ハ最近年次ノ「センサス」ニ基クコト

(三)移民法ハ「クォータ」ニ関シ大体方針ヲ規定シ其実際ノ数ハ毎年度ノ状況ニ応シ Immigration Board ヲシテ決定セシムルコト

因ニ右意見ハ左シテ重キヲ置カルヘシトモ思ハレス

桑港ヘ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ヘ転送セシム

一九　三月九日（着）　在米国埴原大使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

上院移民小委員会リード法案ニ修正ヲ加ヘタル草案作成ニ付キ報告ノ件

第一五八号

上院移民委員会小委員会ハ三月六日迄ニ一応ノ草案ヲ書上ケタル趣ニテ移民委員会ハ之ニ基キ更ニ審議スルコトトナルヘク尚三月八日ノ「ヒヤリング」ニモ之ヲ用フル由

右草案ハ「リード」法案（往電第一二八号）ニ左ノ修正ヲ加ヘタルモノナリ（主ナル点ノミヲ掲ク）

(一)移民ノ定義中

(イ) business 若クハ遊覧ノ為メ一時入国スルモノトアリタル原案ヲ business, study 若クハ遊覧ノ為メ云々ト改ム

(ロ)「条約ノ規定ニ依リ入国スルヲ得ルモノ」ヲ削除ス

(ハ)往電第一二八号中(乙)(二)ノ(ハ)ニ掲クル地名ノ内「西印度其他米国本土付近ノ島嶼」ヲ削除シ又「且其市民タルモノニシテ」トアル一句ヲ削除ス

(二)往電第一二八号中(乙)ノ(二)末段記載第四条中「米国ニ居住スル」ノ字句及「父母」ヲ削除ス

(三)各国ニ対スル「クォータ」ハ千九百十年「センサス」ニ示サルル Continental United States 居住外国生レ当該外国人数ノ二「パーセント」トス但一国ニ対スル「クォータ」ノ最小限ハ百（一〇〇）トス

The annual "quota" of any nationality shall be 2 per centum of the number of foreign born individuals of such nationality resident in Continental United States as determined by the United States census of 1910, but the minimum quota of any nationality shall be one hundred.

(四)海員ニ関シ往電第七八号「ジョンソン」法案（二月四日付往信公第一一四号付属書参照）第十八条ニ該当スル条項（二月二十四日付往信公第二〇〇号付属）「リード」原案ノ第十六条ハ其儘存置シ第十九条ニ該当スル条項（「リード」原案第十七条）ハ全部削除シ第二〇条a項該当ノ項（「リード」原案第二〇条a項）中ヨリ landing card ニ関スル文句ヲ削除シ同条b項（「リード」原案同条b項）ヲ全部削除シテ其代リニ「移民官ハ船舶ノ出港ニ際シ該船舶ノ碇泊中其乗組海員ニ移動ヲ生シタルヤ否ヤヲ検査スヘク右検査終了迄船舶ノ出港ヲ許ササルコト

ヲ得」トノ趣旨ニ改ム尚以下各条項中「ランディング・カード」ニ関スル語句ヲ削除

㈤船舶ノ違法行為処罪ニ関スル千九百十七年ノ法律修正ニ関スル「ジョンソン」法案第二十六条ニ該当スル条項（「リード」原案第二十三条）ヲ全部削除シテ其代リニ長文ノ条項ヲ設ケ居レリ

㈥「リード」原案第二十八条

Boards of special inquiry　ニ関スル千九百十七年移民法第十七条修正ニ関スルモノヲ削除ス（二月七日）

右修正全文郵送ス

本電ハ桑港ヘ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ転送セシム

二〇　三月十一日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

リードハ修正案ヲ上院ニ提出セル件

第一六二号

上院議員「リード」ハ自己提出ノ移民法案ニ対シ左記ノ点ヲ主トスル修正案ヲ三月六日上院ニ提出シタリ右修正案ハ移民委員会ニ付託セラレス「リード」移民法案カ他日上院ノ議事ニ上リ討議セラレタル際之ニ対スル修正案トシ併セテ討議セラルルコトトナレリ「リード」ハ右提出前同趣旨ノ修正意見ヲ上院移民委員会ニ諮リタルモ其容ルル処トナラサリシヲ以テ前記ノ如キ手続ニ出テタルモノナリト云フ

After July 1, 1926, the maximum total number of immigrants that shall be admitted into the United States in each fiscal year shall be three hundred thousand.

After July 1, 1926, the annual quota of each nationality shall bear the same ratio to said maximum total number of immigrants as the number of inhabitants of the United States having that national origin shall bear to the whole number of inhabitants other than the descendants of involuntary immigrants.

（因ニ本修正案ノ他ノ文句ニ顧ミ United States トアルハ Continental U. S. ノコトト推セラル）全文郵送ス

桑港ヘ転電「ホノルル」ヲ含ム沿岸領事ヘ転送セシム

二一　三月十二日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

上院移民委員会ヒアリングノ模様ニ付キ報告ノ件

第一六四号

三月八日上院移民委員会「ヒヤリング」ニ於テ意見ヲ述ヘタル者十二名ナルカ主ナルモノ左ノ通ニテ特ニ日本ニ関係アル点ニ付テハ何等議論ヲ見サリキ

市俄古市会（Common Council of Chicago）代表者ハ「ジョンソン」移民法案乃至同類似ノ法案ニハ反対ナル旨述フ North Carolina ニ於テ従来同地方農業移民ノ移入ニ関係深カツタ某ヨリ南部諸州ニ於テハ優良ナル農業労働者ノ需要大ニシテ之ニ応スヘキ適当ノ移民法ヲ要求スル旨ヲ述フ海運業関係代表者ヨリ不正移民予防ニ対スル罰則其他船会社関係ノ諸般手続上ノ事項ニ関シ詳細ノ修正意見ヲ述ヘ移民委員等ノ傾聴ヲ博シタリ伊太利人利益代表者ヨリ米国市民ノ家族ハ「クォータ」外トシテ入国ヲ許スヘキ事ヲ求ム下院移民委員ノ一人タル Dickstein モ此点ニツキ「リード」法案ノ修正ヲ「サジェスト」ス猶太人利益代表者ヨリ移民ニ関スル調査委員会ノ設置及同委員会調査ノ結果ヲ見ル迄現行法「クォータ」等重要ノ点ヲ改正セサルコトヲ主張ス "New York Tax Payers Association" 代表者ハ「クォータ」法ヲ廃シテ一九一七年ノ移民法ニ立返ルヘシト主張ス紐育ノ "American Civil Liberty League" 代表者ハ「入国ノ権利ノ有無ニ関スル挙証義務ハ移民側ニアリ」トスル条項ハ憲法並普通法ノ根本主義ニ反シ実際ノ行政並司法上ノ手続ニモ先例ナク官憲ノ専断放恣ヲ誘致スル悪法ナル旨述フ

桑港ヘ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ転送セシム

二二　三月十三日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

上院移民委員会ニ於ケルマクラッチー及ビウエッブ等ノ排日論ニ付キ報告ノ件

第一六六号

三月十一日上院移民委員会「ヒヤリング」ハ午前午後ニ亘リ継続行ハレシカ加州代表 McClatchy 及 Webb 両名ノ陳述ニテ終始シ其余ノ者ノ為メ十二日モ引続キ「ヒヤリング」開催セラルルコトトナレリ

McClatchy　陳述ノ要旨ハ西部諸州ハ定住ノ目的ヲ以テ来

ル日本移民ノ絶対的入国禁止ヲ要求スルモノニシテ「クォータ」ヲ日本移民ニモ適用スル案其他前記ノ主義ニ反スル法案ニハ大ナル反対者ヲ有スト云フニ在リテ同人ハ紳士協約カ日本移民渡来防止ノ目的ニ付失敗ニ了リツツアルコトヲ統計ヲ挙ケテ説明シ該協約成立ニ際シ「ルーズヴェルト」ハ若シ将来紳士協約ノ実施ニ拘ハラス依然日本移民ノ入国ヲ見ルカ如キ事実アラハ合衆国ハ法律ヲ以テ其入国ヲ禁止シ得ヘキコト勿論ナル旨声明セル事実アルコトヲ指摘シ（此点ニ付キ千九百九年二月九日付「ルーズヴェルト」大統領発加州議会宛電信其他ヲ朗読ス）今ヤ「ルーズヴェルト」カ当時留保シ置キタル此権利ヲ実行スヘキ（脱）到来セルモノナリト述ヘタリ移民委員「リード」ハ McClatchy ニ対シ「クォータ」ヲ日本人ニ適用スルコトハ紳士協約ニ依ル一切ノ制限ノ上ニ更ニ「クォータ」制限ヲ二重ニ加ヘテ日本人ノ入国ヲ取ルニ足ラヌ僅少ノ数ニ限定セントスルモノナルコト殊ニ若シ紳士協約ヲ仮リニ廃止ストセハ墨西哥等ヨリ密入国スル日本人ノ如キハ到底取締ノ途ナキコトヲ指摘シ尚一年ニ僅カ三百乃至一千数百ノ日本移民ヲ入国セシムヘキヤ否ヤノ問題ノ為メニ日本トノ友誼ヲ害フカ如キコト有ルハ頗ル遺憾ナリト述ヘ McClatchy ハ日本人ヲ「クォータ」ニ入ルルコトハ第一帰化不能外国人ハ定住移民トシテ入国セシメストノ合衆国従来ノ主義ニ違反シ第二ニ「クォータ」ヲ日本人ニ適用スルコトハ即チ日本人ヲ州人ト平等ニ取扱フコトニシテ此結果延ヒテハ日本人ニモ将来帰化権ヲ与フルト云フ所迄進マシムル虞アリ第三ニハ米国ニ於ケル日本人ハ此結果益々増加シ西部ニ於ケル日本人ハ白人ノ人口ヲモ凌駕スルニ至ルヘシトノ趣旨ヲ述ヘ西部諸州ニ於ケル日本人ノ所謂 peaceful penetration ニ付キ移民及出生ニ依ル人口増加率ノ大ナルコト経済的発展力ノ大ナルコト等ヲ説明シ又日本人ノ同化不能ナルコト殊ニ二重国籍問題ヨリ生スル種々ノ事実ヲ指摘シテ日本人ハ米国ニ生レタルト否トニ拘ハラス日本国法上日本政府ニ忠誠ヲ強要セラレツツアルコト日本移民ノ海外移殖ハ日本ノ国是ニシテ日本ハ大和民族ノ殖民地ヲ米国ニ建設スルコトヲ目的トスルニ外ナラス日本移民ハ之ヲ要スルニ忠良ナル米国市民トナルノ意思毫モ無キ而已ナラス仮リニ其意思ヲ抱クモノアリトスルモ人種上ノ相違ノ結果事実ニ於テ米国ニ同化スルコト不可能ナリトノ趣旨ヲ述ヘタリ委員ノ一人ナル King（「ユタ」選出民主党）ハ布哇ニ於テ同氏ノ邂逅セル同地生レ一日本人青年トノ会談ノ事実ヲ叙シテ米国生レ日本人カ真ニ忠良ノ米国市民ヲ以テ自ラ任スルニ拘ハラス白人ハ之ニ対シ米国市民トシテノ正当且衡平ナル待遇ヲ与ヘサルノ事実存スルコトハ否ミ難キ事実ニシテ此問題ニ関シテハ米国人側ノ態度ニモ罪アルコトヲ知ラサルヘカラストノ趣旨ヲ述ヘタリ「ウエッブ」モ日本永住移民ノ絶対入国禁止ヲ主張シ日本人ノ到底同化シ得ヘカラサルコト其他ニ付キ大体「マックラッチ」ト同様ノ論拠ヲ以テ論述シタルカ同人ハ移民問題ノ如キ純然タル国内問題ニ付キ外国政府ノ容喙ヲ許スカ如キハ絶対ニ不可ナリ然ルニ国務長官ハ日本政府ノ抗議ヲ取上ケテ「ジョンソン」法案ニ対スル修正意見ヲ公表スル如キ措置ニ出テタルハ遺憾ナリト述ヘ国務長官ハ日本トノ国交ヲ顧念シテ右修正案ヲ提唱シタルモ西部ニ於ケル日本人現在ノ如キ発展ヲ其儘放置センカ将来日米国交ハ却テ一層大ナル危険ニ陥ルヘシトテ西部ニ於ケル日本人口ノ増殖並ニ経済的発展ハ軈テ日本人問題ヲシテ同地方而已ナラス米国全体ノ大問題ト化シ之ヲ動機トシテ日米間ニ重大ノ事端ヲ発スル虞アリ而シテ一朝日米相戦ハンカ在米日本人ハ米国生レタルト否トヲ問ハス挙ッテ日本ノ為メニ戈ヲ執ルヘキハ必然ナリトノ趣旨ヲ述ヘタルカ委員長「コルト」ハ国務長官ノ措置ヲ弁護シ国内問題ニ外国政府ノ干渉ヲ許サストノ理論ニハ異議ナキモ各種具体問題ノ処理ニ当リ国家間ノ友誼ヲ無視シテ敢テ顧ミサルカ如キハ果シテ妥当ト謂ヒ得可キヤ此種問題ハ単ナル理論ヲ以テ論スルコトヲ得サル性質ノモノナリトノ趣旨ヲ述ヘタリ詳細ノ点ハ追報スヘシ

桑港ヘ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ転送セシム

二三　三月十六日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

上院移民委員会ヒアリングニ於ケル日本人排撃論ヲメグル論争ニ付キ報告ノ件

第一七五号

三月十二日上院移民委員会 hearing ニテ陳述セル者六名ナリ（内五名ハ宗教団体代表者ナリ）

「ヒヤリング」ハ十三日モ引続キ開会シ加州代表「フィーラン」陳述セリ十二日「ヒヤリング」ノ劈頭委員長「コル

ト」ハ十一日桑港商業会議所ヨリ同委員長宛ニ『同会議所ハ帰化不能外国人ヲ米国ニテ移住セシムルノ不可ナルコトヲ信スルモ此ノ目的ハ立法手段ニ依ラスシテ条約ニ依リ達成スヘキモノト考フ外国ニ対シ与ヘタル既得権ハ立法ニ依リ之ヲ奪フコトヲ得ス入国禁止ハ円満ナル国際協約ニ依リ最良ク実行スルヲ得』トノ趣旨ノ電信到着セルコト及同シク十一日付ニテ同委員長ニ宛テ国務長官ヨリ『日本ニ「クォータ」ヲ適用セヨトノ自分ノ修正意見ニ対シ誤解ヲ抱ケル者アルニ付一言ス自分ハ立法手段ニ依リ入国禁止ヲ為シ以テ日本ヲ怒ラセ困難ナル問題ヲ生セシムルヲ欲セス自分ノ指摘セル点ハ「クォータ」ニ依リ入国スル日本人数ハ極メテ僅少ナルコト而シテ「クォータ」ハ紳士協約ト相俟チ二重ノ取締ヲ実行スルコトトナルコト「クォータ」ヲ日本ニ適用スルト否トニ拘ハラス労働者入国禁止ニ関スル協約ハ依然確保スルモノナルコト是等二重ノ取締ニ付日本政府ノ協力ヲ得ハ立法手段ニ依ルヨリモ遙ニ有効ナル入国禁止ヲ実行シ得ヘキコト等ナリ』トノ書面到来セル旨披露セリ「ギューリック」博士ハ Federal Council of Churches, National Committee of American and Japanese relations 等四個ノ基督教団体ヲ代表シ居レル各団体ノ決議書並「ステートメント」ヲ朗読シタル後 Federal Council of Churches 代表者ノ資格ヲ以テ意見ヲ述ヘタルカ前記数個ノ決議書及陳述書ノ要旨ハ『「ジョンソン」法案ヲ実施スルコトトナラハ米国ハ日本ト何等協議スルコトナクシテ同国トノ通商条約及紳士協約ヲ勝手ニ廃棄スルコトトナル斯ル不信義ノ措置ニハ反対ナリ本問題ハ外交上ノ手段ニ依リ公正ナル解決ヲ計ルヘキモノトス各国人ハ平等公正ニ待遇スヘク帰化不能外国人ニ関スル「ジョンソン」法案ノ規定ハ之ヲ削除スヘキモノナリ』ト謂フニアリ「ギューリック」ノ陳述モ大体右趣旨ヲ敷衍説明セルモノニシテ其間統計其他ノ事実ヲ挙ケテ加州代表者ノ主張及論証ノ事実ヲ反駁シタリ「ギューリック」ハ其陳述中自分等モ日本労働移民ノ入国禁止ノ主義ニハ異論アルニ非ス紳士協約ニハ不満足ノ点アリ之ヲ改訂スルノ要アルコトモ認ム唯其実行方法ニ付正当ナル外交手段ニ依ルヘキモノナルコトヲ主張スルモノナリ日本ハ真ニ日米友好関係ノ維持ヲ希望シ日米間ノ有ラユル問題ハ隔意ナキ商議ニ依リ解決シ得ヘキコトヲ信シ且之ヲ希望シ居レリ日本ハ紳士協約ニ違背シ年々多数ノ

移民ヲ送リツツアルトノ加州代表者ノ言ハ事実ヲ誣フルモノナリ米国ニ於ケル日本人口ノ増加ハ紳士協約上入国シ得ル米国在留日本人家族ノ入国ト出産トニ原因スルモノニシテ新渡航労働者ノ入国ニ基クモノニ非ス日本ニ対スル米国側攻撃中日本ハ紳士協約ニ違反シツツアリトノ攻撃程日本国民ヲ激昂セシムルモノナシトテ日本カ紳士協約ヲ忠実ニ実行シツツアルコトヲ統計其他ノ事実ニ依リ陳述シタリ委員長「コルト」ハ「ギューリック」ノ陳述中言葉ヲ入レ加州代表者ヲ顧ミテ「ギューリック」等ノ主張ハ桑港商業会議所ノ前記電信ノ趣旨ト符合スルモノナリト述ヘタリ次ニ仙台東北学院長「シュネイダー」ハ日本ニ於ケル基督教宣教師ノ一人トシテ「ギューリック」同様ノ趣旨ヲ述ヘタルカ其内日本人ハ同化不能ナリトノ非難ヲ反駁シテ思想上心理上日本人カ極メテ同化性ヲ有スルコトノ実例ヲ述ヘ又日本官憲カ米国向旅券発給ニ付極メテ厳重ナル手段ヲ執リツツアル実況ヲ述ヘタリ宣教師「ボールズ」ハ永年日本ニ在住シ日本ヲ熟知スル者ノ一人トシテ加州代表者ニ依リ叙述セラレタル日本及日本人ハ自分ノ知レル真ノ日本トハ甚タシク相違ストテ最近日本ニ於ケル民主的思想其他一般文化発達ノ状況ヲ詳述シ現代日本人ノ政治上並社会上ノ理想ハ欧米諸国ニ於ケルト何等異ナル所ナキコトヲ叙述シテ日本人カ根本的ニ欧米人ト相容レサル感情及理想ヲ有ストノ攻撃ハ無謀ノ甚シキモノナル旨述ヘタルカ委員長「コルト」ハ日本ノ普通選挙運動ニ関シ種々質問シタリ「ボールズ」ハ更ニ進テ種々ノ難問題ヲ生シタル日米間ノ歴史ニ於テ日本ノ識者カ常ニ米国化スルノ態度ヲ持シ来レルコトハ著名ノ事実ナルカ「ジョンソン」法案ヨリ起レル当面問題ニ付テモ日本（脱）東洋人ニモ結局帰化権ヲ与フルコト至当ナルコト等ヲ述ヘタルカ委員長ハ言ヲ挿ミテ米国ニ於ケル各国人雑居ノ状況ハ古代羅馬ニ於ケルト相似タルモノナリ羅馬カ各人種ノ特有ノ文物思想ヲ抱擁スルノ政策ニ依リ数百年ノ泰平ト文化ノ発達トヲ贏チ得タル史実ハ吾人ノ参考ニ資スルニ足ルトノ趣旨ヲ述ヘタリ Foreign Policy Association 代表者（該団体ハ他ノ宗教団体ト関係ナシ）モ「ジョンソン」法案施行ニ依リ日本トノ条約ヲ廃棄スルノ措置ハ所謂加州問題等ノ如キ局部的問題ニ非スシテ国際信義ニ関スル重大問題ナルコトヲ指摘シ又同団体ノ調査ニ依ルモ日本カ紳士協約ニ違背シツツアリトノ充分ノ証拠ヲ発見セス

ト述ヘタリ十三日「ヒヤリング」別電ス

桑港ヘ転電「ホノルル」ヲ含ム沿岸領事ニ転送セシム

二四　三月十六日(着)　在米国埴原大使ヨリ松井外務大臣宛(電報)

上院移民委員会ヒアリングニ於ケル加州代表フィーランノ陳述其ノ他ニ付キ報告ノ件

第一七六号

第一七五号別電

三月十三日上院委員会 hearing 加州代表「フィラン」陳述要旨左ノ通

「フィラン」ハ先ツ十二日委員長ノ披露セル桑港商業会議所ノ電信ハ加州一般米人並該会議所会員一般ノ感情ヲ裏切ルモノニシテ会議所役員カ果シテ斯ノ如キ声明ヲ為スノ権限ヲ得タルヤ否ヤヲ疑フ旨ヲ述ヘテ本論ニ入リ「マクラッツ」等ト同様ノ論法ヲ以テ日本移民入国禁止立法ノ必要ナル所以ヲ述ヘタルカ其ノ所論ノ紳士協約カ米国ニトリ有効ノ働キヲ為ササル最大ノ原因ハ米国ニ入国シ得ヘキ者ナリヤ否ヤヲ判定スルノ権利ヲ全然日本側ニ与ヘタル点ニ存ス日本ハ之ヲ利用シ該協約ノ精神ヲ無視シテ年々多数ノ労働

的移民ヲ入国セシメツツアリ此点ニ関連シ所謂在留者ノ家族ト称スル者ハ実質ニ於テ労働者ト選フ所ナキモノナル事ヲ述ヘタリ米国ハ紳士協約ニ依リ自国ニ属スル権限ノ一部ヲ日本ニ譲与セルニ外ナラス日本移民ノ入国ヲ禁止スル最モ有効ナル手段ハ此国権ヲ恢復スルニアリ日本ニ「クォータ」ヲ適用シ欧州人ト平等ノ待遇ヲ与ヘヨトノ「ヒューグ」ノ意見ハ加州民カ日本移民ヲ排斥シツツアル根本ノ理由ニ対シ正面ヨリ挑戦スルニ等シキ提案ナリ何トナレハ米国ハ既ニ日本人ニ帰化権ヲ拒ミ之トノ雑婚ヲ否定シ其米国内定住ヲ好マス一言ニシテ謂ヘハ白人ト平等ノ待遇ヲ与ヘサル事ヲ確定ノ方針トシ居レリ

又巴里平和会議ニ於テモ日本人種平等案ハ拒絶セラレタル歴史ヲ有ス然ルニ日本ハ白人トノ平等待遇獲得ノ為メ機会アル毎ニ努力シツツアルモノニシテ「ヒューグ」提案ノ如ク「クォータ」適用ノ一点ヲ日本ニ譲ラハ其ノ結果那辺ニ至ルヘキヤ計リ知リ得ヘカラスト云フニアリ

前記紳士協約ニ関スル議論ニ際シ移民委員「キング」ハ日本カ自発的ニ自国民ノ渡米ヲ禁スルコトヲ約シタルハ寧ロ日本側ノ譲歩ト云フヘキニ非スヤト言ヲ挾ミ委員長「コルト」ハ「フィラン」ノ述フル目的ヲ達スル為メノ具体的手段トシテ「フィラン」ハ日本ト商議スルコトナク「ジョンソン」法案ヲ実行スルコトヲ可トスルヤ将タ国務省ヲシテ日本ト商議セシムルノ余地ヲ存スルノ方法ニ出ツルヲ可トスルモノナリヤト質問シタルカ「フィラン」ハ「ジョンソン」法案ハ紳士協約ノ制限ヲ其儘「リアファーム」スルニ過キサルモノニシテ新タナル制限ヲ含ムモノニ非ス等ノ言ヲ以テ答ヘタリ又「フィラン」カ加州方面ニ於ケル日本農業者発展ノ状況ヲ説明シ野菜市場等カ日本人ニ依リ支配セラレ居ルコトヲ述ヘタルニ対シ移民委員「ウィリアム」ハ果シテ右ノ如クナレハ此等日本人ヲ駆逐セハ経済上如何ナル影響ヲ生ス可キヤト質問シ又委員「キング」ハ日本農業労働者ニヨリ其レ程多クノ農作地開拓セラレタルコト事実ナラハ日本移民ハ加州ニ害ヲ与ヘタリト謂フヨリモ寧ロ貢献スル所アリタリト謂フヲ得サルヤト質問セリ

詳細ハ追報スヘシ

桑港ヘ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ転送セシム

二五　三月十六日(着)　在米国埴原大使ヨリ松井外務大臣宛(電報)

上院移民委員会ヒアリングニ於ケルショートリッヂノ排日論及ビコルト委員長、シールズノ反問等ニ付キ報告ノ件

第一八三号

三月十五日上院移民委員会「ヒヤリング」ニ於テ「ショウトリッヂ」ハ「マクラッチ」等加州代表ノ陳述ハ真ニ国家ヲ憂フルノ余リニ出スルモノニシテ其論述セル事実ニ何等偽リ無キモノナルヲ以テ議会カ之ニ充分ノ考慮ヲ払ハンコトヲ望ム旨述ヘテ彼等主張ノ要旨ヲ繰リ返シ陳述シタルカ同人ノ最力説セル要綱ハ日本ヲ欧州人ト平等ニ待遇シ「クォータ」ヲ之ニ適用スルコトハ将来日本人ニモ市民権ヲ賦与スルニ至ラシムル第一歩ナリ

米国ハ已ニ百数十年前有色人ノ帰化ヲ認メサル方針ヲ確定シタリ是レ当時ノ為政者カ共和政体ハ真ニ国ヲ愛スルコトヲ知リ且人種的ニ優秀ナル市民ヲ以テスルニアラサレハ其発達維持ヲ期シ得ヘカラサルコトヲ洞察セル結果ニ外ナラス「クォータ」問題ハ実ニ此国家的大政策ノ根本ニ触ルル

大問題ナルコトヲ忘ルヘカラス更ニ「ジョンソン」法案ニ含マルル条項ハ何レモ米国議会及大統領ノ立法権内ニ属スル事項ニ属シ日米間条約トモ関係ハ有ルモ立法ヲ以テ条約ヲ変更シ得ルコトハ先例ニ乏シカラス「ジョンソン」法案ハ何等英国ヲ怒ラセサルト同シク日本ヲ怒ラシムル理由ナキモノナリ帰化不能外国人ノ米国ニ於ケル人口カ現在ノ如キ勢ヲ以テ増加シツツアルコトハ国家ノ安寧ニ大害アリ又白人ハ経済的ニ日本人ト競争スルコトヲ得ス日本移民ヲ有効ニ排斥スヘキ時ハ当ニ到来シタリ議会ハ日本トノ関係ヲ恐ルルコトナク「ジョンソン」法案ヲ成立セシメンコトヲ希望スト謂フニ在リタリ「ショウトリッヂ」ハ其陳述中委員長其他ノ委員ニ依リ屢々妨ケラレタルカ「ショウトリッヂ」カ米国ニ「ネグロ」ヲ輸入シタルハ大ナル失策ニシテ「ネグロ」問題ハ米国ノ難問題ナル旨論スルニ際シ委員Shields（「テンネッセー」選出民主党）ハ南部諸州ハ黒人問題ヲ極メテ円満ニ解決セラレタリ黒人ハ吾人ト共ニ平和ノ半生ヲ楽シミツツアリ八万ノ日本人ハ加州方面ニ在リテ米国ニ貢献シツツアラスヤ何故ニ加州人ハ南部諸州カ黒人問題ヲ円満ニ解決シツツアルト同シク日本人問題ヲ円満ニ解決シ得サルヤ適切ナル説明ヲ聞キタシト質問シ又委員長ハ日本ニ「クォータ」ヲ適用スルコトハ延テ帰化権問題ニ及フコトノ極メテ「ポッシブル」ナルコトヲ認ム乍然帰化不能外国人ノ多数渡来セルコトハ最近ノコトニ属シ日本人問題ハ米国移民史上新ラシキ問題ナリ米国ハ古キ時代ニ於ケル困難ナル移民問題ヲ「アメリカニゼーション」ノ方法ニ依リ満足ニ解決セリ

然ラハ新タニ生シ来レル帰化不能外国人問題ニ対シテモ暫ク同様ノ方法ニ依リ解決ヲ試ムルコト何故ニ不可ナリヤト質問シ Shields モ口ヲ添ヘテ同様ノ質問ヲ為セリ

「ジョンソン」法案ニ就キ日本ハ何等抗議スヘキ理由ナシトノ議論ニ対シ委員長ハ議会カ立法ニ依リ条約ノ実質ヲ変更シ得ルコトニ付キ先例アルハ之ヲ認ムルモ日米間ノ此当面ノ問題ノ処理ニ当リ何故直ニ右ノ如キ手段ニ訴フルノ要アリヤトノ趣旨ヲ述ヘタリ更ニ「ショウトリッヂ」ハ日米通商条約ニ所謂商人ト称シテ労働民渡来シツツアリテ日本ハ該条約付帯宣言ヲ無視シツツアルモノナルコトヲ述ヘタルカ委員長ハ之ニ対シ日本ハ果シテ紳士協約ニ違反シテ労働者ヲ送リツツアリヤ自分ノ見ル所ニ依レハ紳士協約カ有効ノ働ヲ為ササルハ日本側ノ不誠実ニ存セスシテ該協約カ在米日本人ノ家族ノ入国ヲ認メ居ル点ニ在リト思フ旨ヲ述ヘタリ之ニ関連シテ委員「リード」ハ「ジョンソン」法案ニ依レハ米国市民権ヲ有スル日本人ハ「クォータ」ノ制限ナク家族ヲ日本ヨリ連レ来ルコトヲ得然ルニ「リード」ノ法案ニ依レハ之等ノ家族モ「クォータ」ニ含メラルル故実際ニ於テハ日本人家族従来ノ入国数ヲ年々殆ト九〇「パーセント」丈ケ減殺スルコトトナル旨指摘シ其点ト紳士協約トノ二重ノ制限ノコトニ言及シタリ尚「ショウトリッヂ」ハ桑港ニ於ケル「アメリカン・レジオン」ヨリ現実「ルート」ノ披瀝セル桑港商業会議所ノ同委員長宛電信ハ該会議所員ノ「レフェレンダム」ニ問フコトナク発電セラレタルモノナル旨電報ヲ入手セル旨披露セリ

桑港ニ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ転送セシム

二六　三月十六日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

上院移民委員会ヒアリングノ模様報告ノ件

第一八五号

三月八日ノ一般移民ニ関スル上院移民委員会「ヒヤリング」ハ三月十日モ引続キ行ハレタルカ意見陳述者六名アリタルカ其内桑港ニ本拠ヲ有スル International Seamens Union 会長 Andrew Furuseth ハ「リード」法案ノ第十六条（移民法上入国シ得サル外国海員ハ医療船換ノ外上陸ヲ許サストノ条項）及外国海員ノ上陸ニ就キ「ボンド」ヲ徴シ得ル趣旨ノ条項ハ米国船舶ノ外国船舶ニ対スル競争ヲ助ケ及米国民ヨリ多クノ海員ヲ作ラントス現行 La Follette Seamens Act ノ二大目的ヲ無効ニ了ハラシムルモノナリトテ之ニ反対シ「リード」法案カ「ランディング・カード」制度ニ関スル条項ヲ削除シ又船舶出港ノ際海員ノ情況ヲ検査スルコトニ定メアルコトニ反対シ船舶ハ出港ニ際シ入港ノ時有シタルト同数ノ海員ヲ有スルコトヲ要スル旨規定スルコト（海員数カ同一ナレハ宜シク入港時ト同一人タルコト又ハ同一人種タルコトヲ要セス）及「ランディング・カード」制度ノ採用ヲ要望シタリ（同人ノ陳述筆記郵送ス）又 National Association of Manufacturers of the United States 代表者ハ現行移民法ノ継続実施ヲ主張シ又移民問題調査委員会ヲ設置シテ本問題ヲ科学的ニ研究セシ

メ米国ノ経済状態ニ応シ移民入国数ノ伸縮ヲ図リ得ヘキ能率ヲ制定スルコト必要ナル旨述ヘタルカ委員「リード」ハ海員ニ関スル条項ハ之ヲ移民法ノ一部トセサルコト得策ナラスヤ他ノ委員中ニモ同様ノ意見ヲ有スルモノアリトテ委員長「コルト」ハ移民入国数ヲ経済状態ニ応シ伸縮自在ナラシムル立法ニハ自分ハ賛成ナルモ他ノ委員ハ多ク反対シ居レリト云ヒ又欧州南部及東部諸国民ニ対シ不公平ノ立法ヲ見サル様充分ノ努力ヲ為スヘシト述ヘタリ

桑港ヘ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ転送セシム

二七　三月十九日(着)　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

下院移民委員会ハジョンソン新法案ヲ作成下院ニ報告シ下院ハ之ヲ同委員会ニ付託シタルコトニ付キ報告ノ件

第一八九号

往電第一三六号ニ関シ下院移民委員会ハ其後「ジョンソン」ノ希望ニ依リ寄々協議ノ結果原「ジョンソン」移民法案ニ相当ノ修正ヲ加ヘタル新法案ヲ書上ケ三月十七日「ジョンソン」ノ名義ニテ下院ニ提出シ下院ハ之ヲ同委員会ニ付託シタリ同委員会ハ近ク之ヲ可決シ目下「ジョンソン」カ脱稿ヲ急キツツアル報告書完成ノ上之ヲ下院ニ報告スル筈ナリ「ジョンソン」ハ下院ニ於テ目下審議中ノ海軍予算案カ今後十日間位ノ後ニ終了スルヲ俟チ直ニ右移民法案ヲ上程セシムルコトニ運動中ノ由ナルモ未タ議事規則委員会其他下院領袖ノ同意ヲ得ル迄ニ至ラサル模様ナリト云フ

新法案ノ要点ハ別電第一九〇号ノ通ニテ帰化不能外国人入国禁止ニ関スル原案第一二条(b)項ヲ其儘存置シ居レルモ通商条約上ノ商人ヲ非移民ト為シタル点ハ同委員会トシテハ相当ノ譲歩ニシテ之ニ依リ所謂条約違反論ハ鮮カラス緩和セラレタルモノト認メラル但シ帰化不能外国人ニ関シテハ依然重要ノ反対論残リ居ル次第ニテ上院移民委員会ハ三月十八日会議ヲ開キ前記新「ジョンソン」法案ヲ雑ト点検シタル所ニテハ該新法案ハ尚未タ上院側ノ満足スル程度ニハ修正セラレ居ラストノ大体ノ意見ナリシモ上院側ニ於テモ選挙ヲ眼前ニ控フル現下ノ政情ニ顧ミ現行移民法施行期限終了前出来得レハ新法案ノ成立ヲ計リ度キ考ニテ下院トノ妥協点発見ニ精々努力中ノ趣ニテ前記ノ点ニ関スル上院側現在ノ立場ニ如何ナル変化ヲ来スヘキヤハ尚安心シ難キ事情アル趣諜報者ヨリ報告アリタリ（三月十八日）

本電桑港ヘ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ転送セシム

二八　三月二十一日(着)　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

ジョンソン新移民法案ト従前ノ法案トノ主ナル相違点ニ付キ報告ノ件

第一九〇号

三月十七日下院ニ提出セラレタル「ジョンソン」新移民法案ト従前ノ法案トノ相違重ナル点左之通

一、移民ノ定義中非移民トシテ左ノモノヲ新ニ加ヘタリ

An alien entitled to enter the United States solely to carry on trade under and in pursuance of the provisions of the present existing treaty of commerce and navigation.

二、quota ハ千八百九十年 census ニ示サルル外国生外国人数ノ二「パーセント」ニ百名ヲ加ヘタル数トス

三、帰化不能外国人并ニ外国海員ニ関スル条項ニハ何等ノ変改ナシ

四、第二十五条ノ最後ニ

An alien(脱) the provisions of this act shall not be admissible to the United States if he is excluded by any provision of the immigration laws other than this act and an alien although admissible under the provisions of the immigration laws other than this act shall not be admitted to the United States if he is excluded by any provision of this act.

トノ項ヲ設ケタリ

五、其ノ他ノ修正ハ移民ノ国籍決定新興国又ハ属領地等ニ対スル quota 割当 immigration certificate 作製又ハ発給ニ関スル手続等所謂行政手続上ノ点ニ関スルモノニシテ其ノ内従前ノ案ニテハ immigration certificate 発給ノ可否等ニ関シ労働長官ヲ通シテ直接在外米国官吏ヲ指揮命令スル形ヲ採リ居タルヲ今回ハ労働長官ノ意見ニ基キ国務長官カ其ノ権限トシテ在外官吏ヲ指揮スル形式ニ改メ多少国務省側ノ希望ヲ容レ居レリ

右案提出ノ結果従前ノ法案ハ取消シタルコトトナルモノナ

リ「テキスト」郵送ス（三月十九日）

本電桑港ヘ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ転送セシム

二九　三月二十一日　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

上院移民小委員会リード案ニ対スル修正案ヲ作成シ委員会ニ報告シタル件

第一九八号　（三月二十二日接受）

㈠上院移民小委員会ハ先般ノ「ヒヤリング」ヲ参酌シ同小委員会過般ノ起草法案（往電第一五八号）ニ更ニ多少ノ修正ヲ加ヘ三月十八日委員会ニ報告シタリ尚委員会ハ三月二十七日再ヒ会合シ右小委員会ノ案並ニ最近下院ニ提出ノ「ジョンソン」新法案ニ付審査スル筈ナリト云フ前記小委員会今回ノ修正案ニハ "an alien entitled to enter the United States under the provisions of a Treaty of Commerce and Navigation or an agreement relating solely to immigration" ヲ第三条ノ所謂非移民中ニ加ヘ居リ其他ノ修正ハ visa certificate ノ有効期限ヲ六ヶ月以内トシ再入国許可証ヲ有スル移民ノ旅券査証手数料ヲ二弗トスル等手続上ノ細カナル事項ナルカ外国海員ニ関スル条項ハ全部削除シアリト謂フ

㈡諜報者ノ報告ニ依レハ下院「ジョンソン」移民法案上程期ニ関シテハ未タ確実ノ見込ミ立タサル模様ニテ目下上程中ノ海軍予算案ノ次ニハ陸軍予算案上程ノコトニ決シタル趣ニテ「ジョンソン」ハ右ノ後ニ移民法案商議ヲ希望シツツアルモ多分前記委員会側ノ法案カ先ニ上程サルルコトトナル形勢ナリトノコトナリ

尚下院移民小委員会ハ未タ新「ジョンソン」法案ニ対スル報告書ヲ可決スルニ至ラサル趣ナリ（三月二十一日）

桑港ヘ転電シ布哇及沿岸領事ヘ暗送セシム

三〇　三月二十六日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

下院移民委員会新ジョンソン法案ニ対スル報告書ヲ可決コレヲ下院ニ報告ノ件

第二〇九号

下院移民委員会ハ三月二十四日開会シテ新「ジョンソン」法案ニ対スル報告書ヲ可決シタル後直ニ之ヲ下院ニ報告シタリ尤モ委員中「イリノイ」選出 Sabath 及紐育選出 Dickstein ノ両名ハ別ニ少数報告書ヲ作成シ一両日中ニ下院ニ提出スル筈ナリ前記多数報告書ハ新「ジョンソン」法案中 "burden of proof" ニ関スル条項中ノ "individual" ナル文字ヲ "alien" ト修正スル外全部原案ノ儘可決スヘキモノナリトシ尚約八頁ニ亘リ日本移民問題ヲ論ジ居ル処此部分ノ論旨立論等「マクラッチ」等カ最近上院移民「ヒヤリング」ニテ為シタルト頗ル相似タリ要領別電第二一〇号ヲ以テ追電スヘシ（因ミニ「マクラッチ」及「フィラン」等ハ先般来当地ニ滞留シ政府議会新聞社等ニ対シ頻リニ反対シ居リ殊ニ「フィラン」ハ次期選挙ニ於ケル自己ノ政治的立場ヲ作ル目的ニテ本問題ニ付熱心奔走シ居リ相当ノ資金ヲモ用意シ居ルヤニ噂セラレ居ル趣ナリ）本移民法案ノ下院ニ上議セラルル日取ニ付三月二十二日下院議場ニテ共和党領袖「ロングウォース」及他ノ議員間ニ問答アリタルカ「ロングウォース」ハ目下討議中ノ陸軍予算案其ノ他ハ三月二十八日中ニ結了ノ見込ナルヲ以テ二十九日ヨリ移民案ヲ上議スルヲ得ヘク何レニシテモ陸軍予算案ノ後ニ移民案ヲ上議スヘシト言明セリ（三月二十五日）

桑港ヘ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ転電セシム

三一　三月二十六日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

下院ジョンソン移民法案報告書中特ニ新法案ハ現行日米通商条約ニ抵触セズ又帰化不能外国人条項ハ日本側ノ反対ヲ受ケル理由ナシトノ説明ニ関シ報告ノ件

第二一〇号

下院「ジョンソン」移民法案報告書中日本ニ関スル部分ノ主要点ハ㈠新法案ハ現行通商条約上入国ノ権利アル商人ヲ非移民ト為セルコトニ依リ現行条約問題ニ関スル国務長官ノ反対ヲ充分ニ除去セリ㈡残レル反対論ハ帰化不能外国人ノ入国禁止条項ニ関スルモノナルカ之ハ国務長官ノ言ヘル如ク条約問題ニアラスシテ専ラ政策問題ナリ紳士協約ハ第一議会ノ与リ知ラヌ秘密文書ノ交換ニ過キス第二右協約ハ日本人入国ノ許否ニ関スル米国側ノ決定権ヲ日本側ニ譲与セルニ外ナラス此二個ノ事実ハ該協約ノ理由ト云フヘク帰化不能外国人ニ関スル条項ヲ含ム「ジョンソン」法案ハ此目的ヲ以テ最モ適当ニ達成スル方法ナリ又日本ニシテ紳士

協約ノ真ノ精神ヲ支持スル意アラハ本法案ノ実施ニ反対スヘキ適当ノ理由ナシト云フニアリ右報告書記載ノ順序ニ従ヒ主要ノ点ヲ摘記スレハ左ノ如シ

一、本新法案ハ国務長官ノsuggestionヲ全部満足スルモノナルヲ確信ス諸外国トノ条約保全ニ関スル同長官ノ希望ハ通商条約上入国ノ権アル商人ヲ非移民ト為セルコトニ依リ満足セシメタリ而テ新法案ハ時ニ solely to carry on trade under actノ文字ヲ用ヒ入国ノ目的ヲ限定シタルカ斯ノ如ク限定セハ米国議会ニ専属スル移民事項管理権ヲ毀損セラルル憂ナキト同時ニ日本ヲモ含ム一切ノ外国トノ現行通商航海条約ヲ完全ニ尊重シ何等抵触スルトコロナキヲ得殊ニ右条項ハ用務若クハ遊覧ノ為ノ一時的入国者其他ノ旅行者ヲ非移民トセル条項ト相俟チ完全ニ現行条約ヲ満足スルモノナルヲ確信ス

二、残リ居ル国務長官ノ希望ハ政策問題ニ関スルモノニシテ即チ帰化不能外国人問題及quotaノ基礎問題ナリ此問題ハ「日米間ニハ米国ト他ノ外国トノ間ニ存スル条約ヨリモ広キ範囲ノ条約現存スルヤ」トノ疑問ヲ起サシムルモノナルカ日米通商条約第一条ハ実質ニ於テ他国トノ通商条約ト異ナル処ナシ尤モ日米間ニハ所謂紳士協約ト称スルモノ存スルカ如シ右協約ハ両国政府間ニ往復セラレタル書翰ヨリ成ルモノニシテ一個ノ文書ニアラスト承知ス而テ合衆国大審院ハ既ニ日本其他ノ亜細亜人ハ帰化不能ト判決シタリ故ニ委員会ハ此等帰化不能外国人ヲ移民トシテ入国セシメサル条規ヲ設クルコトハ決シテ不当ニアラスト考フ此問題ニ就キ独リ日本ヨリ若クハ日本ニ代リ大イニ抗議ヲ受ケタルモ同シク不利益ヲ被ルヘキ他ノ亜細亜諸国ハ何等抗議シタル事実ナシ国務長官ハ帰化不能外国人入国禁止条項ハ日米通商条約及紳士協約ニ抵触スルトノ論拠ヲ以テ反対セリ依テ委員会ハ右通商条約ノ関スル限リハ同長官ノ希望ヲ容レタル心算ナリ

一九一一年ノ日米条約ハ其名称並目的共ニ通商航海条約ニ他ナラス故ニ若シ其中ニ移民ニ関スル条項アリトセハ不当ニ挿入セラレタルモノト言フヘク議会ハ移民事項管理権ヲ有スルヲ以テ右ノ如キ不当ノ条項カ仮ニ右条約中ニ存ストスルモ之ニ関セス議会当然ノ権限ニ基キ行動スルハ何等ノ妨ナシ元来国務省ハ支那人入国禁止ニ関スル条約締結後何国トモ移民ニ関スル条約ヲ締結シタルコトナシト声明シ居レリ日米条約第一条ハ故「ルーズヴェルト」ノ解釈ニ拠レハ日本人ニ対シ移民及定住ノ門戸ヲ開放シ従テ紳士協約ニ依リ設ケタル障壁ヲ破壊スルモノニシテ「ルーズヴェルト」ハ紳士協約ノ実施ニ拘ラス日本カ米国本土ニ於ケル其人口増加ヲ防止シ得サル時ハ入国禁止立法ヲ実施スヘシト言ヒタリ若シ「ルーズヴェルト」ノ右条約解釈論カ正当ナラハ曩ノ過誤(?)ヲ達成スルモノナリ猶右条約締結ノ際該条約ハ米国ノ移民法規ヲ変改スルモノニアラストノ論旨ヲ米国議会ニ於テ明ニシ又特ニ内田大使ノ付帯声言ヲ必要トシタル事情ニ顧ルモ右条約ハ決シテ紳士協約ノ精神並運用ニ変更ヲ加フル趣旨ニアラサル儀ハ察スルニ難カラス若シ果シテ紳士協約ノ真ノ目的ヲ実現セムトナラハ本法案ノ条項ニ反対スヘキ適当ノ論拠アル間敷キ訳合ナリ

三、本法案ト紳士協約トノ抵触論ニ関シテハ委員会ハ協約ノ本文ヲ知ラサル為メ「ハンディキャップ」セラレ居ルモノナルカ少ナクトモ此協約ニ依リ米国ハ苟モ日本ノ旅券ヲ提示スルモノニハ伝染病者ニアラサル限リ入国ヲ許可セサルヲ得サルコトトナリ居リ換言セハ移民事項管理ニ関スル議会ノ専属権ヲ日本政府ニ譲渡シタルモノナルコト丈ケハ明カナリ此事実ト右協約ノ内容カ秘密ニ付セラレ居ル事実トハ本協約ノimmediate cancellationヲ至当ナラシム尚紳士協約ノ本文カ労働省ニスラ秘密ニ付セラレ居ルコトハ誠ニ不思議ノコトナルカ今日迄知レタル範囲ニテハ該協約ハ米国本土ニ対スル日本労働者ノ移入及加奈陀並ニ墨西哥ヨリノ密入国防止ヲ唯一ノ目的トナスモノト解セラル協約成立当事者タル「ルーズヴェルト」ハ該協約ハ日本移民ノ一層厳重ナル制限並ニ米本土ニ於ケル日本人口増加ヲ防止スルヲ目的トスルコトヲ確言シ又日本人口ノ米国ニ於ケル増加ハ其経済的競争力及不同化性ト相俟チ人種的闘争ヨリ延ヒテハ両国間ノ葛藤ヲ惹起セシムヘシトサヘ云ヘリ右ノ意味ニ於ケル該協約ノ目的カ行ハレサリシコトハ否定ノ余地ナク日本人口ハ移民ト出生ト密入国トニ依リ着々増加セルハ明瞭ノ事実ナリ吾人ハ紳士協約ノ遵奉ヲ高唱スル日本人ノ誠意ヲ疑フモノニハアラサルモ現実ノ結果ハ如何トモスヘカラス紳士協約ノ下ニ数千ニ亘ル日本婦女ノ入国ヲ見タリ彼等ハ公然労働者トシテ入国シ而シテ入国後ハ農業労働者ト

シテ及平均五人ノ子女ノ母トシテ二重労務ヲ為シツツアリ写真結婚ノ禁止ニ依ル入国防止モ何等ノ効果ナク観光団花嫁ナル手段按出セラレタリ更ニ密入国者ニ関スル労働省其他ノ調査ニ依レハ数千ノ南米向日本労働者ハ墨西哥及 Imperial Vallley ヨリ加州ニ入リ込ミタリ紳士協約モ不正入国者追放規定モ何等密入国日本人ヲ取締ルニ足ラサル状態ナリ

四、国務長官ハ日本ヲ「クォーター」ニ入レテ一八九〇年「センサス」ニ依ルトキハ日本ノ「クォーター」ハ極メテ少数ナルヘシ日本ハ此解決方法ニ同意スルナルヘシト云ヒタリ

然レトモ此方法ハ most objectionable ナリ何トナレハ此ハ在米日本人ヲシテ帰化法ニ抵触スル地位ニ据ヘル結果トナリ又他ノ帰化不能亜細亜人ヲ除外シテ独リ日本人ヲ有利ノ地位ニ置クコトトナルヲ以テナリ此点ニ関シ考案ヲ要スルハ日本ハ吾人同様自国民保護ノ為同人種タル支那人及自国ノ版図タル朝鮮人サヘ入国ヲ禁止シ居ルコトナリ又日本ノ同盟国タリシ英国スラ其自治領ノ日本人排斥立法ヲ看過シ南阿豪州「ニュージーランド」ハ已ニ完全ナル排日立法ヲ有シ加奈陀モ紳士協約ノ不結果ニ顧ミ排日立法ヲ要求シツツアリ以上ノ事実ニ顧ミルモ米国ハ其領土ニ於ケル帰化不能外国人ノ増加ヲ甚タシク寛大ニ許容シ之カ防止手段ノ実行ヲ余リ永ク遠慮シ過キタリ

桑港ニ転電シ布哇及沿岸領事ニ転送セリ

三二　三月二十七日(着)　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

ジョンソン新移民法案ノ成行ニ付キ報告ノ件

第二一五号

往電第二〇九号ニ関シ

移民委員長「ジョンソン」ハ下院ニ於ケル同氏新移民法案ノ討議ニ付特別議事規則適用方ヲ要求スル決議案ヲ三月二十四日下院ニ提出シ議事規則委員会ニ付託セラレタリ右決議案ノ内容ハ本決議案可決ノ上ハ議事日程如何ニ拘ハラス下院全委員会ヲ成立セシメテ右移民案ノ討議ニ入ルヘク其一般討議ハ十時間以内トシ「ジョンソン」及「イリノイ」選出民主党議員 Sabath ノ両名ニ各五時間宛割リ充ツルコトトシ一般討議終了セハ修正ノ為メノ読会ニ移リ修正意見討議ハ各人五分間以内ニ限ル右終了セハ議案ヲ下院本会議ニ報告ス本会議ニテハ下院移民委員会ニ再付託ヲ為スヘシ（不明）一個ノ動議ヲ起スコトヲ許スモ其他ハ何等ノ動議ヲ許サスシテ直ニ法案全体ニ対スル可否ノ投票ヲ為スヘシトノ趣旨ノモノナリ、三月二十五日夜諜報者ノ得タル情報ニ依レハ議事規則委員会ハ右決議案ヲ可決スヘキモノトシテ下院ニ報告スルラシキモ討議時間ハ十時間ヨリモ短カクスルヤモ知レス尚右決議案採用ノ暁ニハ移民法案ノ下院ニ於ケル運命ハ三四日ニテ決セラルヘシトノコトナリ前記 Sabath ハ御承知ノ通リ南方欧州移民ノ利益ノ為メ専ラ「クォーター」問題ニ関シ「ジョンソン」案ニ反対シ居ルモノナリ

桑港ニ転電シ布哇及沿岸領事ニ暗送セシム

三三　三月二十八日(着)　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

上院移民委員会ハ小委員会決定案ヲ可決之ヲ上院ニ報告セル件

第二二一号

往電第一九八号ニ関シ

上院移民委員会ハ三月二十七日午前午後ニ亘リ長時間会議セル結果(Hiram Johnson 外二名ノ委員ハ欠席）前記往電報告ノ小委員会決定案ハ殆ト其儘可決シ（重要ナラサル僅カノ修正アリ追電スヘシ）同日夕刻之ヲ上院ニ報告セリ右報告ハ報告書ヲ用イスロ頭ニテ為サレタルカ委員長「コルト」ハ右報告ニ際シ委員会公式ノ希望トシテ上院カ本法案ヲ速ニ上議セン事ヲ要望スル旨述ヘタル趣ナリ尚諜報者ノ探知セル所ニ依レハ上院移民委員会ニ対スル意見陳述方要求シツツアル Hiram Johnson 及 International Seamen's Union 会長 Furuseth（往電第一八五号）ノ為「ヒヤリング」開カレ両名ヨリ有力ノ意見提陳セラルレハ委員会ハ本法案ニ更ニ修正ヲ加フルニ至ルヤモ知レス殊ニ本法案ヨリ削除セラレタル外国海員ニ関スル条項ノ復活ヲ見ルヤモ知レストノ事ナリ（三月二十七日）

桑港ヘ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ転送セシム

三四　三月二十九日(着)　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

上院ニ報告ノリード移民法案中新タニ修正セラレタル部分報告ノ件

第二二三号

三月二十七日上院ニ報告セラレタル「リード」移民法案中新ニ修正セラレタル部分左ノ通リ

三月二十二日付機密第二七号付属書第六頁第一行目（father or mother over fifty-five years of age）抹消セラレアルヲ復活セシム（三月七日付公第二五八号付属書第五頁第二十四行目参照）

同第二十九頁第二十五行目（前記公第二五七号ニテモ同ジ）（to cover such fines）ノ次ニ（or of a bond with sufficient surety to secure the payment thereof）ヲ挿入ス

同第三十六頁第九行目（前記公第二五七号ニテハ第十六行目）（10 per centum of the quota）ヲ（one twelfth of the annual quota）トス

修正ハ右ノミナリ

三五　三月二十九日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

上院移民委員会ノ動静報告ノ件

第二二五号

往電二二一号ニ関シ

上院移民委員会カ三月二十七日俄ニ「リード」法案ヲ上院ニ報告スルニ至リシ内情ニ関シ伝ヘラルル所ニ拠レハ委員長「コルト」等ハ目下西部ニ在リテ選挙運動準備中ノ「ハイラム・ジョンソン」（委員ノ一名ナリ）カ近日当地ニ来リ帰化不能外国人及外国海員ニ関スル条項ニ関シ委員会ニ其ノ意見ヲ陳述シタル後ニ本法案ヲ報告スル予定ナリシモ本法案提出者タル委員「リード」（「ペンシルバニア」選出共和党ナリ往電第一三六号訂正アリタシ）及Harrison（「ミシシッピ」選出民主党）其ノ他ノ委員等ハ目下上院ニ於テ所謂審議未了法案（unfinished business）トシテ毎日ノ日程終了後真先ニ審議セラルル特権ヲ有スル恩給法案カ今後数日中ニ議了セラルル見込ナルニ顧ミ他ノ法案カ其ノ後ヲ受ケテ unfinished business タル特権ヲ受クルニ先タチ移民法案ヲシテ此特権ヲ得シムルニアラサレハ該案ノ上議甚タシク遅延スル虞アリトテ委員長ヲ説得シ急ニ報告スルニ至レル由ニテ同委員ハ本案ヲ真先ノ機会ニ於テ unfinished businessト為サンコトヲ上院ニ要求スヘク右要求ハ多分許容セラルヘシトノコトナリ（移民法案ト先ヲ争ヒ居ル農業者保護法案カ先ニ審議セラルルコトトナラハ其ノ議了迄ニ五六週間ヲ要スヘシトノコトナリ）故ニ右法案ニ対シテハ委員等ニ於テ尚修正シタキ箇所アリタルニ拘ハラス不取敢其ノ儘報告シタルモノニテ前電報告ノ通今後委員会若ハ上院議場ニ於テ相当修正意見提出セラルル見込ナル由

往電第二一六号ニ関シ

下院議事規則委員会ハ「ジョンソン」提出特別議事適用決議案中一般討議時間ヲ八時間ト修正シ之ヲ可決スヘキモノトシテ三月二十七日午後下院ニ報告シタリ諜報者ノ得居ル情報ニ依レハ右決議案カ三月二十九日本会議ノ投票ニ付セラルルコトハ六ケ敷ク多分四月二日トナルヘシトノコトナリ若シ四月二日右決議案可決セハ其ノ時ヨリ移民法案ノ討議開始セラル次第ナリ（三月二十八日）

桑港ヘ転電シ布哇及沿岸領事ニ暗送セシム

三六　三月二十九日　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

ジョンソン新移民法案ニ対スル少数反対意見報告書ニ付キ報告ノ件

第二三二号　（三月三十日接受）

下院ニ報告セラレタル「ジョンソン」新移民法案ニ対スル移民委員Sabath及Dicksteinノ少数意見報告書ハ三月二十七日午後下院ニ報告セラレタルカ其内帰化不能外国人問題ニモ言及シ委員会多数意見ハ国務長官修正意見ニ従ヒ多少ノ修正ヲ新法案中ニ含メタルモ尚同長官カ国交ヲ顧念シテ反対シ居ル帰化不能外国人問題及其他ニ付修正ヲ肯セサリシハ甚タ遺憾ナリ委員会ノ多数意見報告書ヲ一読スルモノハ米国ハ日本移民ニ依リ恰モ overrun セラレツツアルカ如キ感想ヲ与ヘラル然ルニ日本移民入国スルハ事実ニ於テ夫程多数アル次第ニアラス而モ其大部分ハ紳士協約上正当ニ入国セルモノナルヘシ又右報告書ハ「クォータ」ヲ日本ニ適用スルコトカ重大問題ナルカ如ク縷々切言シ居ルモ「クォータ」ニ依リ入リ来ルヘキ日本人ノ数ハ事実取ルニ足ラサルノ僅少ノ数ニテ何等重要問題ニアラス斯クノ如ク右問題ニ関スル事実ノ真相並其結果ニ付世間ヲ偽瞞セントスルカ如キ努力ヲ為シツツアル動機ハ吾人ノ推想ニ難カラサル処ニシテ尚更遺憾ニ感セラル帰化不能外国人問題ニ関シ各種ノ意見ハアルヘキモ其事実ノ真相ヲ誤解セシムルカ如キ

言議行動ハ断シテ許スヘキモノニアラス等ノ趣旨ヲ述ヘ居レリ

委細追電スヘシ（三月二十九日）

桑港ニ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ転電セシム

三七　三月三十一日（着）　在米国埴原大使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

少数意見報告書ノ内容ニ付キ続報ノ件

第二三三号

往電第二三二号ニ関シ今回ノ少数報告書ハ三十四頁ニ亙ル相当長文ノモノナルカ大部分ハ「クォータ」問題ニ費シ四五頁ヲ Immigration certificate 発給ノ手続等ニ関スル修正意見ニ用ヒ最後ノ約一頁ヲ以テ日本移民問題ヲ論シ尚付録トシテ曩ニ電報セル二月八日付「ジョンソン」宛国務長官来翰二月十九日付同長官書翰ヲ掲ケ居レリ（二月十九日付書翰ハ日本移民問題及「クォータ」問題ニ直接言及スル所ナク主トシテ旧「ジョンソン」法案第二条六条八条等ニ関スル行政上ノ便宜ニ関スル問題ニ付国務省側ノ希望ヲ述フル短キ書面ナルカ其内之等条項ニ依レハ Immigration certificate 請求者カ米国移民法入国ノ資格アルヤ否ヤヲ判定スル権限ヲ或ル程度迄米国領事官ニ付与セントスルモノノ如クナルモ其職務権限ノ範囲明確ナラス若シ米国領事官ニ此ノ種移民ノ資格検査ヲ為サシムル意向アラハ之カ為必要ナル条項起草ニ付国務省ハ喜ンテ議会ニ協力スヘシ国務省ハ海外駐在米国領事ニ此ノ種権限ヲ付与スルコトハ国際法上差支ナシト考フトノ趣旨ヲ述ヘタリ）

「クォータ」問題ニ関シテハ「ジョンソン」法案ハ明ニ移民ノ差別的制限ヲ目的トシ北西欧州移民ノ最大多数東南欧州移民ノ最小限ヲ入国セシムル目的ヲ有ス而シテ其論拠ヲ人種的優劣ニ置ケリ然レトモ此ノ人種的優劣論ハ何等科学上ノ根拠アルニ非ス世界ノ文明及米国自身ノ政治的経済的発展ニ付之等人種ノ貢献セル所如何ニ大ナルカヲ思ヘハ前記断定ノ誤レルハ明ナリ斯ノ如キ法案ハ何等ノ理由モナク合衆国内ニ法律ノ形式ヲ以テ新シキ社会階級ヲ制定シ合衆国民ヲ其出生地若ハ先祖ノ如何ニ依リ各種ノ優等若ハ劣等階級ニ分類スルカ如キモノニシテ米国ノ国民的統一及将来ノ安寧ニ対シ之程危険ナルハナシト述ヘ進ンテ東南欧州移民ノ不同化性其米国ノ政治及社会的制度ヲ破壊シ生活程度ヲ低下シツツアルコト是等移民カ都市ニ集中シ又同人種群居シツツアルコト等ノ攻撃ニ対シ弁駁ヲ加ヘ其間 Federal Council of the Churches of Christ in America ヨリ Sabath ニ宛テタル三月十八日付書面ヲ掲ケ居ル処右書面ハ『同団体トシテハ「クォータ」問題ニ関シ何等決議シ若ハ意見ヲ公表セルコトナキニ付誤解ナキヲ希望スルモ右団体ニ属スル一部ノ人士ヨリ成ル委員会ハ「ジョンソン」案ニ付詳細攻究ノ結果其ノ不完全ナルヲ認メ寧ロ現行「クォータ」法ヲ維持継続シ其間適当ノ移民調査委員ヲ任命シテ充分研究ノ上将来新シキ法案ヲ起草セシムルコト然ルヘシトノ結論ニ達シタル事実アリ又帰化不能外国人排斥ニ関スル「ジョンソン」案第十二条b項ハ条約上ノ義務ニ違背シ従テ国際信義ニ関スル問題ナルコトニ関シテハ前記団体正式ノ意見トシテ然ルヘク行動ヲ取リツツアリ』トノ趣旨ヲ記載スルモノナルカ

Sabath 等ハ前記委員会ノ致セル結論ヲ指摘シテ自分等ノ少数意見ノ目的トスル所ハ即チ之ト同一ナリト述ヘ居レリ日本ニ関スル部分ハ大体前電ニ述ヘタル通ナリ Text 郵送ス（三月三十日）

桑港ヘ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ転送セシム

三八　四月二日　在米国埴原大使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

上院リード移民法案ノ審議開始ニ付キ報告ノ件

第二四三号　（四月三日接受）

往電第二三一号（編註）後段ニ関シ

上院ハ四月一日午後往電第二二五号ニ申進メタル恩給法案ヲ議了スルト同時ニ軍人退役ニ関スル他ノ法案ヲ unfinished business ト為スコトヲ決議シ其審議ニ入リタルカ四月二日午後ノ会議ニ於テ移民委員ノ一名ナル「ユタ」選出 King ハ右議案ノ審議ヲ当分中止シ移民案ノ審議ヲ開始スヘシトノ動議ヲ提案シ其可決ヲ見ルニ至レル為メ「リード」移民法案ハ予定ヨリモ早ク四月二日午後ヨリ審議開始セラレタリ当日ノ審議ニ於テ「リード」ノ原案及移民委員会修正案ヲ逐条朗読シ之ニ対シ修正意見ノ有無ヲ議場ニ諮リ其異議ナキ条項ハ其儘一応決定シタルコトトシ異議アル条項ニ付テハ各議員ヨリ多クハ其条項ヲ指摘シテ追テ修正意見ヲ提出スヘキ旨ノ意思ヲ表示スルニ止リタルカ加州選

出「ショートリッヂ」ハ帰化不能外国人入国禁止其他ニ関スル下院「ジョンソン」法案中ノ条項ト同様ノ条項挿入方提案シ「ハリス」モ既報告ノ同氏修正意見ヲ提陳セリ右「ショートリッヂ」ノ修正案其他日本移民問題及直接関係修正案ノ可否決定ハ「ハイラム・ジョンソン」カ旅行先ヨリ四月九日当地ニ帰着シタル後ニ行フヘキコトニ談合成立シ居ル趣ナリ（委細追電ス）尚 King カ前記ノ如ク遽ニ移民案審議ノ開始ヲ動議セルハ同氏カ軍人退役ニ関スル前述ノ法案ニ痛ク反対ナルト同案ノ審議ハ従テ長時間ニ亘ル虞アリタル為ナリト云フ移民案審議ハ四月三日午後引続キ行ハルル筈ナリ（四月二日）

往電第二三一号ノ通リ転電シタリ

桑港ヘ転電シ布哇及沿岸領事ニ暗送セシム

編註　三月三十日着在米埴原大使ヨリ松井外務大臣宛電報第二三一号ヲ省略セルモ該電ハ米国上下両院ニ於ケル移民法案ノ審議予定ニ付報告セルモノナリ

三九　四月三日（着）　在米国埴原大使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

リード法案中ノ日本移民関係条項ニ付キ報告ノ件

第二四四号

往電第一六八号及第二二一号ニ関シ三月二十七日上院ニ報告セラレタル「リード」移民法案第三条中「条約若ハ全然移民ニ関スル agreement ノ条規ニ依リ入国ノ権利アルモノハ移民ト称セサル」旨ノ文字ヲ挿入シアル事ハ前記往電ニ依リ御承知ノ通ナルカ右ハ現行「クォータ」移民法ノ条文ト同趣旨ニテ結局「リード」法案ハ日本人移民ニ関シテハ現行法ヲ維持シ「クォータ」ヲ日本ニモ適用スルノ案ハ之ヲ抛棄シタルモノト認メラルルモ上院移民委員会ハ報告書ヲ用ヒスシテ右法案ヲ報告セル為前記条文挿入ノ趣旨目的等判明セサルニ付為念諜報者ヲシテ委員長「コルト」ニ付確カメシメタル処過般上院移民委員会「ヒヤリング」当時ヨリ日本人ニ「クォータ」ヲ適用スルコト其他日本人関係事項ニ付「リード」法案ニ反対セントスル数人ノ上院議員アリテ若シ原案ノ儘「リード」案ヲ上院ノ討議ニ付センカ之等議員ハ極力該案ノ通過ヲ妨止スルニ努ムヘキ形勢明カトナリ仮令之カ為全然法案通過不可能ト成ル虞無シトスルモ審議意外ニ長引クノ虞アリト認メラレタル為委員会ハ日本人問題ヲ寧ロ現行法ノ儘トナシ置キテ此点ヨリ起ルヘキ該法案反対論ヲ成ルヘク少クシ以テ該案ノ通過ヲ容易ナラシムルニ如カストノ結論ニ達シタルモノナル趣ナリ（四月二日）

往電第二三一号ノ通転電シタリ

四〇　四月五日（着）　在米国埴原大使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

上院全院委員会ニ於ケル移民法案審議状況特ニコルト委員長及ビショートリッジノ見解ニ付キ報告ノ件

第二四九号

四月二日上院全院委員会ニ於ケル移民法案審議ノ模様左ノ通

審議ハ委員長「コルト」ノ動議ニ依リ直ニ修正意見ノ討議ニ入ルコトトナレルカ右討議ニ先タチ「コルト」ハ法案全体ニ対スル大体ノ説明トシテ該案ノ骨子タル重要ノ点ハ visa certificate, quota 並 exemption clauses（即チ「クォータ」ノ適用ヲ除外スルモノニ関スル条項）ノ三点ニアリトテ是等ニ付説明ヲ為シタルカ

㈠visa certificate　ニ関スル説明中移民ヲ選択スル為其ノ出発地ニテ米国官憲ノ検査ヲ受ケシムルモノハ外国ノ主権ト牴触スルコトナキヤトノ疑問最初行ハレタルモ研究ノ結果領事館カ其ノ普通ノ職務タル料金ノ査証ヲ与フルコトハ外国主権侵害ナラサルコトヲ確メタリ本案カ所謂 selective immigration law ナル所以ハ一ニ visa certificate ノ考案ニ存シ是レハ最重要ノ点ナリト述ヘ

㈡quota　問題ニ関シテハ最長ク時間ヲ費シ曩ニ報告シ置キタル本問題ニ関スル同氏意見書ト同趣旨ヲ述ヘタリ

㈢quota　適用除外ノ問題ニ付テハ移民ノ定義ニ関スル法案第三条ヲ朗読シタル後其中ニ移民ニ関スル agreement ニ基キ入国スルコトヲ得ルモノトノ文字ヲ挿入セルコトヲ指摘シ是レハ日本移民ニ関シテハ現行法ノ儘ト為シ置キ紳士協約改廃ノ要アラハ外交手段ニ依ラントスル趣旨ナリトテ左ノ通述ヘタリ

Then, again, an agreement relating solely to immigration is in the present text of this bill. That, of course, would leave the Japanese question, about which we have heard so much, exactly in its present condition excepted out of the quota law. In

other words, so far as the text of this bill is concerned, we have left the Japanese question to be settled by diplomacy and, if Japan has construed the Gentleman's Agreement too liberally, it was the view of many members of the committee that, at least before repealing that Agreement, she should be consulted in the matter.

「ルート?」ハ続イテ尤モ移民委員会ノ希望トシテハ「ハイラム・ジョンソン」出席シ右条項ニ関シ意見ヲ述フル迄是レニ対シ最後ノ決定ヲ為ササルコトトシタキ考ナリト述フルヤ「ショートリッヂ」発言ヲ求メ後段記載ノ如キ同氏ノ修正案ニ言及シ此修正案ハ畢竟東洋人ニ関スル Johnson 法案ノ条項ヲ「リード」法案中ニ挿入セントスルモノニテ帰化不能外国人ハ少数ノ例外ヲ除クノ外絶対ニ入国ヲ禁スルヲ目的トス一言ニシテ云ヘハ自分等ハ東洋人ノ帰化ヲ許サス是レヲ除外シ居レル現行帰化法ノ精神ト撞着セサル様ニ移民法ヲ制定ス可キモノナリト主張スルモノナルカ兎ニ角是等日本人関係事項ハ「ハイラム・ジョンソン」出席シテ後十分討議センコトヲ求ムトノルハ国務長官ノ修正意見書ニ依リ明瞭ナリト述ヘ「ロビンソン」ヨリ条約牴触問題ニ付テハ本法案ノ議定前国務省正式ノ意見ヲ確ムルコト然ルヘシト述ヘタルカ「ショートリッヂ」ハ更ニ自分ノ修正案ハ条約ニ違反スルコトナキモノナリ紳士協約ハ条約ニアラス又仮ニ該協約カ国際取極トシテ認メラレ来レルモノナリトスルモ既ニ最初ヨリ始終 violate セラレ来レル協約ナレハ此問題ニ付如何ナル立法ヲ為スモ吾人ノ自由ナリ日本ハ是レニ対シ立腹スル正当ノ理由ナシトノ趣旨ヲ述ヘタリ尚議員ヨリ日本ヲ「クォータ」ニ入ルルコトトセハ其ノ数幾許トナルヤヲ質問シ「コルト」ハ明確ナル数字ヲ承知セス極メテ少数ナリトタケ答ヘタリ夫ヨリ移民委員会修正案ノ逐条朗読ニ移リ左記条項ヲ除ク外ハ「リード」ノ原案及是レニ対スル移民委員会ノ修正全部一応可決セリ左記条文番号ハ二月二十四日付往信公第二〇〇号付属「リード」原案ノ番号ナリ

第三条(二)「用務勉学遊覧ノ為メ一時入国スルモノ」及(七)「条約若クハ移民協約ニ依リ入国シ得ルモノ」ハ「ショートリッヂ」ノ提案ニ依リ討議後廻シトナル（「ジョン

趣旨ヲ述ヘ「コルト」ハ「ロビンソン」（「アルカンサス」選出民主党）ノ質問ニ答ヘテ前記条項（agreement ニ依リ入国ヲ許サル可キ者云々ノ条項）ハ本法案中ニ挿入シアルモ移民委員会ニ於ケル討議ニ際シ「ハイラム・ジョンソン」不在ノ為メ甚タ当惑シ結局此条項ニ付テハ本会正式ノ投票ヲ経スシテ下院ニ報告スルニ至レル事情ナルコトヲ説明セリ尋テ「ショートリッヂ」ノ修正案ハ労働者ノ同意ヲ経タルモノナリヤトノ「ロビンソン」ノ質問ニ対シ「ショートリッヂ」ヨリ労働者ハ主義トシテ帰化不能外国人入国禁止ノ方針ヲ執リ居ルコトハ確カナリ唯条約牴触問題ハ心アルモノノ憂フル処ナルヲ以テ下院移民委員会ニテ研究ノ上条約ニ牴触セサル様文字ヲ改メタル次第ナリト答ヘタルカ「ロビンソン」ハ更ニ国務省ハ右修正案ナラハ条約ニ牴触セストノ意見ナリヤ又仮リニ右カ条約違反ニテモ「ショートリッヂ」ハ尚其ノ修正案ヲ固持セラルルヤト質問シタルカ「コルト」ハ条約問題ニ付自分ヨリ説明スヘシトテ下院「ジョンソン」法案ハ通商条約トノ牴触問題ヲ除去シタルモ尚紳士協約ニ牴触シ之ヲ abrogate 若クハ repeal スル結果トナルモノナソン」出席後討議スル為ナリト「リード」ヨリ説明アリ）

第八条『「クォータ」ニ関スル条項』トナル（此時「ハリス」及「ハリソン」ヨリ往電報告シ置ケル「クォータ」修正案ヲ提出シ一括後ニ討議ノコトトナレリ）

第十二条、十六条、十七条、十九条、二十九条等ハ外国海員ニ関スル条項ナル為「ジョンソン」出席ノ後討議ノコトトナル「ショートリッヂ」ノ修正案左ノ通リ

一、第三条(七)条約若クハ新協約ニ依リ入国シ得ルモノ云々ノ全部削除シ「ジョンソン」案ト同シ文句ニテ条約上入国ノ権利アル商人云々トスルコト

二、第十条（exclusion from the United States）

(c)項トシテ左ノ通リ挿入ノコト

(c) No alien ineligible to citizenship shall be admitted to the United States.

(1) Unless such alien is admissible as a nonquota immigrant under the provisions of Section 3, or

(2) Unless such alien is an immigrant, who continuously at least two years immediately pre-

ceding the time of his application for admission to the United States has been and who seeks to enter the United States solely for the purpose of carrying on the vocation of minister of any religious denomination or professor of a college, academy, seminary or university, or

(3) Unless such alien is an immigrant, who is a bona fide student over 18 years of age and who seeks to enter the United States solely for the purpose of study at accredited college, academy, seminary or university, particularly designated for him and approved by the secretary, or

(4) Unless such alien is immigrant previously lawfully admitted to the United States who is returning from a temporary residence abroad, or

(5) Unless such alien is the wife or the unmarried child under 18 years of age of an immigrant admissible under subdivision (2) of Paragraph C of Section 10 and is accompaning or

following to join him.

桑港ヘ転電シ布哇及沿岸領事ヘ転送セシム

四一　四月五日(着)　在米国堀原大使ヨリ松井外務大臣宛(電報)

上院移民法案審議ニ於ケルリード ノ説明ニ付キ報告ノ件

第二五〇号

四月三日上院ニ於ケル移民法案審議ハ「リード」ノ法案ニ対スル説明ニテ終始シタルカ「リード」ハ米国移民ノ歴史其現状現行移民法実施状況ヲ詳述シタル後「リード」法案ト「ジョンソン」法案トノ差異ヲ説明シタルカ日本人問題ニ就キテハ簡単ニ左ノ如ク述ヘタリ

Finally there is the question of Japanese exclusion. I would prefer to postpone what I have to say on that until the matter is urged by someone who wants to offend the Japanese and to put the exclusion sections in the bill. The committee was unanimous as far as it was in attendance in leaving out the sections, because it regarded them as an unnecessary affront to a friendly nation, because we think the amount of immigration now coming in from Japan is negligible, and because we feel that the preservation of the Gentleman's Agreement more effectual keeps down Japanese immigration than any exclusion law we could possibly adopt.

桑港ヘ転電シ布哇及沿岸領事ヘ転報セシム

四二　四月六日(着)　在米国堀原大使ヨリ松井外務大臣宛(電報)

上院ニ於ケル移民法案審議ノ模様報告ノ件

第二五五号

(一)四月四日上院移民法案審議ハ極短時間ニテ切リ上ケラレ次回審議ハ七日ト為レリ

大体ノ模様左ノ通

先ツ「リード」ヨリ第三条中ニ"study"ノ文字ヲ入ルル移民委員会ノ修正案ニ付討議シタシトテ簡単ニ説明ヲ為シタルカ四月七日「ショートリッヂ」ヨリ日本人問題ヲ一括シ詳細ニ亘リ演説スル筈ナルヲ以テ右修正案其他日本関係事項ハ同日迄延期スルコトニ一決シ次ニ「リード」及「ロッヂ」ヨリ提出シアル移民官吏ニ対スル時間外勤務手当給与方ニ関スル条項ヲ移民法案ニ挿入セントスル修正案(政府ヨリ時間外勤務手当ヲ給シ其ノ資金ハ当該船会社ヨリ取リ立ツル案ナリ)ノ討議ニ入リタルモ可決スルニ至ラス討議ヲ七日以後ニ譲ル事トセリ尚移民委員Willis(「オハヨ」選出共和党)ヨリ「ジョンソン」出席スル迄移民法案ノ最終的議定ヲ為サストニ云フ様ナ諒解成立シ居ル次第ナリヤトノ意味ヲ質問シ「リード」ハ然ル諒解アル事ヲ承知セスト答ヘタリ

(二)下院ハ四月五日移民法案特別議事規則ニ関スル決議案ヲ可決シ直ニ「ジョンソン」移民法案ノ一般討論ニ入レリ一般討論ハ四月八日午前十一時ヲ以テ打チ切ル事ニナレリ

桑港ニ転電シ沿岸領事及布哇ニ転送セシム

四三　四月八日(着)　在米国堀原大使ヨリ松井外務大臣宛(電報)

下院移民法案討議ニ於ケルジョンソン委員長ノ一般説明及ビ Maclafferty 等ノ排日論ニ付キ報告ノ件

第二五九号

往電第二五五号ニ関シ四月五日下院移民法案討議左ノ通先ツ移民委員長「ジョンソン」ヨリ法案ノ一般的説明ヲ為シ本法案ノ骨子ヲ為ス点トシテ

(一)移民ノ定義

(二)「クォータ」移民ト「ノンクォータ」移民ノ区別ヲ設ケタル事

(三) immigration certificate ノ制度

(四)「クォータ」ノ基礎ヲ変更セル事

(五) 日本移民禁止ノ条項等ニ就キ説明スル処アリタルカ日本人問題ニ就テハ簡単ニ本法案ハ条約ニ抵触スル処ナシ紳士協約ハ条約ニ非スト解ス又本法案カ法律ト成ラハ紳士協約ハ其ノ条約ナルト否トニ関係セス不必要ノモノナルヘシト語リ尚再入国許可書ニ就キ米国ニ帰化ノ意思ヲ表示シタルモ未タ市民ト成ラサル移民カ一時本国ニ旅行セントスル場合米国政府モ本国政府モ之ニ対シ旅券ヲ発給セサル場合アルヲ以テ旅券ニ相当スル再入国許可書ノ制度ヲ設ケタリト説明セリ夫レヨリ主トシテ「クォータ」問題ヲ中心トシテ賛否ノ討議数時間ニ亘リ交換セラレタルカ其内加州選出共和党 Maclafferty ヨリ特ニ日本人問題ニ就キ述フル処アリ同氏ハ日本人問題ハ「クォータ」問題等ヨリモ一層重要ノ問題ナリ太平洋ノ彼岸ニ一ノ国民アリ彼等ハ平和的侵略ニ依リ我カ太平洋沿岸ヲ占有スルノ希望ヲ有ス是レ日本国民ナリト説キ起シ日本ノ窮迫セル人口問題物資問題ヲ叙シ日本ハ支那朝鮮台湾ニ人口ノ捌ケ場ヲ求ムル政策ヲ執リタルモ同時ニ労働者トノ経済的競争ニ堪ヘスシテ何レモ失敗シ今ヤ日本人ノ想到シ得ヘキ最後ノ解決策ハ産児制限ニ在リ然ルニ此ノ手段ハ彼ノ国家的膨脹策ニ反ス茲ニ於テ彼ハ我カ太平洋岸及布哇ノ占有ヲ以テ将来ニ渉ル其ノ解決策ト為スト述ヘ加州方面及布哇ニ於ケル日本人口増加ノ状況ヲ叙シ日本ハ今ヤ太平洋岸占有シ得ヘキ時ハ遠キニ非スト信シツツアリ今日ニ於テ之ヲ防ク手段ヲ講スルニアラサレハ永久ニ其ノ時機ヲ失フヘシ吾人ハ此ノ平和的侵略ノ前ニ屈服シ太平洋岸ニ於ケル balance of power カ日本人ノ手ニ帰スルヲ袖手シテ待タサルヘカラサルヤト云ヒ紳士協約ニ言及シテ自分ハ該協約カ遵守セラレタルヤ否ヤヲ論セントスルニアラス協約ノ実施ニ拘ハラス在米日本人口ノ著々増加シツツアルヲ指摘セントスルモノナリ写真花嫁ハ加州ニ来ル事ヲ禁セラレタルモ布哇ニ渡航スル事ハ禁セラレ居ラスト述ヘ最後ニ日本人ハ世界ノ如何ナル土地ニテモ自己ノ欲スル手段ニ依リ之ヲ占有シ何等不正当ニ非スト信シ居ル国民ナリ議会ハ西部諸州民ト協力シ西岸ノ防禦ニ努メン事ヲ求ムト述ヘタルカ委員会少数意見報告者タル Sabath ハ発言ヲ求メテ移民委員会ハ日本人入国禁止ニ関シテハ全会一致ナリト声明シ Raker 等加州選出議員ヲ喜ハシメタリ右ノ外本問題ニ就キ Dickstein 及 La Guardia 等「クォータ」問題ニテ本法案ニ反対セル議員ヨリ数言質問ヲ受ケタルモ Dickstein ノ如キ自分ハ Maclafferty ノ議論ニ同情ヲ表スルモノナリト言ヒ其他日本人排斥ニ反対ノ意思ヲ表スルモノ一名モ無カリキ

桑港ニ転電「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ転送セシム

四四　四月十日(着)　在米国埴原大使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

上院ニ於ケル移民法案審議状況報告ノ件

第二六四号

往電第二五五号ニ関シ四月七日上院ニ於ケル移民法案ノ審議ハ「リード」ヨリ提起セル移民官吏時間外勤務手当給与ニ関スル修正案ヲ一応可決シタル後「ショートリッヂ」ノ日本人問題ニ関スル演説ニ入リタルカ右演説終了ニ至ラスシテ閉会セリ翌八日ノ会議ニテ「ショートリッヂ」ノ演説終了シタルカ之ニ対シ「リード」ハ日本人問題ニ関スル「ショートリッヂ」修正案反対ノ演説ヲ為シタリ尚引続キ他ノ修正案ニ就キ議シタルモ何等決定シタルモノナク四月九日ノ会議ニ於テ「ハイラム・ジョンソン」始メテ登壇日本人問題ニ就キ「ショートリッヂ」ノ修正案支持ノ演説ヲ為シタリ依テ日本ニ関スル修正条項ニ付投票ヲ為サントノ議アリタルモ最後ノ投票ハ尚延期シ度シトノ議起リタル為四月十一日開会ノ上投票ヲ行フヘシトノ事ニ非公式ナカラ決定シテ散会セリ（四月九日）

桑港ニ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ転送セシ・ム

四五　四月十日(着)　在米国埴原大使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

上院ニ於ケルショートリッジノ日本人排斥ニ関スル論述ニ付キ報告ノ件

第二六五号

四月七日上院移民審議左ノ通

「リード」提出ノ移民官ノ時間外勤務手当ニ関スル修正案ニ付暫ク討議ノ後之ヲ可決シ「ショートリッヂ」ノ日本人問題演説ニ移リタルカ其演説要旨ハ従来加州排日家ノ所論ヲ繰返スニ過キサルモノナルカ先ツ移民法案ハ米国将来ノ国運ニ関スル重大法案ニシテ現ニ議会ノ懸案トナリ居ル如何ナル法案ヨリモ最重大ノ法案ナリト述ヘテ本論ニ入リ共和国ナルモノハ文化発達セル人間ノ間ニ生シタル人工的組織ニシテ直ニ此ノ政体ヲ讃美シ之ニ適合スル純良ノ国民ヲ以テ組織スルニ非サレハ其維持発達ヲ期シ得サルハ国家興亡ノ歴史ニ顧ミ明ナリ我カ建国ノ祖ハ早ク既ニ此ノ点ニ気付キ一七九〇年亜細亜人ハ米国市民ト成ルヲ得ストノ法律ヲ設ケタリ之亜細亜人ヲ市民トナスハ我カ共和国ノ発達維持ニ害アリト認メタルカ為ナリ吾人ハ過去ニ於ケルカ如ク今後モ此ノ賢明ナル政策ヲ支持スルヲ要ス余カ此ノ点ヲ特ニ力説スル所以ハ他ニ非ス最近ニ至リ野心ヲ抱ケル一帝国ハ此ノ米国伝来ノ大方針ヲ覆サントシ其一臣民ヨリ市民権獲得ノ試ミヲ為スニ至レリ而シテ大審院ハ既ニ之ヲ拒絶シ帰化ニ関スル現行法ヲ維持シタリ余ハ国家ノ福利擁護ヲ以テ生命トナセル議会モ亦遠キ将来ニ亘ル大局ニ着眼シテ此ノ現行法防護ニ努メ何等此ノ法規及大方針ニ抵触スル所ナキ移民法ヲ制定センコトヲ切望スト述ヘ進ンテ亜細亜人ニ帰化ヲ許ササルコトカ既ニ確定ノ方針ナリトセハ是等帰化不能外国人ヲ定住移民トシテ米国ニ入国セシムル（脱）当然ノ帰結ナリ其理由ハ説明ヲ要セスシテ明ナルモ第一ハ人種ノ根本的相違ニアリ吾人ハ斯ノ如キ全然異レル人種トノ混血ヲ好マス故ニ彼等ノ多数ヲ米国ニ生活セシムルコトハ racially ニモ socially ニモ好マシカラス又国運ノ前途ニ対シ有害ナリ、第二ハ経済的競争ノ問題ナリ白人ハ到底彼等トノ競争ニ堪ヘス又彼等ノ如キ低級ノ生活方法ニ迄成リ下ッテ競争ヲ試ムル如キハ到底忍ヒ難キ所ナリ自分ハ単ニ加州ヲ代表シテ斯ク論スルニ非ス百万ノ会員ヲ有スル American Federation of Labour ノ意見ヲモ代表シテ之ヲ論スルモノナリ尚右ハ単ニ日本人ヲ指シテ謂フニ非ス世界人口ノ半以上ヲ占ムル亜細亜人全体ヲ指シテ謂フモノナリ若シ日本ヲ指シテ謂ヒ居ル如クニ聴取ラルトセハ夫ハ亜細亜人ノ内ニアリテ日本一国ノミ抗議ヲ為シツツアルカ為ニシテ

自分ノ趣旨トスル所ハ決シテ日本一国ヲ名指シ居ルニ非スト述ヘタルカ此ノ時 McKellar（テンネッシー、デモクラチック」）ヨリ国務長官ハ日本人入国禁止条項ヲ設クルヨリモ「クォータ」ヲ適用スル方カ却テ入国制限ノ目的ニ適ストノ意見ナルカ「ショートリッジ」ハ之ニ賛成セサル次第ナリヤト質問シ「ショートリッジ」ハ然リ国務長官ハ条約違反問題ヲ心配シテ修正意見ヲ出シタルモノナルカ下院ハ長官ノ意見ニ顧ミ法案ヲ修正シタルヲ以テ最早長官ハ反対セサルヘシト答ヘ「リード」ハ之ヲ受ケテ国務長官意見ノ内条約抵触問題ハ其一ナルモ最強ク力説シタル点ハ立法手段ニ依ル日本人入国禁止ハ日本人ヲ立腹サセ且実際不必要ノコトナリトノ点ニアリ這ハ二月八日ノ書面中ニ極メテ明瞭ニ認メアリシニ非スヤト謂ヒタルカ「ショートリッジ」ハ果シテ同長官カ左様述ヘタリトセハ同長官ハ全ク誤謬ニ陥リ居レリ此ノ条項ハ決シテ日本ヲ目的トスルモノニ非スシテ日本ノ立腹スヘキモノニ非ス又夫レハ別トシテモ斯ノ如キ条規ノ議定カ議会政党ノ権限ニ属シ而シテ真ニ国家ノ為必要ナル以上或ル外国ノ立腹ヲ顧念シテ逡巡スルカ如キハ吾人ノ取ラサル所ナリト答ヘタリ次テ Mckellar ヨリ統計其他事実問題ニ関シ種々質問ヲ発シ「ショートリッジ」ト問答ヲ交ヘタルカ其内加州土地禁止ニ関スル中央及地方大審院等ノ判決ニ関シ稍々詳細ノ説明ヲ試ミタル後是等判決ハ土地所有禁止立法ヲ制定スルコトハ各州ノ自由権限ニ属スルコトヲ確定スル重要ノ判決例ニシテ他ノ諸州モ何レハ同様ノ立法ヲ為シ得ルコトヲ示スモノナリ他ノ諸州モ何レハ同様ノ立法ヲ必要トスル時期到来スヘシトテ他州議員ヲ勧説スルカ如キ口吻ヲ用ヒ又加州民ノ幾何カ東洋人排斥ヲ主張スルヤトノ問ニ対シ東洋人排斥ニ反対スル者ニ三種アリ、一ハ基督教信者、二ハ或ル種ノ実業家、三ハ自国ヨリモ以上ニ他国ヲ愛スル者之ナリ此ノ徒ハ他国ノ感情ヲ余リ重大視シ他国カ立腹スヘシトテ萎縮シツツアリ是等ヲ除キテハ加州ハ勿論西部諸州ハ排斥感情ヲ以テ横溢シツツアリト答ヘ尚「ワットソン」（インディアナ、レパブリカン）ヨリ日本ハ墨西哥植民ニ努力シツツアリト報道アル処然ル事実アリヤ又現ニ植民ヲ実行シ居ラストスルモ日本ハ斯ル計画ヲ有スル事実アリヤト質問セルニ対シ日本政府カ斯ル努力ヲ為シツツアルコトハ自分ノ確答シ得ル所ナリ尚之ニ関連シ伯剌西爾、亜爾然丁等南米諸国ハ日本移民ヲ

歓迎シツツアリト承知ス是等地方行日本移民ハ多数米国ニ密入国シツツアリト答ヘ進ンテ日本ニ於ケル外国人労働者入国制限ニ関スル問題ニ言及シ国家的自負心ノ為聊カ尊大ニナリ過キ居ル日本ハ暫ク自ラヲ顧ミテ自国カ果シテ何ヲ為シツツアリヤヲ反省スヘキナリ日本ハ支那人ノ入国ヲ禁止スルノミナラス朝鮮人ノ入国スラモ禁シ居レルニ非スヤ彼等ハ正当ノ権利ニ基キ且賢明ナル国策トシテ之ヲ実施シ居ル次第ニテ吾人カ日本人排斥ヲ為スト何ノ異ナル所アラント述ヘ最後ニ吾人ハ決シテ日本自国ノ発達ヲ妨害セントスル意思アルニ非ス日本ニ対シ敵意アルニモ非ス唯帰化不能外国人ハ米国ノ安寧福利ヲ危殆ナラシメ延テハ国際紛争ヲ惹起スルノ虞アリトノ見地ヨリ是等人種ノ米国ニ於ケル増加ヲ防止セントスルヲ唯一ノ目的トスルモノナリト述ヘタリ

桑港ヘ転電シ「ホノルル」及沿岸領事ヘ転送セシム

四六　四月十一日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

下院移民法案討議ノ際 Frothingham ハ排日条項ノ削除ヲ希望スル旨ヲ含ム国務長官ヨリ同議員宛書翰内容ヲ披露シタル件

第二六六号

四月八日下院移民法案討議ノ際「マサチュセッツ」選出Frothingham（共和党）ハ四月七日付同氏宛国務長官書翰ヲ披露シタルカ該書翰ノ大要左ノ如シ

行政上ノ見地ヨリ下院移民委員会ヨリ下院ニ報告セル移民法案ヲ批評スルニ二個ノ重要問題アリ

第一ニ領事館ヲシテ移民証明書ヲ発給セシムルコト

第二ニ西半球諸国ヨリノ移民ニ「ノンクォータ」証明書ヲ発給スルコトナルカ

第一点ニ関シテハ領事館ノ現在人員及経費ニテハ不足ニ付法案ノ修正ヲ必要トシ第二点ニ関シテハ現行法上之等移民ニ「クォータ」条項ノ適用ナキニ新ニ証明書ヲ発給スルコトトナレハ莫大ナル人員及経費ヲ必要トスヘク加之七月一日ヨリ実施ト云フカ如キ短日月間ニ係官ヲ養成スルコト極メテ困難ナリ之ヲ要スルニ如何ナル場合ニ於テモ別個ノ証明書其物ニ証明ヲ書入ルル方法ヲ取ルニ如カス又法案中ノ日本人排斥条項ハ二月八日付「ジョンソン」氏宛書翰ニ依ル余ノ提議ニ反スルモノニシテ之ヲ削除セサルヘカラス余ハ切ニ貴下カ右書翰中ノ陳述ニ注意ヲ払ハレンコトヲ希望ス基礎「クォータ」百名ニ減セラルル暁千八百九十年ヲ基準トスル日本人「クォータ」ハ百四十六名ニ過キス下院移民委員会ノ報告書ヲ見ルニ紳士協約ノ励行ニ関シ誤解アルモノノ如シ該報告書ニ日本政府ハ此協約ニ依リ何人カ渡米スルヤヲ決定スルノ権利ヲ付与セラレタリトアリ余ノ提案ハ目下移民ニ対シ二重ノ制限ヲ加エントスルモノニシテ即チ一方ニ於テ紳士協約ニ依リ日本政府ノ協力ヲ得テ日本移民ヲ制限スル外他方「クォータ」ノ制限ニ依リ更ニ日本移民ヲ抑止セントスルモノナリ米国国境線ノ広大ナルニ鑑ミ余ハ斯ル二重制限ハ日本政府ノ協力ヲ失フ結果ヲ伴フ排斥条項以上ニ有効ト信ス云々

四七　四月十一日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

上院移民法案審議ニ於ケルショートリッヂノ日本人排撃論及ビ之ニ対スルリードノ反論ニ付キ報告ノ件

第二六九号

四月八日上院移民法案審議ハ「ショートリッヂ」ノ前日ニ引続キタル日本人問題ニ関スル演説ヲ以テ始リタルカ同氏ハ先ツ加州ニ於ケル日本人口逐年増加ノ状況ヲ述ヘ其原因ニ三アリ

㈠ハ紳士協約ニ反シテ送ラルル花嫁

㈡ハ所謂再渡航者及学生ニシテ之等ハ入国後直ニ労働者トナル

㈢ハ密入国者ナリト述ヘ次テ紳士協約成立ノ由来及目的ヲ叙シテ其眼目ハ労働移民ノ入国ヲ全然停止スルニ在リ若シ労働移民猶入国スルコトアラハ米国ハ直ニ入国禁止立法ヲ為スヘキ諒解ヲ以テ成立セルコトヲ指摘シ其信拠スヘキ証拠資料トシテ「ルーズヴェルト」自叙伝第四百十一頁以下及第四百十六頁以下ニ掲クル同大統領ヨリ加州選出議員「ケント」及加州下院議長「スタントン」ニ与ヘタル書翰ヲ朗読シタル後「ピックチャーブライド」、学生、商人等ハ入米後直ニ労働者トナルモノニテ此結果在米日本労働者ハ逐年増加シ紳士協約ノ眼目ハ蹂躙セラレツツアリ故ニ協約成立当時ノ諒解ニ基キ此際排日立法ヲ制定スルモ何等日本ノ立腹スヘキ理由ナシトノ趣旨ヲ述

ヘテ演説ヲ了リタルカ此時「リード」発言シテ日本人入国禁止条項制定ノ不必要且不利益ナルコトヲ力説セルカ同氏ハ千九百二十三年度中布哇、比律賓等ヲ含ム合衆国全体ニ入国セル日本人総数一万一千五百七十一人（内移民五千六百五十二人）離国者数一万一千百七十二人差引入国超過数僅ニ三百九十九人ナリ故ニ現在ノ儘ニテモ排日立法ハ不必要ナリ更ニ「クォータ」ヲ日本ニ適用セハ移民委員会ノ修正「リード」案ノ「クォータ」ナラハ日本人ノ「クォータ」ハ千四百四十三人「ジョンソン」案ノ「クォータ」ナラハ二百四十六人「リード」カ委員会ト関係ナク提出修正案ニ依レハ三百六十人ナリ此「クォータ」ニ依ル僅少ナル入国数ニ対シ離国者数アルコトヲ考慮ニ入ルル時ハ「クォータ」制限ノ如何ニ有利ナルカヲ知ルヘシ

又排日立法ノ制定ハ最有効ナル移民防止手段ノ如クニ論スルモノアルモ支那人排斥立法実施セラレツツアルニ拘ハラス千九百二十三年度支那人入国数ハ実ニ一万六千五百七十五人ノ多数ニテ之ヨリ離国者一万九百十五人ヲ控除シ入国超過数六千人有リ斯ノ如ク多数入国者アル所以ハ支那ハ日本ノ如ク其移民渡航ヲ自制セス支那人排斥法ノ欠陥及各種ノ除外例ヲ履行シテ渡来スルモノ多数ナルカ為ナリ而カモ右ハ移民長官年報ニ記載アル数字ナルカ玖馬、墨西哥、加奈陀其他ヨリ支那人密入国者多数アルコトハ知レ渡レル事実ナリ之ニ反シ日本ハ紳士協約上ノ労働者渡航取締義務ヲ加奈陀、墨西哥向労働者ニモ推シ及スコトニ解釈シテ此方面ヨリノ密入国日本人取締ニ付忠実ニ米国政府ニ協力ヲ与ヘツツアリ故ニ現在ノ制度丈ケニテモ労働移民入国制限ハ「ハイリー、エフェクチブ」ニシテ此上ニ「クォータ」ニ依ル二重ノ制限ヲ加フルノ途アリトセハ排斥立法ノ不必要ナルハ議論ノ余地ナシト謂ヒ更ニ軍備縮小会議及昨秋地震ニ対スル米国民同情表示ノ結果日米関係ノ改善セラレ居ルコトヲ述ヘ右同情表示ハ偶々米国民ノ大多数ハ日本ニ対シ真ニ友誼ノ情ヲ抱キ居ルコトヲ表明スルモノニシテ日本国民ハ初メテ大多数米人ノ真ノ感情ヲ了得シタリ日本政府ハ其移民ヲ米国ニ送ルコトヲ欲シ居ラス日本政府並ニ国民ハ米国ニ殖民スル考ヲ有セス又在米日本人数ノ減少ヲ図ラントシ居レリト述ヘ「ショートリッヂ」ハ之ヲ論難シタルモ「リード」ハ深ク取合ハス「クォータ」ノ適用ニ依リ有効ニ移民制定ヲ為シ得ルニ拘ラス不必要ナル排日立法ヲ制定セハ日本ノ如キ自負心アル国民ノ立腹スヘキハ当然ナリ又斯ノ如キ立法ノ制定ハ換言セハ日本ハ紳士協約ヲ遵守シ居ラスト謂フカ如キモノニテ日本ノ立腹スヘキハ将ニ当然ナリト結ヒタリ夫レヨリ票決後廻シトナリ居リタル諸種修正案（移民委員会ノ修正案）ニ就キ討議シタル結果第三条中ニ studyノ文字ヲ挿入スルコト、外国海員ニ関スル条項ヲ削除スルコト従テ landing card ノ文字ヲ全然削除スルコトヲ一応可決セリ第三条中「条約又ハ移民協約ニ依リ云々」挿入方ノ件ニ関シテモ再ヒ論議アリ又中、南米及加奈陀ニモ「クォータ」ヲ適用スヘシトノ議論ニ関シ暫ク討論アリタルモ「クォータ」ノ基礎問題ト共ニ何レモ討議後廻シトナレリ

桑港ニ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ転送セシム

四八　四月十一日（着）　在米国埴原大使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

上院移民法案ノ審議ニ於ケルハイラム・ジョンソン、リード、ショートリッヂ及ビマッケラー其ノ他ノ論議ニ付キ報告ノ件

第二七二号

四月九日上院移民法案審議模様左ノ通

最初 quota ニ関スル一般問題ノ論議暫ク行ハレタルカ Harrison ヨリ quota 問題ヨリモ先以テ日本問題ニ関シ票決シタル後他ノ問題ニ移リタシト提議シ Reed モ賛成ノ意ヲ表シタルカ尚暫ク quota 問題ノ討議続キ Reed ヨリ委員会ニ関係ナク提出シアル千九百二十六年以後ノ quota ニ関スル修正案ニ詳細説明スル処アリ次テ Hiram Johnson 初メテ登院シ発言シ

㈠ Reed 案ハ現行帰化法ヲ無効タラシムルニ等シ

㈡ 新協約ハ米国主権ニ属スル事項ヲ日本ノ手ニ委ネタルモノニシテ移民ニ関スル米国ト諸外国ト現行協約慣行上類例ナキコトニシテ此制度ノ持続ハ他ノ国ニ対シ不公平ナリ

㈢ 又早ク此米国自身ノ行フヘキ権利ヲ回復スルコト必要ナリトノ理由ヲ挙ケテ Shortlidge 修正案ノ採用ヲ力説シタルカ Reed 直ニ発言シテ往電第二六六号ノ国務長官書

面中ノ数節ヲ引用シテ Johnson ノ所論ヲ反駁シタルカ Shortlidge 之ニ対シ国務長官ハ誤謬ニ陥リ居レリ米国ハ未タ他国ニ相談セサレハ自国ノ法律ヲ実施シ得サル程ノ弱国トナレリトハ信セスト述ヘタリ其 quota 問題其他一般移民問題ニ関シ討論継続シタルカ McKellar (Tennessee, Democrat) ヨリ再ヒ日本問題ヲ提起シ「リード」法案ヲ実施セハ憲法ニ違反シ議会ノ同意ナク締結セラレタル紳士協約ヲ批准スルト同シ結果トナル日本ニ対スル quota ハ如何ニ小ナリト雖一旦 quota ヲ適用スル以上日本人ヲ欧州人ト同様ノ待遇ヲ以テ米国ニ入国セシムルノ主義ヲ確立スルモノニシテ自分等ハ単ニ此点ヨリ「リード」案ニ反対スルモノナリトテ「リード」等ヨリ説明弁駁ヲ試ミタルモ納得スルノ形跡ナク続テ Heflin (Alabama, Democrat) モ日本人関係ニ就キ「リード」案ニ反対シタルカ「リード」ヨリ日本問題ニ付本日票決ヲ為シタシト希望シタルモ議員中尚本問題ニ付討論ヲ希望スル者アルニ付延期シタシト述ヘ四月十一日ノ会議ニテ票決スルコトニナリ散会セリ

桑港ニ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ転送セシム

四九　四月十二日(着)　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛(電報)

下院移民法案討議ノ模様特ニハーシー等ノ排日論議ニ付キ報告ノ件

第二七六号

四月八日下院移民法案討議ノ模様左ノ通

午前十一時開会ト共ニ直ニ移民法案審議ニ入リ午後六時迄間断ナク討論ノ上午後八時再開十一時予定ノ如ク討論ヲ終結セリ午前午後ヲ通ジ「ジョンソン」案反対者及賛成者各十八名宛交互登壇演説シタルカ反否双方共民主党議員各九名共和党議員各九名ナリキ右法案賛成議員中五名ハ特ニ日本人問題ヲ主題トシテ排日立法ノ必要ナルヲ力説シ法案反対者中ニハ一人モ日本人問題ニ言及スルモノ無キノミナラス反対者ノ筆頭タル Sabath ハ帰化不能外国人入国禁止条項挿入ハ移民委員会全会一致ニテ可決セルモノニテ本問題ハ最早討議ノ題目ニアラスト述ヘタル位ナリ

日本人問題ニ論及セルモノノ内 Hersey (「メイン」共和党) ハ米国ハ白人ノ開拓セル国ニシテ他ノ人種ハ茲ニ繁殖スルコトヲ許シ得ス吾人ハ嚮ニ米国開発ノ必要上労働者トシテ支那人及日本人ヲ招キタルモ彼等ハ既ニ其労務ヲ完了セルヲ以テ本国ニ帰還スルモノナルニ拘ラス我西海岸ノ沃土ニ占拠シテ白人ト優劣ヲ競ヒ我文明ヲ脅シツツアリト云ヒ Box (「テキサス」民主党) ハ紳士協約ヲ攻撃シテ該協約ノ締結ハ行政部カ議会ノ同意ヲ経スシテ外国ト取極ヲ為シタル事例ニシテ憲法違反ナリ又国家主権ニ属スル事項ヲ外国ノ手ニ委シタルモノナリト云ヒ議会ヨリ不当ニ奪ハレタル此権限ヲ恢復スルハ議会ノ尊厳ニ関スル大重大問題ナリト述ヘ Miller (「ワシントン」共和党) ハ有色人種排斥ノ根本理由ハ白人ノ建設セル米国領土ニ有色人種ヲ蟠踞セシメスト云フニ存ス日本人ハ支那人ト異リ一種勇勉ノ国民ニシテ其到ル処他ノ国民ハ必ス彼等ニ圧倒セラレサルハナシトテ西部地方ニ於ケル日本人ノ経済的勢力ノ行渡レルコト人口増殖ノ大ナルコト、公立学校ニ於ケル白人児童トノ関係、土地所有禁止法ヲ潜リテ依然農地ヲ占有シ居ルコト、同化シ難キコト、日本人トノ雑婚ハ唾棄スヘキモノナルコト等ニ就キ従来排日家ノ言ヒ古シタル論法ヲ以テ詳細ニ亘ル議論ヲ為シ最後ニ西岸諸州ハ日本トノ通商関係殊ニ密接且多大ニシテ吾人ハ之ヲ継続且発達セシメンコトヲ切望スソレニハ人種的競争ノ因ヲ早ク除去スルコト必要ナリト結ヒタリ

土地法僭(?)脱ニ関シテハ

(一)米国生幼者名義ニテ土地ヲ所有スルコト

(二)貸金ニ対スル土地抵当権ノ形ニテ保有スルコト

(三)土地会社ノ方法ニ依ル

等ヲ挙ゲタリ

Raker (「カリフォルニア、デモクラット」) ハ紳士協約カ秘密裡ニ実施セラレ居ルコト、該協約ニ拘ラス日本人ロノ増加シツツアルコトヲ攻撃シ布哇ハ日本人ニヨリ「プレドミネイト」セラレ白人ハ「ホープレス、ミノリチー」トナリツツアリトノ統計ヲ示シ之ト同シ状態ハ西部諸州ニモ出現シツツアリト述ヘタルカ此時 Sabath 発言シテ移民委員会ノ少数意見モ多数意見ト同シク日本人入国禁止条項ニ賛成シタルコトヲ的確ニ声明シタシト述ヘ Raker ハ拍手ノ裡ニ右ノ次第ヲ声明シタル後紳士協約ハ憲法違反ナリ吾人ノ要求スル唯一ノコトハ此際明確ナル立法ヲ以テ紳士協約ヲ断然無効トスルニアリト述ヘ尚紳士協約ハ若シ日本移民

カ今後尚入国スルコトアル場合ハ直ニ排日立法ヲ制定スヘシトノ条件付ニテ成立シタルモノナルコト今日迄日米両国政府ニヨリ秘密ニ付セラレアルモ「ルーズヴエルト」ノ手記ニ依リ明瞭ナリトテ同大統領ノ自叙伝ヲ引用セリSabathハ此時再ヒ発言シテ日本人排斥ハ委員会一致可決セルモノナルニ依リ此問題ハ本日討議ノ主題ニアラスト述ヘタリ、Free（加州共和党）ハ日本移民カ米国ニ取リ如何ニ危険ナルカニ就キ篤ト議会ノ納得ヲ得ンカ為数言述ヘタシト前置シテ白色人種ハ政治的ニ地球表面ノ九割ヲ支配シツツアリ然ルニ人口ヨリ云ヘハ白色人種ハ世界人口ノ四割ヲ占ムルニ過キス然モ地表ノ五分ノ四ハ有色人種ニ依リ占拠セラレツツアリ而シテ有色人種ノ増殖ハ白人ヨリモ大ナリ故ニ有色人種カ白人ノ土地ヲ漸次蚕食シ来ルヘキハ当然ノ趨勢ナリ有色人種ノ内日本人ハ最「アグレッシブ」ニシテ其人口ハ稠密シ居レリ日本ノ領土的膨張ノ希望ハ欧州大戦ニ於ケル遣口ニテモ明瞭ナリトテ日本ハ連合国ニ味方シテ支那及太平洋上ノ独逸属領ヲ其手ニ収ムルヤ其後ハ最早欧州及近東ニ出兵スルコトヲ拒絶シ露国ノ崩壊スルヤ再ヒ西比利亜ニ出兵シ戦後長ク茲ニ蟠踞セリ斯テ日本ハ将ニ北米ニ目ヲ注キツツアリ日本移民問題ヲ加州一地方ノ問題ナリト誤解シツツアルモノアルモ大ナル短見ナリトテ西部ニ於ケル日本人勢力ニ就キ農業漁業金融業其他各種営業人口問題、学校問題、二重国籍問題ヨリ「シントイズム」及仏教ニ含マルル思想ノ危険ナルコト等ニ亘リ詳細ノ説明ヲ為セリ

尚国務長官ヨリ Frothingham 宛書翰及「ジョンソン」宛四月七日付書面夫々両議員ヨリ披露セラレ議事録ニ記載セラレタリ

転電先往電第二七二号ノ通

五〇　四月十三日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

排日条項ヲ含ムジョンソン移民法案下院ヲ通過ノ件

第二八四号

排日条項ヲ含ム「ジョンソン」移民法案本日午後三百二十二対七十一票ヲ以テ下院ヲ通過シタリ（四月十二日午後五時）

桑港ニ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ転電セシム

五一　四月十三日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

下院ニ於ケル帰化不能外国人条項ニ対スル唯一人ノ反対者バートンノ意見報告ノ件

第二九〇号

往電第二八四号ニ関シ十二日ノ下院ニ於ケル移民法案ノ審議中帰化不能外国人ニ関スル第十二条(b)項ハ殆ト何等ノ討議無ク通過シタルカ其際只「バートン」（「オハヨ」共和党）一名発言シ右条項ニ反対シ「クォータ」ヲ日本人ニ適用スル事ノ得策ナルヲ主張シ平和維持ノ為又米国自身安全ノ為ニハ日本ト友好関係ヲ維持スル事 absolutely essential ナリ国際友好関係ノ維持ハ単ニ正義公正ノ行動ノミニ依リ達成セラルルニ非スシテ之ニ加フルニ他国民ノ感情及「サッセプチビリテー」ヲ尊重スル事ヲ必要トス第十二条(b)項ハ most grievous offence ヲ日本ニ与ヘ且日本人入国制限ノ目的ヲ達スル為ニハ不必要ノ条項ナリ国務長官ハ此ノ条項実施ヨリ生スヘキ危険ナル結果ニ就キ指摘シタリトテ二月八日付同長官ノ書面ノ一部及四月十日付本使及国務長官間ノ往復文書全文ヲ評シタル後紳士協約成立以来日本ノ執リタル行動ニ顧ミレハ日本人排斥論者ノ目的ハ日米間ノ amicable settlement ニ依リ達セラルヘキ事確実ナリトテ日本カ紳士協約ヲ忠実ニ実施セル事ヲ簡単ニ説明シ此ノ協約ヲ廃棄セハ日本移民取締リハ今ヨリモ一層困難ト成ルヘシト云ヒ更ニ日本大使日本政府ノ感情ヲ直截ニ述ヘ又日本政府ハ日本移民ヲ歓迎セサル国ニ対シ之ヲ送ルノ意思無キ事ヲ明カニ声明シ居レリ本問題ハ上院ニ懸案ト成リ居ル次第モアリ自分ハ決シテ下院ニ対シ右条項削除ノ投票ヲ為サン事ヲ請フニ非サルモ爰ニ本条項ニ対スル自分ノ反対意見ヲ most emphatically ニ表明セントスルモノニテ本法カ大統領ノ手許ニ送致セラルル以前ニ右条項カ全然削除セラルルカ適当ノ修正ヲ加ヘラレン事ヲ切望スルモノナリト述ヘタリ

桑港ニ転電シ沿岸各領事ヘ転送セシメタリ

五二　四月十四日　松井外務大臣ヨリ　在米国埴原大使宛（電報）

日本人排斥条項ヲ含ム法案万一上下両院ヲ通過シタル時ハ遅滞ナク大統領ニ否認申入方訓令ノ件

第一六五号　極秘

貴電第二八四号ニ関シ

「ジョンソン」法案ハ遺憾ナカラ下院ヲ通過セル処上院ニ於ケル形勢ハ貴官累次ノ報告ヨリ察スルモ必スシモ楽観ヲ許サス或ハ「ショートリッヂ」修正案ノ成立ヲ見ルニ至ルヤモ保シ難キヲ以テ万一排斥条項ヲ含ム法案両院ヲ通過スルニ至ラハ貴官ハ機ヲ逸セス大統領ニ於テ同案ヲ否認スル様御申入アリ度予シメ申進ス

五三　四月十四日　在米国埴原大使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

上院ニ於ケルリード移民法案ニ関スル秘密会並ビニ一般討議ノ模様報告ノ件

第二九二号　（四月十五日接受）

十四日上院ニ於テ「リード」移民法案討議セラレタルカ午後六時迄ニ当館ニ達シタル諸報告ヲ綜合スルニ形勢大要左ノ如シ

共和党領袖「ロッヂ」ノ動議ニ依リ移民法案中ノ排日条項ヲ審議スル為秘密会議ニ入リ約四十五分ヲ経テ公会ニ復シタルカ「ショートリッジ」「スワンソン」「ロッヂ」「スターリング」「ウィリス」「リード」其他互ニ発言討議ノ末第三条中「条約若クハ移民ニ関スル協約ニ依リ入国スルモノ云々」ノ字句ヲ挿入スヘシトノ移民委員会修正案ヲ七十六対二票ヲ以テ否定シタリ右終テ「リード」ハ直ニ発言シ第三条中前記ノ個所ニ下院「ジョンソン」案ニ於ケルト同様ノ文句「通商航海条約ニ基キ純然商業ヲ営ム目的ニテ入国スル云々」ヲ挿入スヘシトノ修正案ヲ提議シタルカ直ニ可決セリ「リード」ハ更ニ進テ右ノ通上院ノ意志カ決シタル以上ハ日本人入国禁止ニ関スル条項ヲ挿入スルノ必要アリ下院「ジョンソン」法案中ニアル此点ニ関スル文句ハ直ニ上院ノ法案中ニ其儘採用スルニハ不適当ノ点アルヤニ考ヘラルルニ付明十五日改テ此点ニ付修正案ヲ提出シ討議スルコトトシタシト云ヒ其通リ決定セリ尚十五日引続キ移民法案ヲ討議スルコトニ決定シタルカ同日中ニハ全部ノ票決ヲ終ルコトトナルヘシ

転電先往電第二八七号ノ通リ

五四　四月十四日　在米国埴原大使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

下院ジョンソン案ヲ可決シテ上院ニ回付又上院ノ形勢モ一変シ我カ方ニ不利ニナリツツアルコトニ付キ報告ノ件

第二九五号　至急　（四月十五日接受）

本使ノ抗議及国務長官ノ答翰議会ニ交付後移民法案ノ討議ハ下院ニ於テ急速進捗ヲ図リ「ジョンソン」案ヲ可決シテ上院ニ回付シタリ新聞紙ノ論評及一般空気ハ往電第二九四号ノ通下院ノ可決案ヲ非難シ上院ニテハ切メテ冷静ナル決定ヲ為スヘシト予期シ又ハ希望シ居レルニ或ハ排日議員及太平洋岸代表者ノ運動猛烈ニ行ハレタル結果ニヤ十三日夜来上院ノ形勢一変シ殊ニ「スロン」大蔵卿排斥問題ニ関スル大統領ノ強硬ナル態度ト関連シ十四日朝政府党ハ俄ニ領袖会議ヲ開キテ密議シ更ニ上院本会議ニ入ルヤ共和党領袖「ロッヂ」ヨリ本案ノ外交上ニ重大関係アルノ故ヲ以テ秘密会議ヲ請求シタル結果（脱）再ヒ公開シテ劈頭共和党議員及民主党議員交々日本ノ抗議及国務省ノ態度ニ付非難ノ声ヲ放チ遂ニ紳士協約ニ依リ日本人ノ入国ヲ律セントスル移民委員会ノ修正案ハ大多数ヲ以テ否決セラレ形勢更ニ悪化シテ従来排日条項ノ挿入ニ不賛成ナリシ「リード」氏迄モ「ジョンソン」案ニ等シキ排日条項ノ挿入ヲ主張スルノ形勢トナリシハ遺憾ナリ上院ノ討議内情更ニ詳電ス（十四日午後八時）

五五　四月十四日　在米国埴原大使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

上院ニ於ケル移民法案ニ対スル情勢急変シ日本人入国禁止立法ヲ支持スルコトトナリタルコトニ付キ報告ノ件

第二九六号　（四月十五日接受）

往電第二九二号ニ関シ

上院ニ於ケル移民法案ニ対スル今日迄ノ空気ハ日本人入国禁止条項ノ制定ヲ不可ナリトシ日本ノ感情ヲ害セサル方法ニ依リ其ノ目的ヲ達スルノ手段ヲ執ル事必要ナリトノ論相当ニ有力ナリシハ累次ノ報告ニ依リ大体御承知ナル処本日（四月十四日）上院ニ於ケル討議ノ模様ニ付伝ヘラルル所ニ依レハ上院従来ノ空気ハ一変シテ日本人入国禁止立法ヲ支持スルノ態度ヲ執ルニ一致スルニ至レルモノノ如シ議会ヲ傍聴セル館員ノ報告ニ依ルモ「リード」「ウィリス」「ロッジ」其他ノ演説要旨ハ自分等ハ今日迄「クォータ」ヲ日本移民ニ適用セハ最モ能ク之カ入国禁止ノ目的ヲ達シ

得ヘシト信シタルカ為メ好ンテ日本ノ感情ヲ害スル如キ手段ニ出ツルノ不得策ナルヲ主張シ来レルモ今ヤ事態ハ全ク一変セリ即チ四月十日付日本大使ノ書面ハ第一合衆国内政事項ニ関スル日本政府ノ不穏当ナル干渉ニシテ第二ニ日本政府ハ事態ニ依リテハ紳士協約ヲ日本側ヨリ廃棄スヘシトノ意思ヲ仄メカシ米国議会ノ行動ヲ掣肘シ我ヲ threat セントスルモノト見ラル斯ノ如キハ事頗ル重大ニシテ米国議会ハ事ノ当否ハ別トシ合衆国カ全然自由ノ意思ニ依リ決定シ得ヘキ事項ヲ処理スルニ当リ些カニテモ外国政府ノ influence 乃至 threat ニ依リ左右セラルルカ如キハ断シテ容認シ難キ所ナリ故ニ今ヤ吾人眼前ノ問題ハ「クォータ」法適用ニ依リ日本移民入国ヲ幾何減少シ得ヘキヤ等ノ問題ニ非スシテ我移民法ノ制定ニ付外国政府ノ容喙ヲ許スヘキヤ否ヤノ問題トナレリト云フニアリ尚諜報者ノ報告ニ依レハ四月十四日朝議院ニ於テ移民委員其他ノ議員非公式ニ会合シ前記ノ新事態ニ処スル彼等ノ態度ニ付評議スル所アリ其ノ際日本人入国禁止条項採用ノ事ニ大体意見一致シタルモノノ如シトノ事ニテ明十五日ノ会議ニ於テハ日本人入国禁止条項ハ何等カノ形ニテ可決セラルル事ト想像セラル尚又本日ノ投票ニ於テ移民委員会修正案ニ賛成セル二名ノ議員ハ委員長「コルト」及 Sterling (South Dakotta, Republican) ニシテ「ステルリング」ハ日本大使ノ書翰ヲ紳士協約廃棄ノ意志表示乃至日本側ノ異議ト解スルハ誤解ニシテ日本側ハ紳士協約カ米国側ヨリ廃棄セラルル形勢アルヲ憂ヒテ斯ノ如キ行動ニ出テサラン事ヲ希望スルモノナリトテ熱弁ヲ振ヒタリ（十四日午後八時）

桑港ニ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ転送セシム

五六　四月十五日　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

リード提出ノ帰化不能外国人入国禁止条項ヲ票決ニヨラズ上院ニテ可決ノ件

第三〇一号　至急　（四月十六日接受）

往電第二九二号ニ関シ十五日午後五時半上院ハ「リード」ヨリ新タニ提出シタル帰化不能外国人入国禁止条項ヲ何等ノ討議無ク又投票ヲ用ヒスシテ可決セリ右条項ハ結局「ショートリッヂ」ノ修正案即チ下院「ジョンソン」法案中ノ条項ト同一ノモノニシテ左ノ通ナリ往電第二百四十九号「ショートリッヂ」修正案中

(一)ノ quota immigrant トアルヲ nonimmigrant ト修正ス

(二)再渡航者ニ関スル(四)ノ項ヲ全然削除シ（第三条中ニ規定アル為ナリ）(五)ヲ(四)ト改ム尚右(五)ノ内 paragraph C of section 10 トアルヲ削除シ this paragraph ト改ム尚「クォータ」問題其他ニ就テハ未タ決定ニ至ラス翌十六日モ継続移民問題ヲ議スル筈ニテ案全体ニ対スル最終ノ決定ハ一両日中ニ行ハルヘシ（四月十五日午後七時）

桑港ヘ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ヘ転送セシム

五七　四月十六日　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛

ヒューズ国務長官ヨリ下院移民委員長ジョンソン宛書翰写送付ノ件

付属書　四月七日付ヒューズ国務長官ヨリジョンソン下院移民委員長宛書翰写

公第四〇二号　（五月九日接受）

大正十三年四月十六日

在米

特命全権大使　埴原　正直（印）

外務大臣男爵　松井　慶四郎殿

国務長官ヨリ下院移民委員長「ジョンソン」宛四月七日付書面写送付ノ件

往電第二七六号中ニ申進メタル国務長官「ヒューズ」ヨリ下院移民委員長「ジョンソン」宛四月七日付書面別添写ニテ御承知相成度此段申進候也

（付属書）

四月七日付ヒューズ国務長官ヨリジョンソン下院移民委員長宛書翰写

Department of State,
Washington, April 7, 1924.

The Hon. Albert Johnson,
House of Representatives.

My dear Mr. Johnson:

I have received the copy of H.R. 7995 introduced by you in the House of Representatives March 17, 1924, and reported with amendments on March 24, 1924. I understand that you desire that consideration be given to the provisions of section 11 of the bill

and that you desire a statement of my views concerning any amendments that may be necessary in order that the practice at present followed in preparing the annual quota statement, of including certain countries, colonies, dependencies, or other territories under the designations "Other Europe," "Africa (other than Egypt)," "Other Asia," "Atlantic Islands," and "New Zealand and Pacific Islands" shall be discontinued.

With respect to "Other Europe" I might state that under the present practice immigrants from Andorra, Liechtenstein, Monaco, San Marino, Malta, and Gibraltar are charged to the quota allotted to this subdivision.

Under the provisions of section 11 (b) as now drafted, San Marino would be given a separate quota, as it is "a country recognized by the United States before 1890, but for which a separate enumeration was not made in the census of 1890." With respect to immigrants from Malta and Gibraltar, I am of the opinion that, as the bill is now drafted, such immigrants would be charged to the quota of Great Britain and Northern Ireland. Under the provision of the bill, set forth in lines 2 to 12 on page 17, aliens from such a colony or dependency are to be added to the number of those already determined by the census of 1890 to have been born in the country to which the colony or dependency belonged.

It seems, however, that sufficient authorization has not as yet been conferred so that separate quotas can be established with respect to immigrants from Andorra, Liechtenstein and Monaco, as it is not certain that they were recognized by the United States before 1890. It is observed that on page 17 of report No. 350, submitted by your committee on March 24, 1924, favorably reporting H.R. 7995, a statement is printed containing estimated immigration quotas based on census reports of 1890, 1900, 1910, and 1920 on the basis of 2 per cent plus 100 for each nationality. The statement provides a separate quota for each of the three countries above-mentioned. I am of the opinion that, in order to provide such a separate quota, it will be necessary to omit the words "before 1890" in line 21 on page 16 of the bill.

With respect to "Africa (other than Egypt)" I may state that under the present practice immigrants from all parts of Africa, other than Egypt, are charged to the quota allotted to this subdivision. It is observed that on page 17 of report No. 350 above-mentioned the statement provides a separate quota for Morocco, Liberia, Ethiopia (Abyssinia), and the Union of South Africa. These countries and the Union of South Africa, as a self-governing dominion, would be given separate quotas under the bill as now drafted. Furthermore, immigrants from colonies or dependencies of European governments in Africa would be charged to the quota of the country to which the colonies or dependencies belong. Provision is not made, however, for territories over which European governments exercise a protectorate or which formerly belonged to Germany and are now held under mandates. In order to provide for cases of protectorates, it is suggested that you consider the advisability of inserting on page 17, line 3, after the figures "1890," the words "or of a protectorate."

With respect to territories administered under mandates, I consider it desirable to add a provision so that it will not be necessary to treat them as colonies, dependencies, protectorates, or as belonging to the country which holds the mandate over them. I may state that all of these mandates should, in my opinion, be given separate quotas. With a view to dealing with this situation, I suggest that in line 20, on page 17, after the words "United States," the following words should be added: "or (4) in the ad-

ministration of territories under mandates."

I also suggest that on page 18, in line 1, after the word "surrender," the following words be added: "or administered under a mandate."

I consider it desirable to add, on page 18, line 9, after the word "surrender," the words: "or administered under a mandate."

I also suggest that on page 18, line 10, after the word "country," the following words should be added: "Such treatment of territory administered under a mandate shall not constitute consent by the United States to the proposed mandate where the United States has not consented in a treaty to the administration of the territory by a mandatory power."

With respect to "other Asia," I may state that under the present practice immigrants from Persia, Iraq, the Hedjaz, Cyprus, and Rhodes with Dodekanesia and Castellorizzo are charged to the quota allotted to this subdivision. Under the provisions of section 11 (b) as now drafted separate quotas would be given to Persia, the Hediaz, and Muscat (Oman). Immigrants from the island of Cyprus would be charged to the quota of Great Britain and Northern Ireland. A separate quota would be given to Iraq, as it is administered under a mandate. A separate quota would also be given to the islands of Rhodes, Dodekanesia, and Castellorizza as territories surrendered under the provisions of section 11 (b) (3). In case the treaty concluded at Lausanne between Italy and other allied powers on the one part and Turkey on the other part is ratified, these islands will be transferred to Italy and immigrants from these former Turkish islands will be charged to the quota of Italy.

At present the quota designated "Atlantic Islands" includes immigrants from all islands in the Atlantic Ocean other than the Azores Islands, the Canary Islands, the Madeira Islands, and the islands adjacent to the American Continents. Under the bill as now drafted immigrants from the Atlantic islands would be charged to the quotas of the countries to which the island belong.

With respect to the quota designated "New Zealand and Pacific islands," I beg to state that this quota includes immigrants from the self-governing dominion of New Zealand and from various small islands in the Pacific Ocean other than those belonging to Australia, New Zealand, Japan, and the United States. Under the provisions of the present bill, and the amendments suggested above with respect to protectorates, immigrants from these islands would be charged to the quota of the country to which the islands belong or by which they are administered as protectorates. Those territories administered under mandates which are outside the barred zone established by section 3 of the immigration act of 1917 would be given separate quotas under the amendment suggested.

I also desire to invite your attention to the fact that section 11 (b) does not specifically provide that the statement prepared by the Secretary of State, the Secretary of Commerce, and the Secretary of Labor shall be revised annually. I believe it is desirable to make it clear that such an annual revision of the statement is authorized in case it is considered desirable.

In conclusion I desire to make it clear that nothing contained in this letter should be deemed in any way to modify the views I expressed in my letter of February 8, 1924, regarding the desirability of eliminating section 12 (b), which would exclude persons of Japanese nationality from the quota provisions. Referring to the grounds then stated, I may observe that under the provisions of section 10 (a) the quota is fixed at 100 plus 2 per cent of the num-

ber of foreign individuals of such nationality resident in the United States as determined by the United States census of 1890. Upon this basis the quota allotted to Japan would be only 146 persons.

I am sending copies of this letter to Senator Colt, to the Secretary of Labor, and to Representative Frothingham.

I remain, with high regard,
very sincerely yours,
Charles E. Hughes

五八　四月十七日(着)　在米国埴原大使ヨリ松井外務大臣宛(電報)

上院ノ移民法案討議ニ於ケルショートリッヂ、ロッヂ等ノ論議ニ付キ報告ノ件

第三〇三号

往電第二九二号ニ関シ

四月十四日上院移民法案討議ノ模様左ノ通リ

㈠劈頭「ロッヂ」ハ秘密会議ヲ要求シ「リード」之ニ賛成シ動議成立シテ直ニ秘密会議ニ入リ約五十分ヲ経常会ニ復ス

㈡「ショートリッヂ」先ツ米国憲法カ移民問題ヲ議会ノ専権ニ委ネタルコトヨリ説明シ上院カ此問題ヲ論議スルハ其権利ニシテ且義務ナルヲ以テ何等外国ノ容喙ヲ許スヘキニアラスト述ヘ排日条項ハ条約ニ抵触セサル而已ナラス紳士協約ニモ拘束セラレス何トナレハ該条約ハ其目的ヲ達スルコトニ失敗シタルヲ以テ無効ニ帰シタルヲ以テナリ移民問題カ純国内問題ナルコト四国条約付属宣言書ニ徴スルモ明カナリ何レノ国モ自由ニ移民取締権ヲ行使シ得ヘク現ニ日本ノ如キモ朝鮮、支那、馬来、暹羅、瓜哇、「ヒンヅー」人等ノ入国ヲ取締リ居リ何人モ之ヲ非議スルモノナシ之ト同様ニ吾人カ移民法ヲ制定スルモ日本側ヨリ苦情ヲ謂ハルル由緒(イハレ)ナシト論断シ「ボラー」ハ何人ヲ移民トシテ入国ヲ許スヘキヤハ最基本的ノ国家主権ニ属ストテ「ショートリッヂ」ニ賛成シタルカ「ショートリッヂ」ハ更ニ日本ハ其人民ノ為メニ米国ニ於テ土地ヲ欲シタルモ何レモ失敗ニ帰シ今ヤ無差別人種平等ヲ得ントスルニ当リ吾人ハ極力之ニ反対セサルヲ得ス吾人ハ平和ヲ欲シ日本トノ親善関係ヲ望ムモ米国人ノ利益ヲ考フルコトカ先決問題ナリト述ヘタリ

㈢次ニ「ロッヂ」ハ秘密会議ニ於テ予ノ述ヘタル所ヲ簡単ニ述フヘシトテ予ハ常ニ日本ニ対シテ好意ヲ有シ両国家ノ親善関係ヲ増進スル為メニ全力ヲ傾注シタリ従テ今回ノ法案ニ付テモ出来得ル限リ問題ヲ起ササランコトヲ努メタリ然レトモ移民取締リタルヤ基本的国家主権ノ一タリ日本大使カ国務省ニ宛テタル書翰ハ大国ノ代表者ヨリ友邦ニ宛テタルモノトシテハ不穏当ト思考セラル該書翰ハ veiled threat ヲ含ムモノト謂ハント欲ス合衆国ハ外国ノ威嚇ニ依テ立法ヲ左右スヘキニアラサルカ故ニ此際全世界ニ対シテ独リ合衆国而已何人カ入国シテ市民タリ得ルヤヲ決定シ得ル旨ヲ了解セシムル要アリ云々ト述ヘ「モーゼス」ハ之ニ対シ何故ニ veiled threat ナル語ヲ用ヒタリヤ外交上ノ用語トシテ grave consequences ノ二字ハ veiled threat ニ非ス其意義人ノ熟知スル所ニ非スヤト質シ「ロッヂ」ハ此語ハ恰モ米国カ「モンロー」主義侵犯ヲ can not regard with indifference ト云フニ等シク共ニ外交上ノ慣用語ナリト答ヘ更ニ日本大使ノ書翰ハ予ヲシテ修正条項ヲ支持スルコトヲ不可能ナラシムル事態ヲ惹起シタリ予ハ断シテ外国ニ対シ米国カ移民ノ方針ヲ決定スルニ当リ威嚇又ハ讃辞ニ依リテ米国ノ行動ヲ阻止シ得ヘシト考フルカ如キ前例ヲ作ルコトニ同意スルコト能ハスト謂ヒ切リタリ

㈣続イテ「リード」ハ修正条項ヲ出スニ至リタル所以ノモノハ紳士協約ヲ承認シ「クォータ」法ト相俟チテ日本移民制限ノ目的ヲ完全ナラシムルニ在リタリ然レトモ今ヤ事態ハ変化セリ日本移民制限ノ方法如何ハ問題トナラサルニ至リタリトテ「ロッヂ」ト同様ノ論拠ヲ以テ外国政府ノ干渉ヲ攻撃シ veiled threat ノ故ヲ以テ排日条項ニ賛成シ移民会(?)修正ニ反対スルノ已ムナキニ至リタリト述ヘ更ニ吾人ハ此挙ハ過去二十年間ニ於ケル外交上ノ努力ノ結果ヲ失フモノトシテ予ノ痛心ニ堪ヘサル所ニシテ予ハ実ニ深憂ヲ以テ反対ノ一票ヲ投セントスルモノナリト結ヘリ

㈤「スワンソン」(ヴァージニア、デモクラット)ハ吾人ハ移民問題ニ関シ日本ニ対シテ譲歩ニ譲歩ヲ重ネタリ予ハ個人トシテ日本ニ多大ノ好意ヲ有スルモノナルモ自国ニ対スル愛護ノ念ハ一層切ナルモノアルヲ以テ移民決定

権ヲ日本ニ譲与スルカ如キ行為ニ賛成スルヲ得スト述ヘ夫レヨリ海軍条約ノ効果ニ言及シ若シ米国カ千九百十六年ノ海軍計画ヲ遂行スルニ於テハ最大ノ海軍国タリシナランモ日本ヲ信頼スルノ余リ該計画ヲ放棄シ比律賓及「サモア」ノ防備ヲ打切リ四国条約ニ加入シタリ云々ト述ヘ紳士協約ハ日本ニ対シ米国ノ行政権ヲ委ヌルモノナリ日本大使ハ誇ヲ傷ケラルルコトヲ謂フモ若シ外国ノ威嚇ニ屈従センカ是レ米国ノ誇ヲ傷クルモノニアラスシテ何ソヤトテ外国政府ノ干渉ヲ排斥シテ米国ノ自立権ヲ主張シ之ニ対シ「キング」（ユタ、デモクラット）ハ之迄紳士協約ヲ確守シ来リタルニ今議会カ両国政府ノ取極メタル此協約ヲ法律ヲ以テ廃止スルトセハ日本ハ吾人ノ行動ヲ目シテ野蛮且無礼ト為スヘキヲ以テ寧ロ国務省ヲシテ議会ノ意思ニ基キ該協約ヲ廃棄セシムル方得策ナラスヤト反問シタルニ「スワンソン」ハ現行移民法ノ有効期限切迫セル今日現ニ提出セラレ居ル原案ニ依テ移民問題ノ解決ヲ図ルヲ適当ト信スル旨ヲ答ヘ且行政部限リ締結スル国際約束ニ攻撃ノ矢ヲ向ケタリ

(六)「ペッパー」（ペンシルバニア、共和党）ハ紳士協約存

在セル間ハ予ハ其ノ存続ニ賛成シタルモ日本大使カ其ノ抗議書ニ於テ若シ吾人カ何等適当ノ措置ヲ執ラスンハ重大ナル結果ヲ惹起スル虞アルヲ述ヘタル瞬間ニ該協約ノ効力消滅シ何等之ニ拘束セラレサルニ至リタリト述ヘ

(七)尚「ウイルス」（オハヨ、共和党）ハ予ハ委員会ノ一員トシテ委員会ノ修正条項ニ賛成シ紳士協約ニ依リ最善ノ効果ヲ挙ケ得ヘシト信シタリ然レトモ今ヤ日本大使ノ書簡ニ依リ新事態発生シ上院トシテハ移民問題ハ米国ノ問題ナリ外国ニ其ノ決定権ヲ委譲スヘカラスト為スノ外途無キニ至リタリト論シ

(八)「スターリング」（サウスダコタ、共和党）ハ今日ノ上院ノ討議ハ日本大使ノ書翰ノミニ集中シタルモ本末ヲ顚倒シタル議論ナリ若シ吾人カ日本移民ヲ排斥セントセハ此ノ事カ米国及ヒ米国人ノ為正当ナルトノ理由ヲ以テ排斥スヘク日本大使ノ書翰ヲ口実トシテ委員会修正条項ヲ否決スヘカラス且又予ハ日本大使ノ書翰ニ依リ紳士協約カ廃棄セラレタリトノ論ニモ賛成スルヲ得ス該書翰ハ寧ロ米国ノ該協約廃棄ニ対スル強キ抗議ト見ルヘシ予ハ大使ノ書翰ハ他ノ議員ノ云フカ如キ意味ヲ有スルモノト考

ヘラレス大使ハ移民法ヲ制定スル合衆国ノ主権ヲ承諾シ只差別的待遇ニヨリ蒙ムル事アルヘキ日本国民ノ自負心及感情ニ言及シタル迄ノ事ナリ予ハ大使ノ言中如何ナルモノモ veiled threat 又ハ両国間ノ戦争ト解釈スルヲ得ス大使ハ consequences ニ言及シタルモ若シ吾人カ不必要ナル行動ヲ敢テシ自負心強キ国民ヲ疎ンスルニ於テハ consequences カ grave ト成ルハ当然ナリ人或ハ曰ク吾カ太平洋沿岸ハ脅威ヲ受ケツツアリト然レトモ予ハ曾テ此種ノ脅威アリタリト考ヘラレス寧ロ脅威ハ年毎ニ減少シ日本ノ侵入ヲ怖ルル理由ハ益々乏シク成リツツアリト信ストテ紳士協約ノ取極メヲ引用シテ其ノ立証ニ努メ一九一三年ノ加州土地法カ如何ニ米国政府ニ懸念ヲ与ヘタルカヲ述ヘ加州ニ於ケル日本人ノ土地所有カ抑々何ノ脅威ソ僅ニ加州耕地面積ノ一分六厘カ日本人ニ依リテ耕作セラレ其ノ所有面積ハ一「パーセント」ノ十分ノ一以下ニ過キス而モ州法ノ結果夫レスラ皆無ト成リツツアリ爰ニ於テカ西部沿岸諸州ノ受クル日本ヨリノ脅威ト排日ノ結果平和通商両国親善関係ニ及ホスヘキ脅威トヲ比較シ何レカ重大ナル意アリヤ紳士協約存続スルトスルモ

「クオタ」制限ノ結果一年ノ日本人入国数ハ一四六名ニ過キス一億一千万ノ人口ヲ有スル米国カ此ノ少数ノ日本人ノ勢力ニ対抗スルヲ得スト云フカ如キ事アルヘケンヤトテ本使書翰中ノ数節ヲ引用シ折角是迄築キ上ケタル両国間ノ親善関係ヲ水泡ニ帰セシムルノ愚挙ヲ難詰シ加州ニ於テスラ重大ナラサル小事ノ為ニ今回ノ利益ヲ犠牲ニスルノ不得策ナル所以ヲ力説シタリ

(九)之ニ対シ「ジル」ハ仮令百四十六名ハ小ナルモ将来ノ影響ノ大ナルヲ思ハサル可カラス一度日本人ニ「クオタ」ヲ認メンカ軈テハ他ノ東洋人ニ対シテモ等シク之ヲ認メサル可カラサルニ至ルヘシトテ「スターリング」ノ説ヲ駁シテ「ピットマン」ノ賛同ヲ得「ジル」ハ更ニ予ハ日本大使ノ言ヲ他議員ノ如ク無礼ノモノト解セス却テ之カ為ニ移民問題カ根本的ニ解決セラレ両国間ノ禍根ヲ絶ヤシ得ヘシ日本人ノ脅威ヲ感シツツアルモノハ独リ加州ノミナラス他ノ西部沿岸諸州モ同様ナリト述ヘタリ

(十)「シェッパード」（テキサス、デモクラット）ハ白色人種以外ニ帰化ヲ許ササルハ米国伝来ノ政策ナル事ヨリ説キ起シテ帰化権ニ関スル小沢ノ試訴判決ニ言及シ此ノ伝

来ノ政策ヲ変更シ又ハ其ノ変更ヲ誘発スルノ虞アル行動ヲ執ル事ノ許スヘカラサルモノナル事ヲ説キタル後日本内地ノ人口問題ニ論及シテ日本ハ其ノ人口過剰ノ当然ノ結果トシテ海外ニ人口ノ outlet ヲ求メツツアリ吾人ハ之ニ同情ヲ禁セサルモ米国ハ外国ニ対シ人口ノ「アウトレット」ヲ供給スルノ義務ナク実際ニ於テ米国自身モ又漸ク人口過剰難ニ面セントシツツアリ過去ニ於テ米国ハ日本ノ感情ヲ尊重スルカ為紳士協約ヲ成立セシメテ日本移民入国制限ノ途ヲ講シタリ日本ハ該協約ヲ遵守スト称シツツ多数ノ移民ヲ送リテ人口ノ捌口ト為セリ米国諸州中ニ於テ日本人土地所有禁止法ヲ実施シツツアルハ事実ナルモ尚種々ノ方法ニ依リ日本人ハ実際上土地所有ニ等シキ利益ヲ受ケ得ル事ニ成リ居レリ外交手段ニ依リ紳士協約ヲ改訂スルモ結構ナリ然レトモ之等ノ事情ニ顧ミレハ「ヒューズ」国務長官如何ニ大ナル外交家ナリトスルモ農事ニ関係スル日本人ノ入国ヲ絶対ニ禁止スルノ条約締結ヲ日本ニ同意セシムル事ハ不可能ナルヘシ故ニ此際米国カ率直ニ立法手段ヲ以テ伝来ノ政策ヲ実行シ以テ両国間今後ノ不和ヲ防止スルノ措置ニ出テナハ日本国民ハ民ノ絶対入国禁止ヲ実行スル事可ナリトノ論ヲ為シタルカ「アダムス」（コロラド、デモクラット）発言シテ日本大使ノ書翰ニ顧ミ排日条項ニ投票スル事ニ決心セリト声明セル議員（「リード」及「ペッパー」ノ事ナルヘシ）ノ議論ヲ拝聴シタルカ之等議員ノ説明ニ依レハ日本大使ノ書翰ハ紳士協約ヲ日本側ニテ廃棄セルモノナリトノ事ナルモ自分ハ其ノ論理ヲ解スルニ苦ムトテ説明ヲ求メ「スミス」ハ自分ハ左様ニ考ヘ居ラスト答ヘタリ

㈢「ヘッフリン」（アラバマ、デモクラット）ハ共和党領袖等カ先週迄執リ来レル態度ヲ一変シテ吾人ノ主張ヲ支持スルニ至レルハ頗ル清新ノ気ヲ吾人ニ与フルモノナリ彼等ハ声ヲ大ニシテ排日条項ニ反対シ居タルニ民主党側及共和党進歩派等ノ態度漸ク強硬ト成リ形勢困難ト成ルヤ共和党領袖ハ今朝俄ニ評議ヲ開キ日本大使ノ書翰ニケチヲ付ケテ之ヲ種ニ其ノ態度ヲ一変セリ民主党ハ最初ヨリ米国ノ基本権ヲ日本ニ譲与シ置ク事ノ不可ナルヲ主張シタリ排日条項ヲ支持スル為ニハ此ノ理由タケニテ充分ナリ然ルニ共和党領袖ハ何ヲ苦シンテ俄ニ日本大使ノ書翰ニ憤慨シタル如ク装ヒ之ヲ口実ニ其ノ態度ヲ一変セリ

寧ロ吾人ノ行動ヲ appreciate スヘシト述ヘタリ

㈣「ブルース」（メリーランド、デモクラット）モ自分ハ国民トシテ日本人ハ尊敬スルモノニシテ其ノ排斥条項ニ投票セサルヲ得サルニ至レルハ遺憾ナルモ已ムヲ得ス冒頭シテ日米両国人ハ既ニ双方トモ雑婚ヲ快トセサル程全ク異ナリタル人種ニシテ雑婚ノ出来ヌ人種カ同シ土地ニ雑居スル事ハ平和ヲ維持スル所以ニ非ス移民問題モ日米其ノ地位ヲ変転セハ日本ハ必ス米国ト同シ行動ニ出スヘキ性質ノモノニテ排斥条項ハ何等日本ノ感情ヲ傷クル次第ノモノニ非ス然シテ今日ノ事情ニ顧ミレハ東洋人入国禁止ニ関スル米国人ノ信念ハ此際 decisive and final manner ニテ之ヲ表明スル事両国ノ為利益ナリト信スト述ヘタリ

㈤「スミス」（サウスカロリナ、デモクラット）ハ紳士協約ハ米国ヨリ日本ニ与ヘタル favor ト自分ハ心得居タルニ今回ノ日本大使書翰ノ語調ニテ聊カ失望スルモノナリト述ヘタル後移民問題ハ独リ日本移民問題ニ止マラサル次第ナルヲ以テ此際公平ヲ保ツ為及米国ハ目下新タナル労働者ノ吸収ヲ必要トセサル事情トニ顧ミ寧ロ数年間移ヤ之レ全ク politics ノ為ニアラスシテ何ンソヤ共和党ハ今ヤ西部諸州ヲ欺カントシツツアリトテ日本大使書翰ニ対スル共和党ノ態度ハ全ク政治的策略ニ基クモノナル事ヲ攻撃セリ

斯クテ愈々投票ニ入リタルカ当日ノ投票ニ加ハラサリシ議員十八名ニテ其内ニハ当日議場ニ出席ヲシタルニ拘ハラス殊更投票ヲ避ケタル議員モ（編註）（続ク）

編註　続キ部分見当ラズ

五九　四月十七日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

上院ニ於ケル帰化不能外国人入国禁止条項票決ニヨリ七十一対四ニテ再度可決ニ付キ報告ノ件

第三〇五号

貴電（往カ）第三〇一号ニ関シ

四月十六日上院ニ於ケル移民法案討議ニ際シ帰化不能外国人入国禁止条項ハ十五日投票ニ依ラスシテ可決シ去リタルモ右条項ハ重要ノモノナルニ付鄭重ナル手続ニ依リ決定スルコトトシタク依テ今一応本条項ヲ議場ノ再考ニ付シ投票

ニ依リ其ノ採否ヲ決シタシトノ動議成立シ（上院議事規則第十三条参照）投票ヲ行ヒタル結果七十一対四票ノ多数ニテ再度可決セラレタリ右四票ハ Mclean「コンネクチカット、レパブリカン」Sterling, Narnen「ワヨミング、レパブリカン」及 Colt ナリ

桑港ニ転電沿岸領事及布哇ニ転送セシム

六〇　四月十八日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

上院ニ於ケル移民法案討議ノ模様報告ノ件

第三〇九号

四月十六日上院ハ移民法案ニ就キ引続キ討議シタルモ往電第三〇五号通リ帰化不能外国人排斥条項ヲ再度可決セル外ニハ何等決定シタル事項無シ当日ノ演説者中 George（ジョージヤ州民主党）ハ日本大使書翰カ威嚇ヲ含ムヤ否ヤハ日本側ノ意思ヲモ確メタル上之ヲ断定スルニ非サレハ不公平ナリ而シテ今後日本政府カ右書翰ハ何等威嚇ヲ意味スルニ非スト釈明スル事アリト雖自分ハ不思議トセサルヘク故ニ排日条項賛否ノ投票ヲ単ニ日本大使書翰ノ文字ニ基キ左右スルカ如キハ謂レ無キ事ナリ自分ハ排日条項ニ賛成投票ヲ為シタルモ夫ハ米国移民政策上此ノ条項ノ制定ヲ必要ト認メタルカ為ニ外ナラス日本大使書翰ノミノ問題ナラハ自分ハ寧ロ排日条項ニ反対シタルヘシト述ヘタリ

桑港ニ転電「ハワイ」及沿岸領事ニ転送セシム

六一　四月十八日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

上院移民法案中クォータニ関スル条項可決ニ付キ報告ノ件

第三一〇号

四月十七日上院ハ移民法中「クォータ」ノ条項ヲ可決セリ此結果「クォータ」ハ千八百九十年「センサス」ノ「フォーレン、ボーン、インヂヴィジュアル」総数ノ二「パーセント」トシ但一国ニ対スル最少限ノ「クォータ」ヲ百名トスルコトトナレリ四月十八日引続キ爾余事項討議ノ筈ナルカ同日ハ各議員ノ討議ヲ十分間宛ニ限定スルコトトナリタルヲ以テ十八日中ニハ法案全体ノ通過ヲ見ルコトトナルヘシ

桑港ニ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ転送セシム

六二　四月十九日　松井外務大臣ヨリ　在米国埴原大使宛（電報）

移民法中クォータ条項ニ関シ照会ノ件

第一七八号

貴電第三一〇号ニ関シ

四月十七日上院ノ可決シタル「クォータ」条項ニ依レハ一年ニ入国シ得ル外国人ノ総数並各国人ノ最小限ヲ規定シタルノミニシテ各国人ノ一年ニ入国シ得ル最大限ニ付テハ何等ノ規定ナキモノノ如シ果シテ然ルヤ御取調御回電ヲ乞フ

六三　四月二十日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

上院ハ四月十八日移民法案全部ヲ可決セル件

第三一八号　至急

往電第三一〇号ニ関シ

上院ハ四月十八日午後七時十五分六十二対六票ノ多数ヲ以テ移民法案全部可決々定セリ

桑港ニ転電シ布哇及沿岸領事ニ転送セシム

六四　四月二十一日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

上下両院法案ノ差異調整ノタメ両院協議会開催ニ関シ報告ノ件

第三二〇号

往電第三一八号ニ関シ

一、四月十八日上院ハ下院ヨリ回付セラレタル「ジョンソン」法案ハ採用セサルコトニ決シ之ニ代フルニ上院法案ヲ以テスルコトヲ決定シタル次第ナルカ上下両院法案ハ㈠「ヴィゼー、サーチフィケート」㈡「ノンクォータイミグレーション」㈢「クォータ」計算方法及千九百二十七年六月一日以後一ケ年入国移民総数ヲ十五万人ト限定スルコト㈣外国海員等ニ関シ相当ノ差異アルヲ以テ上院両院協議会ヲ開クコトトナリ上院側委員トシテ「リード」（「ペンシルバニア」「レパブリカン」）「スターリング」Keyes（「ニューハンプシャー」「レパブリカン」）「キング」「ハリス」ノ五名指名セラレタリ

二、上院ヲ通過セル法案ニ依レハ帰化不能外国人ニ関スル条項ハ同法施行ノ日ヨリ実施セラルルコトトナリ居レリ下院ノ法案ニ依レハ本年六月（ママ）一日ヨリ実施ノコトトナリ居レリ

三、上院通過ノ法案中ニハ往電第一六二号「リード」修正案採用セラレタリ但右往電ノ文句中千九百二十六年ヲ千九百二十七年トシ三十万人ヲ十五万人ト改メタリ

桑港ニ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ転電セシム

六五　四月十九日　在米国埴原大使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

移民法案ニ関スル上下両院協議会ノ動静報告ノ件

第三二三号　（四月二十日接受）

往電第三二〇号ニ関シ四月十九日下院ハ上院案ニ対シ不同意ヲ表シ協議会ニ於ケル下院側委員トシテ Johnson, Vaile（「コロラド」）Vincent（「ミシガン」）（以上共和党）Sabath（「イリノイ」）Raker（「カリフォルニア」）（以上民主党）ヲ指名セリ依テ本日両院ノ協議委員一同会合シ二十五日第一回ノ協議会開会ノコトニ打合セタルカ協議会ハ遅クモ五月一日迄ニハ終了スヘシト伝ヘラル（十九日）

桑港ニ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ転送セシム

六六　四月二十日（着）　在米国埴原大使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

クォータ条項ニ関シ回答ノ件

第三二四号

貴電第一七八号ニ関シ census ハ在米 foreign-born individuals ノ数ヲ各国別ニ計シ居ルヲ以テ例ヘハ仏国生レノ者ノ総数カ十万人ト計シアラハ其ニ「パーセント」カ一年間ニ入国シ得ル仏国移民ノ最大限ナリ之ニ反シ「アルバニア」生レノ者ノ総数ノ二「パーセント」カ僅ニ十人ナル時ハ同国移民一ケ年ノ「クォータ」ハ百人トスル次第ナリ尚一九二七年七月一日以後ニ於テハ往電第三二〇号ノ通一ケ年ニ入国ヲ許ス移民数ハ各国ノ移民ヲ全部合計シテ最大限十五万人トシ之ヲ或ル比率ヲ以テ各国ニ分配スルモノナリ此ノ比率決定ノ方法ハ一九二〇年ニ於ケル Continental United States ノ全人口ヲ基礎トシ之ヲ構成スル各 national origin ノ人口数ヲ例ヘハ仏国ノ origin ヨリ生レタル者ノ数カ十万人アリトセハ十万人ノ前記人口ニ対スル割合ヲ以テ全体ノ比率トスル次第ニテ換言セハ右十万人カ全人口ノ二「パーセント」ナラハ仏国移民カ一ケ年ニ入国シ得ル数ハ十五万人ノ二「パーセント」トナル次第ナリ

六七　四月二十二日（着）　在米国埴原大使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

帰化不能外国人ノ入国禁止条項実施時期ニ付キ報告ノ件

第三三〇号

往電第三二〇号ニ関シ

上院ヲ通過セル移民法案ニ依レハ帰化不能外国人ノ入国禁止条項ハ該法案カ法律トナリタル時（enactment）ヨリ実施セラルルコトニナリ居リ下院ヲ通過セル法案ニテハ今年七月一日ヨリ実施セラルコトニナリ居レリ往電第三二〇号ニ六月一日トアルハ誤ニ付訂正アリタシ

桑港ニ転電、布哇及沿岸領事ニ転電セシム

六八　四月二十七日（着）　在米国埴原大使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

両院協議会ノ情勢報告ノ件

第三四四号

㈠各種ノ情報ヲ総合スルニ四月二十五日開会セル移民法案ニ関スル上下両院協議会ノ模様左ノ如シ

一　米国ニ於ケル排日移民法成立問題　六七　六八

議題トナレル重ナル事項ハ外国海員問題一九二七年以後ノ「クォータ」ニ関スル上院案 nonquota（脱）条項等ナルカ日本移民問題ニ関シテモ相当話題ニ上リタル模様ナルカ同日ノ会議ニテハ何等決定セル事項ナシ国務長官ハ現在ノ形ニ於ケル排日条項除却方ニ付目下頻リニ努力中ナリト伝ヘラレ移民委員長「コルト」モ大統領及国務長官等ト屢々会見シ本法案 veto ノ必要ナルヲ力説シ居レル趣ナリ「コルト」ハ先ニ両院協議会委員ニ指名セラレタルモ法案ニ対シ大ナル反対意見ヲ有ストノ理由ニテ之ヲ辞退シタリ

㈡排日条項ハ上下両院法案ノ一致スル処ナルヲ以テ両院協議会トシテハ（脱）ノ上ニ手ヲ染ムルノ権限ナク従テ直接之ヲ改廃スルヲ得サル筋合ナルモ当館諜報者ノ報スル処ニ依レハ「クォータ」ノ条項ハ上下両院ノ法案ニ差違アルヲ以テ協議会カ之ヲ修正ノ際ニ「クォータ」ヲ日本ニモ適用スル趣旨ニ改ムレハ日本ヲシテ諸外国ト平等待遇ヲ受ケシムルヲ得ヘシトノ意見各方面ヨリ協議会ニ伝ヘラレ昨日ノ協議会ニ於テモ此事ニ付議スル処アリタルモノノ如シ此種意見ノ成否ハ今日ノ処素ヨリ疑問ナリ尚二

十五日両院協議会終了後下院移民委員長「ジョンソン」ハ再ヒ日本移民問題ニ関シ「ステートメント」ヲ公表シ其内ニ日本ヲ「クォータ」ニ入ルルハ亜細亜人ニ帰化ヲ許サザル伝統的政策ノ formal abandonment ニシテ結局帰化権要求ノ門戸ヲ彼等ニ開放スルモノナリ又日本移民ノ家族ヲ nonquota immigrant トシテ入国セシムル時ハ在米四万ノ独身日本人ハ続々写真花嫁ヲ迎フヘシトノ趣旨ヲ述ヘ居レリ

在米各領事（ホノルルヲ含ム）ヘ転電セリ

六九　四月二十九日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

両院協議会ノ情勢続報ノ件

第三四九号

四月二十六日移民ニ関スル上下両院協議会ニ於テハ上院側ノ譲歩ニ依リ「ノンクォータ、イミグラント」ニ関スル下院案第四条中市民ノ夫及妻子丈ハ「クォータ」外ニ置クコトニ仮ニ決定シタルカ当日協議ノ主題タリシ国境ヨリノ密入国取締ニ関シテハ何等決定スル所ナク日本問題及外国海員問題ニ付テハ論議ナカリシ趣ナリ

尚「リード」ハ四月二十六日大統領ニ面会シタル趣ニテ其内容ハ秘密ニ付セラレアルモ排日条項排除方ニ付大統領ヨリ懇談スル所アリタルモノト想像スル者アルモ諜報者ノ報スル所ニ依レハ「リード」ハ今トナリテハ同人カ最後ニ議場ニ於テ示セル態度ヲ改ムルコト能ハサル立場ニ在リテ大統領トノ会見カ果シテ想像セラルル如キ内容ノモノナリシニモセヨ同氏ノ態度ヲ変更セシメタル形跡認メラレストノコトナリ

尚又諜報者カ「ジョンソン」其他ト接触シタル感想ニ依レハ委員ノ多クハ若シ排日条項ヲ排除ストセハ現在ノ排日移民法案ト並行シテ協定中ニ日本移民ニ関スル他ノ法案若ハ決議案ヲ通過セシムルヨリ外ニ途ナク之ハ今議会ニテハ実行ノ望ナシトノ意見ヲ漏シ居リ大統領ハ veto ヲ為スヤモ知レストノ予想相当行ハレツツアルモ排日条項賛成ノ協議会委員其他議員ハ仮令 veto アリテモ議会カ之ヲ override シ得ヘキ見込充分ナリト称シ居ル趣ニテ「ジョンソン」及其周囲ノ者ハ国務省各種団体殊ニ新聞其他言論界ヨリノ議会圧迫ヲ見テ痛ク焦慮シ断然拮抗ノ態度ヲ堅メ頻リニ運動シツツアル由ナリ

桑港ヘ転電シ布哇及沿岸領事ニ転電セシメ其他ノ在米領事ニ当方ヨリ転電セリ

七〇　四月二十九日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

移民法案中ノ排日条項緩和ニ関スル米大統領ノ努力ニ付キ報告ノ件

第三五二号

移民法案中排日条項緩和ノ為メ議会ト日本ト双方満足ナル解決法ヲ考究中ナル旨発表シテ以来大統領ハ頻リニ各方面ノ有力者ト会見シ努力中ナルコトハ累次ノ新聞情報ニ依リ略々御承知ト存スル所二十六日以来大統領ノ活動著シク目立チ形勢緊張シ居レリ此間ノ消息ハ只今ノ所確実ニ突キ止メル訳ニハ行カサレトモ各種ノ情報ヲ総合スルニ二十六日迄ニハ上院領袖ニ対シテ単ニ其意向ヲ懇談シテ其意見ヲ聞クニ止マリシモ上院移民委員長「コルト」ト会見後事態急進ノ模様ニテ少クトモ協議会ニテ移民法案ヲ急ニ決定セサルコトニ内々打合セ済ミト思ハレ次イテ先ツ両院協議会上院側代表「リード」ヲ呼ヒ「ヒューズ」ヲ招キ為メニ今朝ノ華府通信ハ大統領ノ所謂解決案ニ付キ談合大分進捗セル

ヤニ伝フルモ各新聞トモ其見込付カサルタメ論評ヲ差控ヘ居ルモノト信セラル然ルニ只今接到セル情報ニ依レハ二十八日朝協議会下院代表「ジョンソン」大統領ニ招カレ次イテ「リード」再ヒ招請セラレ「ヒューズ」モ亦会談セル由ニテ veto ニ依ラス何等カ両院ニ渡リヲ付ケ然ル後外交手段ニテノ解決方法ヲ執ラントスルニアラスヤト観測スルモノ多シ愈々移民法案ハ其儘通過セシメ排日条項ニ付テハ其施行期ヲ延期又ハ無期トシ置キ其間ニ外交手段ニ依ル解決ノ余地ヲ残スカ如キ案ヲ考究スルコト可ナリト伝フルモノアリ

不取敢参考迄（二十八日午後）

桑港ニ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ヘ転電セシム他ノ在米各領事ヘハ当方ヨリ転電済ミ

七一　四月二十九日　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

帰化不能外国人ノ入国禁止条項実施時期ニ関スル情報報告ノ件

第三五八号　（四月三十日接受）

諜報者カ両院協議会委員ヨリ内密得タル情報ナリトテ報告

スル所ニ依レハ協議会ハ四月二十九日日本人関係条項ニ関シ協議ノ結果帰化不能外国人入国禁止ニ関スル条項ノ実施期日ハ一九二六年三月一日トスル事ニ大体一応内定シタル趣ナリ右ハ其間ニ外交上ノ手段ニ依リ本件排日移民法ト同様ノ効果ヲ収ムヘキ方途ヲ講スルノ余日アラシムル目的ニ出ツルモノナリト云フ詳細ハ尚確カムルノ途ナキモ不取敢電報ス（四月二十九日午後）

桑港ニ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ転送セシメ其他在米各領事ヘハ当方ヨリ転電セリ

七二　五月二日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

両院協議会ノ情勢報告ノ件

第三六四号

往電第三五八号ニ関シ

移民法ニ関スル両院協議会ハ其ノ後連日会合シ居ルモ予想ノ如キ捗々シキ進行ヲ示サス日本移民問題等重要問題ヲ別トシ比較的議論少キ問題ニ就テハ大体一応ノ協定纏マリタリト伝ヘラルルモ夫サヘ全部形付カサル次第ニテ日本人問題等全部形付キ両院ニ報告セラルルハ尚数日ヲ要スヘシト済ス可シトテ焦慮シ居レル由ナリ要スルニ目下形勢ハ混沌トシテ今ノ進展逆睹ヲ許ササルモ不取敢右電報ス

桑港ヘ転電シ布哇及沿岸領事ニ転電セシム他ノ在米領事ヘハ転電済

七三　五月四日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

両院協議会ノ動静報告ノ件

第三七四号

往電第三六四号ニ関シ

移民法案ニ関スル上下両院協議会ハ五月二日会合シタルモ外国海員問題其他重要問題ハ依然解決セス日本問題ニ付テハ何等触ルル所ナカリシ趣ナリ全部ノ問題ヲ纏メ両院ニ報告スルハ今後尚数日ヲ要スヘシトノコトナルカ五月六日ニハ加州ニ於テ大統領選挙ニ関スル共和党ノ「プライマリー」挙行セラルル筈ナルヲ以テ之ニ対スル掛引モアリ同日迄ハ何ノ途最後ノ決定ヲ差控フルモノト想像シ居ルモノモアリ五月二日迄ノ両院協議会ニ於テ大体協議纏リタル事項ハ別電第三七五号ノ通リナル趣キ諜報者ヨリ内密報告アリタリ尤モ右ハ未タ最後ノ「ボウト」ヲ経タルモノニアラサル故更ニ変更セラルル余地アルモノナリ

本電ハ桑港ニ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ヘハ当方ヨリ転電セリ

七四　五月四日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

両院協議会ニ於テ略々纏リタル事項内容ニ付キ報告ノ件

第三七五号

(一)移民ニ与フル証明ハ "immigration visas" ト称シ之ヲ有スル者ハ旅券ニ対シ別ニ保証ヲ要セス visas 請求者カ移民法上入国ノ資格ナキモノト認ムヘキ理由アル時ハ領事ハ visas 発給ヲ拒絶スルコトヲ得右「ヴィザ」ノ有効期間ハ四ケ月トス但シ右期間内ニ最後ノ外国港ヲ出帆シ米国ニ直行スル場合ハ有効期限後着米シテモ無効トナラス「ヴィザ」請求料壹弗手数料六弗トス其他「ヴィザ」請求ノ手続ハ両院案ノ文句ヲ取リ混セ居レリ

(二) nonquota immigrant ノ制度ヲ設ケル事ニ意見一致シ

(イ)出願ノ時米国ニ居住スル米国臣民ノ家族ノ内夫及妻子丈ヲ nonquota 移民トスルコト

ノ予想行ハレ居レリ日本移民問題ニ関スル大統領及議会間数日来ノ交渉内容ハ今尚極秘ニ付セラレ居リ或ハ諸新聞モ単ニ（不明）各方面ヲ探訪セル結果ニ基キ各種ノ予想臆説ヲ伝ヘ居ルニ過キサル状態ナルカ五月一日諜報者カ議会内各方面ヨリ探聞シ来レル処ニ依レハ其ノ後往電第三四九号末段ノ「ジョンソン」其ノ他西部諸州代表者等ノ運動ハ愈激烈ヲ加ヘ其ノ結果カ往電第三五八号ノ通実施期日延期ノコトニ一応内協議ヲ纏メタル協議会内部ノ形勢ニモ変化アルモノノ如ク従テ今日トナリテハ協議会ニテ結局実施期日トシテ上院案ヲ採用スルヤ下院案ニテ折合フヤモ未定ト云フ外ナク仮令下院案ヲ幾分延期シタル期日ニ決定スルコトアリトスルモ上下両院ノ多数カ之ヲ承認スルヤ否ヤ頗ル疑問トナリタル模様ニテ過日来ノ大統領ト議会領袖トノ交渉モ或ハ茲ニ一頓挫ヲ来タシタルモノニアラスヤト推セラル尚諜報者ノ報告ニ依レハ「ロッジ」ハ両院協議会カ下院案以上ニ期日ヲ延期スルコトハ其ノ権限外ナリトノ説ヲ主張スル外大統領ノ veto ニハ反対ナリトノ説ヲ議員間ニ唱道シ居レル趣ナルカ「コルト」ハ所用ノ為当地ヲ去リ「ジョンソン」其ノ他ハ「コルト」ノ帰華以前ニ協議会ノ決定ヲ

(ロ)学生ヲ nonquota 移民ノ内ニ加フルコト従テ之ヲ第三条中ノ非移民トスル上院案ヲ撤回シ下院案ノ文句ヲ使用スルコト但シ今回ノ案ニテハ College, University, Seminary ノ外ニ School ノ文字ヲ挿入シ且年齢十五歳以上ノ学生ト為シ居レリ其他ノ nonquota 移民ハ

(ハ)再渡航者（従テ之ヲ第三条中ノ非移民トスル上院案ハ撤回セラル）

(ニ)加奈陀、Newfoundland, 墨西哥、玖馬、「ハイチ」、Dominican Republic, Canal Zone 中南米ニ於ケル independent country ニ於テ生レタル者及其妻並十八歳以下ノ子

(ホ)入国出願ノ直前継続満二年間以上 home country ニ於テ minister of any religions denomination 若クハ professors for College, Academies, Seminaries or University ノ職ニ在リ其職業ヲ行フタメ入米スル者及之等ノ者ノ妻及十八歳以下ノ子等ナリ（下院案中熟練労働者ヲ nonquota 移民トスル案ハ撤回セラル）

(三)本条ニ於テ非移民若クハ nonquota 移民トシテ特ニ指定シアルモノニ非サル以上ハ非移民若クハ nonquota 移民トノ間或ル縁故（relationship）アリトモ此種移民トシテ入国スルヲ許サス又移民ニ関スル他ノ法律ノ適用ヲ除外セラレ居ルモノト雖モ本法ニ於テ非移民若クハ nonquota 移民ト定メアルモノニアラサル限リ非移民若クハ nonquota 移民トシテ入国スルヲ許サス

(四)米国臣民ノ父母（五十五歳以上ノ者）夫及妻並熟練農業労働者ニハ immigration visa 発給ニ付優先権ヲ与フ親族ニ対スル immigration visa 出願発給ノ手続ニ付テハ大体下院案ノ通リトス

(五)再入国許可証ニ関シテハ上院案ノ文句ヲ大体採用

(六) quota ハ一八九〇年「センサス」ノ二「パーセント」ヲ最大限トシ最小限ヲ百名トシ一九二六年以後一ケ年移民入国数ヲ十五万人トスル等上院案ノ趣旨ヲ採用ス尤モ一九二七年以後ノ条項ハ結局削除セラルル possibility 多シトノ事ナリ

(七) nationality ノ意義ニ関スル下院案第十一条ハ大体其儘採用セラレ唯(A)項中子供ノ年ヲ二十一歳以下トシ(B)項中合衆国トアルヲ Continental United States トス

(八)入国禁止ニ関スル下院案第十二条ハ大体其儘採用シ唯再入国者ハ immigration visa ヲ要セストノ proviso ヲ設ク

日本人ニ関スル(B)項ハ採否ヲ決セス

(九)追放ノ条項ハ上院案第十一条ヲ其儘採用ス

(十) maintenance of exempt status ニ関スル下院案第十四条其儘採用ス但シ熟練労働者ノ文字ヲ削除ス

(十一) penalty for illegal transportation ニ関スル下院案第十五条ハ其儘採用セラル但シ船会社ハ現金ノ代リニ確実ノ bond ヲ供シ得ル旨定ム

(十二)接続外国領土ヨリノ入国ニ関シテハ下院案第十六条ヲ採用ス

(十三) unused immigration ニ関シテハ上院案第十五条ヲ採用ス

(十四)外国海員条項並本法案実施期日ニ関スル条項等ハ尚決セス前記ノ外上下両院案ノ趣旨一致シ居ル部分ハ適当ノ形ニテ存置セラルル事勿論ナリ

桑港ニ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ヘ転送セシム他ノ在米各領事ヘハ当方ヨリ郵送セリ

七五　五月七日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

両院協議会ノ動静報告ノ件

第三八〇号

諜報者ノ報告ヲ総合スルニ移民法ニ関スル両院協議会五月三日ノ会合ニ於テ外国海員ニ関スル下院法案第十八条第十九条及第二十条ヲ採用スルコトニ仮ニ決定シ往電「キング」修正案中ノ二条項ハ採用セサルコトトナレル趣ナリ協議会ハ五月六日迄休会シ同日更ニ会合ノ上出来得レハ全部ノ問題ニ付最後ノ票決ヲ為シ両院ニ報告スル予定ナリト云フ前記ノ如ク外国海員問題モ一応決定シタルヲ以テ残レル重要問題ハ日本移民問題及一九二七年以後ノ移民入国制限問題ナルカ後者ハ前電ノ通否決ノ可能性多シト云ヒ日本移民条項ニ関シテハ五月三日「リード」ヨリ「日本移民入国禁止ノ政策ハ既ニ確定セルモノト認メ居レリ協議委員ノ目的ト為シ居ルハ外交関係ノ処理ニ就キ unnecessary embarrassment ヲ大統領ニ与ヘサラントスル一点ニアリ」トノ言明アリタル趣ニテ諜報者ハ該条項ハ何ノ途其ノ儘存置セラルヘキコト疑ナク目下専ラ問題トセラレ従テ決定ニ至ラサルハ該条項実施期日延期問題ニ関スルモノノミナリト報シ居レリ

本電ハ桑港ヘ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ヘ転送セシム其ノ他ノ在米各領事ヘハ当方ヨリ転送セリ

七六　五月七日(着)　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

排日移民条項ノ実施時期延期ニ関スル修正案文報告ノ件

第三八二号

往電第三六四号ニ関シ諜報者ノ極最近探知セル所ニ依レハ往電第三五八号報告ノ排日移民条項実施期延期ニ関スル修正案文ハ左記ノ通ニテ右案文ハ協議会ニテ其最後ノ採否未定ノ儘ニテ残リ居ル模様ナルヲ以テ日本人問題ニ関シ最後ノ表決ヲ為ス場合ハ多分之ヲ原案トシテ其採否ヲ決スルコトトナルヘキモ形勢ハ依然往電第三六四号ノ通ニテ何等予測シ難キ状態ナリト云フ

On and after March 1, 1926, no alien ineligible to citizenship shall be admitted to the United States unless such alien (1) is admissible as a non-quota immigrant under the provisions of subdivision (b), (再渡航者) (d) (宗教師教授) or (g) (学生) of Section 4, or (2) is the wife or the unmarried child under eighteen years of age, of an immigrant admissible under such subdivision (d), and is accompanying or following to join him, or (3) is not an immigrant as defined in Section 3, provided, however, that the provisions of this paragraph shall not apply to the national of those countries with which the United States of America; after the enactment of this Act, shall have entered into treaties, by and with the advice and consent of the Senate, for the restriction of immigration.

桑港ニ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ転電セシム他ノ在米各領事ヘハ転電済

七七　五月七日(着)　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

両院協議会ニ於ケル妥協案決定ニ付キ報告ノ件

第三八五号

移民ニ関スル両院協議会ハ今六日午後妥協案ヲ確定シ最後ノ票決ヲ遂ケ日本移民ニ関シテハ下院法案第十二条(b)項ヲ採用シ其ノ実施期日モ下院案ノ通本年七月一日ト決シタル趣ナリ右法案ハ七日午後三時両院ニ報告セラルヘシト云フ委細追電ス（六日午後六時）

桑港ニ転電シ布哇及沿岸領事ヘ転送セシム他ノ在米領事ヘ転電スミ

七八　五月七日　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

妥協案ノ取扱ニ対スル米大統領ノ立場ニ付キ報告ノ件

第三八六号　（五月八日接受）

往電第三八五号ニ関シ今七日午前大統領ハ国務長官及協議会委員中共和党ニ属スル主ナル者ヲ招致シ何等カ協議シタル趣ナルカ当館諜報者ノ報スル所ニ依レハ右ハ大統領カ昨日ノ協議会ノ決定ニ不満ニシテ該決定両院ニ報告前何等カ妥協ノ途ヲ講セントスルモノノ如ク夫レカアラヌカ両院協議会ハ昨日最後ノ票決ヲ為シタルニ拘ハラス本日午後三時ヲ以テ再ヒ開催ノコトトナリ議会ヘノ報告ハ右再協議ノ結果ヲ俟ツコトトシタル由尚諜報者ノ謂フ所ニ依レハ右再協議カ如何ナル結果ヲ齎スヤ素ヨリ予見ノ限リニ非サルモ議題ハ矢張往電第三八二号ノ排日条項実施期ヲ一年乃至夫レ以上延期スルヤ否ヤノ点ナルヘク何レニスルモ茲二十四時間以内ニ何トカ決定スヘキ模様ナリト謂フ尚又他ノ筋ヨリノ情報ニ依レハ本日午後一時迄ニ当地ニ接到セル加州「プライマリー」ノ報道ハ「クーリッジ」ノ依然優勢ナルヲ伝フルノミナルカ加州ノ形勢如何カ大統領ノ本案ニ対スル「ヴィトー」ト否トニ関係アルモノト仮定シタリトスルモ「プライマリー」ニ於テ優勢ナルコトハ必スシモ「ヴィトー」ノ機会ヲ多クスル所以ニ非ス却テ大統領トシテハ加州有権者ノ自己ニ対スル信任ニ背カサランカ為排日条項ヲ含ム法案ニ署名スル動機トナルニ非スヤト観測スル者アル趣ニテ又一部ノ消息通ハ大統領ハ移民法案ヲ「ヴィトー」スルコトヲ欲シ居ラス従テ飽ク迄「ヴィトー」以外ノ方法ニ依リ排日条項ニ対スル緩和ヲ策センカ為手段ヲ尽シツツアルモノナラント観測シ居レリト謂フ（七日午後三時）

桑港ニ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ転電セシム他ノ在米領事ヘハ当方ヨリ転電ス

七九　五月七日　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

帰化不能外国人条項ニ但書ヲ付スルコト及ビ

右妥協案ヲメグル大統領ト議会トノ応酬ニ付キ報告ノ件

第三八八号　（五月八日接受）

往電第三八六号ニ関シ両院協議会ハ七日午後会合審議ノ結果帰化不能外国人入国禁止ニ関スル下院法案第十二条B項ノ末尾ニ左ノ proviso ヲ加フル事ニ確定シ八日両院ニ報告スルコトトナリタル趣諜報者ヨリ報告アリタリ

"Provided that this subdivision shall not take effect as to exclusion until March 1, 1925, before which time the President is requested to negotiate with the Japanese Government in relation to the abrogation of the present arrangement on this subject."

右ハ㈠一九二五年三月一日迄ハ帰化不能外国人入国禁止ニ関スル条項ヲ実施セス従テ夫レ迄ノ間ハ日本人ニモ一般「クヲタ」法ヲ適用スヘク㈡右期日迄ニ紳士協約ヲ外交手段ニテ廃棄シ以テ所謂外交上ノ困難ヲ排除シタル上愈一九二五年三月一日以後排日条項ヲ実施セントスル趣旨ト解セラル諜報者ノ詳報ニ依レハ大統領ハ本日早朝来国務長官「ジョンソン」及「リード」其他ノ両院協議委員ヲ招致シタル後モ尚ホ「ロッジ」「ジレット」「ロングウォース」其他両院ノ共和党首領トモ会談ヲ重ネ一九二六年三月一日迄延期方勧告シタルモ結局前記ノ通折合フ事トナリタルモノニテ前記案ハ協議会案トシテハ確定セルモノナリト云フ

尚右案カ両院ニ報告セラレ其ノ討議ニ付セラレタル際ハ必ス両院協議会ノ権限ヲ踰越セル妥協案トシテ議事規則上ノ反対論起ルヘシト察セラルルモ前記ノ通大統領ヨリ両院ノ共和党首領等ニ対シ熱心ニ前記妥協案通過方ニ関シ勧説スル処アリ鮮クモ下院側領袖等ハ大統領ノ希望ヲ容ルルノ態度ヲ執リ居ルモノ多シトノ事ナルモ上院側ノ態度ハ尚疑問ニシテ右妥協案カ両院ヲ通過スルヤ否ヤハ今日ノ処尚予見困難トセラルル趣ナリ（五月七日午後五時半）

桑港ニ転電シ布哇及沿岸領事ニ転電セシメ他ノ在米領事ニハ当方ヨリ転電済

八〇　五日九日(着)　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

移民法案ニ対スル議会方面ノ情報報告ノ件

第三九四号

五月八日午後六時迄ニ接到ノ移民法案ニ関スル議会方面ノ情報左ノ如シ

一、「ジョンソン」起草中ノ協議会報告書未タ完了セサル為本日午後下院ニ対スル該報告書ノ提供間ニ合ハス或ハ明九日トナルヤモ計リ難ク果シテ右ノ如クナラハ議事規則ニ依レハ報告後一日ヲ経サレハ議場ニテ討議シ得サルコトトナリ居ルヲ以テ下院ノ討議ハ十日トナルヘシ

二、協議会ノ報告ニ対スル上院ノ正式討議ハ下院ノ討議決定後之ヲ行フ規則ナルヲ以テ上院ノ議ニ上ルハ来週ナルヘシ但シ上院ハ議事日程ニ関係ナク諸問題ヲ討議シ得ル関係上排日条項ノ実施期延期問題ハ既ニ本日午後ノ上院議場ニ於テ討議セラレタリ即チ「ロビンソン」「ハイラム・ジョンソン」「ボラー」ヲ初メ其他ノ諸議員ハ協議会ノ妥協案ニ反対意見ヲ表明スルト共ニ大統領ノ措置ヲ攻撃シ「リード」独リ之ニ対シテ弁護ノ論ヲナシタルカ「ロビンソン」ハ移民ハ内政事項ニシテ之ヲ条約ニテ取極ヲナスカ如キ特権ヲ一度日本ニ対シ認ムルニ於テハ他国ヨリモ同シ特権ヲ要求セラルルニ至ルヘシト論シ「リード」モ亦之ニ答ヘテ協議会ハ移民ヲ以テ国内事項ト認ムルヲ以テ紳士協約ノ廃棄ヲ大統領ニ要求スルコトトナシタル次第ナリト述ヘタリト云フ委細後報スヘシ

桑港ニ転電「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ヘ転電セシメ他ノ在米各領事ヘハ当方ヨリ転電セリ

八一　五月九日(着)　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

両院協議会妥協案ノ修正箇所ニ付キ報告ノ件

第三九五号

両院協議会妥協案ハ往電第三七五号其他ニテ申進タル仮決定案ヲ大部分其儘採用シ居ル処最後ノ確定ニ当リ修正セラレタル箇処中左ノ条項アリ

㈠一九二七年迄ノ quota ハ往電申進タル通ナルモ同年七月一日以後ノ quota ニ付先 The annual quota of any nationality for the fiscal year beginning July first 1927 and for each fiscal year thereafter shall be a number, which bears the same ratio to 150000 as the number of inhabitants in the Continental United States in 1920, having that national origin(ascertained as hereinafter provided in section) bears to the number of inhabitants in the Continental United States in 1920,

but the minimum quota of any nationality shall be 100 ト定メ同項ニ所謂 national origin ハ各個人ニ付其先祖ヲ探究シテ之ヲ決定スルニ非ラスシテ各国（本法中 nationality 定義ニ関スル条項ニ規定セラルル項別ニ従フ）毎移民出入ニ関スル統計並十年毎ニ行ハルル合衆国 census ニ現ハルル人口増加ノ統計及其他信拠スヘキ資料ニ基キ之ヲ決スヘク又前記ノ所謂一九二〇年ノ合衆国全人口中ニハ中南米加奈陀等（往電第三七五号中㈡ non immigrant ノ種類ノ）ニ生レタル者及其子孫ヲ含マス又帰化不能外国人及其子孫ヲ含マス奴隷ノ子孫及米国土人ノ子孫ヲ含マスト定ム

㈡左ノ条項ハ本年七月一日ヨリ実施ス

㈠immigration visa 及 non quota immigration visa 発給ニ関スル条項（但 visa ハ七月一日以前ニ於テモ予メ之ヲ発給シ同日ヨリ有効ナラシム）

㈡exemption from us ニ関スル条項（帰化不能外国人入国禁止条項ヲ含ム）

㈢追放ニ関スル条項及 maintenance of exempt status ニ関スル条項

㈢penalty for illegal transportation ニ関スル条項

㈣前記以外ノ条項ハ本法ノ法律ト成リタル時ヨリ即時実施シ但本年七月一日以前ニ米国ニ到着シタル外国人ニ関シテハ本法ノ規定ニ関係無ク従来ノ法律ニ依リ其入国スル権利ノ有無ヲ判定ス但 burden of proof ニ関スル条項ノミハ此場合ニモ適用ス

桑港ニ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ転電セシメ他ノ在米各領事ニハ当方ヨリ転電済

八二　五月十日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

下院移民委員長ジョンソン排日条項ノ実施ニ関連システートメント発表ノ件

第三九六号

五月八日下院移民委員長「ジョンソン」ハ左ノ趣旨ノ「ステートメント」ヲ公表セリ

両院協議会ノ妥協案ハ排日条項ノ実施ヲ一九二五年迄延期シタルモ其実際上ノ効果ニ於テハ本年七月一日ヨリ直ニ之ヲ実施スルト何等異ル所ナシ何トナレハ本年七月一日（ヨリ脱カ）一九二五年迄ハ日本人ニモ「クォータ」ヲ適用スル次第ナルカ右期間中ノ日本ニ対スル「クォータ」ハ僅々八十名内外トナル勘定ナルヲ以テ紳士協約ハ本年七月一日ヨリ事実上行ハレサルコトトナルヲ以テナリ而モ右妥協案ノ条文ハ一九二五年三月一日以後ハ排日条項カ必ス実施セラルヘキコトヲ確保スルモノナルコトヲ該条文ヲ熟読スルモノノ諒解ニ難ラサル所ナルヘシ本年七月一日迄ニ迎妻帰米ノ目的ヲ以テ目下桑港埠頭ニ蝟集シ居ル日本人数百名アリ又四百名ノ日本人独身者ハ五月十二日出帆ノ日本船ヲ待チ切レスシテ五月二日ノ「プレヂデント・ウィルソン」号ニテ日本ニ向ヒ出発セリト云フ又日本新聞ノ報スル処ニ依レハ紳士協約上入国ノ権利アル日本婦人其他加州在住ノ親族ニシテ入米ヲ企テ居ルモノハ六千人アリトノコトナルモ本年一月一日後ハ之等ノモノハ入国ヲ許サレサルヘシ云々（五月八日）

桑港ニ転電「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ヘ転電セシム

八三　五月十日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

下院ニ於ケル排斥条項ノ扱イニ付キ報告ノ件

第四〇一号

往電第三九八号ニ関シ

九日午後協議会報告下院ニ付議セラレ排斥条項実施期日延期ニ関シ数時間ニ亘ル論議アリ其結果一一四対一五九ノ多数ヲ以テ下院ハ該報告ヲ承認セサルコトニ決定シタルカ更ニ下院側協議委員ニ対シ実施延期ニ反対スヘシトノ訓令ヲ与ヘテ本法案ヲ再ヒ協議会ニ付スル旨ノ動議起リ採決ノ結果一七一対一九一ニテ右動議通リ通過セリ（九日午後五時）

桑港ニ転電「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ヘ転電セシム他ノ在米各領事ヘハ当方ヨリ転電済ミ

八四　五月十一日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

上院ニ於ケル排日延期条項論議ニ関シ報告ノ件

第四〇三号

往電第三九四号ノ二ニ関シ五月八日上院ニ於ケル排日延期条項討議ノ模様左ノ通

一、「キング」（民主党、「ユター」）ハ今朝ノ華盛頓「ポスト」ニ自分カ仮令協議会案ニ署名シテモ議場ニ於テハ延期条項ニ反対スヘシトノ記事アルモ右ハ誤報ニテ余ハ協議会ニ於テ下院側ヨリ提出セラレタル排日延期案カ大

統領ノ希望ニ副フモノニシテ此ノ際党派観念ヲ離レテ大統領ヲ支持スルコトカ国家ノ利益ニ合スルモノト考ヘ之ニ賛成シタルヲ以テ協議会案カ議題トナラハ之ニ賛成セサルヲ得スト述ヘ更ニ協議会ノ報告カ紳士協約ヲ認ムル条項ヲ含ムヤトノMcKellar（民主党、「テンネッシー」）ノ質問ニ対シ紳士協約ハ行政部カ廃棄ノ手続ヲ執ラサル限リ排日条項カ効力ヲ生スル迄即チ協議会案ニ依レハ来年三月一日有効ナリト答フ

二、「リード」（共和党「ペンシルヴァニア」）ハ協議会案カ各議員ニ徹底シ居ラサルヲ察シ其要領ヲ説明シタルニ Dill（民主党、華盛頓）及 McKellar トモ不満ノ言辞ヲ漏セリ

三、「ロビンソン」（民主党、「アーカンサス」）ハ協議会案ハ移民問題ヲ国際間ノ商議事項トスルモノニシテ何人ヲ合衆国ニ入ラシムヘキヤノ問題ハ純然タル国内問題ナリトスル米国政府従来ノ主張ヲ抛棄スルモノナリ若シ一度日本ニ移民条件ヲ定ムル権利ヲ認ムルニ於テハ忽チ他ノ諸国ヨリ同一権利ノ要求続出スルニ至ルヘシト論シ之ニ対シ「リード」ハ協議会案ハ決シテ日本ニ対シ斯ル権利ヲ付与スルモノニ非ストテ「ロビンソン」ト問答ヲ重ネタリ

四、「ボラー」（共和党、「アイダホ」）ハ排日条項延期ノ結果六十七名内外ノ日本人カ入国スト謂フカ如キハ問題ニ非ス最重要ナルハ第一ニ吾人カ之ニ移民取締ニ関シ外国政府ノ容喙権ヲ認ムルコト、第二ニ協議会カ日本ニ対シ「クォータ」主義ヲ許与シタルコトノ二点ナリト述ヘ「ロビンソン」ハ紳士協約ヲ条約上ノ義務トシテ之ヲ廃棄スルニ非サレハ法律ヲ設クルコトヲ得スト云フカ如キハ紳士協約ノ効力ヲ議会ノ立法権ノ上ニ置クモノナリト述フ

五、「ジョンソン」（共和党「カリフォルニア」）ハ左ノ諸点ニ関シ注意ヲ喚起シタシトテ第一ニ日本ニ対シテ何レノ国ニ対シテモ認メサル移民ニ関スル条約締結権ヲ認ムルハ重大ナル根本問題ナリ第二ニ協議会ハ期日ニ関スル両院ノ見解ノ相違ヲ調和スルニ止マラス議会ノ権限内ノ事項ヲモ取扱ヒタルカ協議会ニ斯ル権限アリヤ第三ニ先刻「リード」議員ハ此ノ問題ハ僅カ百幾名ノ日本人ノ入国ノミニ関スルモノナリト謂ハレタルカ実ハ然ラストテ「マクラッチー」ノ陳述（往電第三七九号参照）ヲ引用シテ近キ将来ニ在米日本人ノ数カ激増スヘシト述ヘタリ

六、「ロビンソン」ハ条約ノ商議ハ大統領ノ権限事項ナルヲ以テ法律ヲ以テ大統領ニ日本トノ条約締結ヲ要求スルコトハ当ヲ得サル而已ナラス移民ニ関スル事項ヲ条約ヲ以テ定ムルハ重大事ナリ若シ日本カ条約締結ヲ拒絶スルカ大統領カ其政策ヲ変更スル場合ニハ如何スヘキヤトテ加州「プライマリー」ノ前ト後ニ大統領ノ態度ノ変更ヲ攻撃スル所アリ

七、Longe（「マサチューセッツ」「レパブリカン」）ハ移民ノ資格ヲ決定スルハ議会ノ権限ト信スト前提シ米国ハ過去ニ於テ移民事項ヲ条約ヲ以テ規定シタルコトアルモ這ハ誤レル政策ト謂ハサルヘカラス協議会案ハ紳士協約ニ言及シ大統領ニ或ル種ノ権限ヲ付与シタルカ這ハ純然タル立法行為ニシテ議会ハ何時ニテモ此ノ規定ヲ取消スコトヲ得ヘシト為シ最後ニ議会ハ宜シク全世界ニ対シ議会ノミカ何人カ移民トシテ合衆国ニ入ルヘキカヲ決シ得ル旨ヲ声明スヘシト論シタリ

八、Ashurst（「アリゾナ」「デモクラット」）ハ吾人ハ行政部ヲ苦シメントスル意思ヲ有セス大統領ヲ苦境ニ立タシメタルハ実ニ内閣員ノ一人ニシテ新聞ノ報道ニ依レハ彼ハ自己ノ意見容レラレサル時ハ辞職スヘシト威嚇シテ協議員ヲシテ無理ニ条項ヲ挿入セシメタル趣ナリ協議会ノ報告ハ第一ニ両院カ既ニ否決シ去リタル事項ヲ挿入セルコト第二ニ其挿入カ外国カ何等容喙ノ権利ナキ国内問題ニ関シ行政部ノ要求ニ依リ為サレタルコトノ二ツノ理由ニ基キ非難ニ値スト述ヘ内閣員ノ威嚇ナル言辞ニ関シ「リード」ト押問答シタル後協議会案ハ一黄色人種東洋ニ於ケル一国家ニ対シ白色人種ニ与フル待遇以上ノモノヲ与ヘントスルモノナリ吾人ハ英国ニスラモ移民問題ニ関シテ米国ノ法律ニ従フヘキコトヲ要求シ其他ノ欧州諸国ニモ同様ノ要求ヲ為セルニ拘ハラス国務長官ノ見当違ヒヨリシテ白色人種ナラサル一黄色人種ニ優先権ヲ与ヘントストテ東洋人ニ対スル悪口ヲ並ヘ日本人カ墨国方面ヨリ侵入シ来ル危険ヲ例証シテ協議案ヲ葬リ去ルヘキコトヲ力説シタリ

九、Harris（「ジョージア」「デモクラット」）ハ余ハ元来一切ノ移民ヲ五ケ年間停止ヲ主張スル者ナルカ排日条項

ニ関シテ余ハ徹頭徹尾其必要ヲ唱ヘ来リタルカ協議会ニ於テモ余ハ唯独リ大統領ノ提議ニ反対ノ意ヲ表シタリトテ協議会ノ内情ヲ報告スル所アリタリ

十、「リード」ハ次テ両院協議会妥協案ハ越権ナリトノ非難ニ対シ答ヘテ一九〇七年ノ移民法制定ニ際シ当時ノ両院協議会ハ今回ト同様紳士協約ヲ承認スル結果トナル provision ヲ新タニ起草シテ当時ノ妥協案中ニ挿入シ其結果今回同様越権問題ヲ生シタルカ両院議長ハ共ニ之ヲ越権ナラスト判断シ両院ヲ通過セル先例アリ右先例ハ今回モ何等変ル所ナク有効ノモノナリ尚紳士協約ハ前記一九〇七年ノ移民法中ニ之ヲ承認セル而已ナラス一九〇七年ノ移民法中ニモ移民ニ関スル「アグリーメント」即チ紳士協約アル国ノ人民ハ合法ノ「クォータ」制限ヨリ除外ノ旨ヲ規定シ以テ紳士協約ノ存在ヲ立法上承認シ居リ加之「ローズヴェルト」大統領以来歴代ノ大統領ノ下ニ於ケル各政府ハ何レモ該協約ヲ承認シ又何人モ該協約カ合衆国ノ名誉及威厳ヲ毀損スルモノナリト思惟シタルコトナカリキ過去ニ於ケル事態既ニ斯ノ如シ然ルニ今回ノ妥協案ハ法律中ニ紳士協約ノ存在ヲ承認スルモノト云フヨリモ寧ロ法律ヲ以テ紳士協約ヲ廃棄スルコトヲ定ムルモノナルヲ以テ何レノ点ヨリ考フルモ今回ノ妥協案ニ対スル攻撃ハ何等当ヲ得タルモノニ非スト力説弁明シタルカ「ショートリッジ」ハ若シ単ニ紳士協約ヲ廃棄スル丈ナラハ本年七月一日迄ノ延期ニテ充分ナリ何ノ必要アリテ明年三月一日迄トセリヤト質問シ Hiram Johnson モ妥協案中ニ in relation to abrogation トアルハ何事ヲ意味スルモノナリヤ大統領ハ過般日本人入国禁止ニ賛成ナリト声明シタルニ拘ハラス今ヤ条約締結ノ意思アルコトヲ示スニ至レルハ前後矛盾ニシテ単純ニ紳士協約ヲ廃棄スル考ナルヤ其他何等考慮シツツアルモノナリヤ判断ニ苦シムトテ暗ニ大統領ノ態度ヲ攻撃シタルカ「リード」ハ大統領ハ支那人排斥条項ト同様ノ条約ヲ日本ト締結スル意思アリタルモノナリ但シ協議会ハ右ノ如キ条約締結ノ余地アル曖昧ノ法文ヲ非ナリトシタルカ為之ヲ修正シ今回ノ妥協案ヲ採用シタルモノニシテ右ハ単純ニ紳士協約ノ廃棄ヲ目的トスル商議ヲ為サシムル趣旨ナリト説明シ尚大統領カ本件ノ如キ修正案ヲ提起シタル動機ノ内主ナルモノノ一ツハ日本ノ感情ヲ顧ミルコトナク立法ヲ以テ紳士協約ヲ廃棄スル如キ議会ノ行動ハ合衆国内「クリスチァン」全体ノ痛切ニ反対スル所ナルコトニ存ス日本ニハ数百ノ米国宣教師アリ過去五十年間ニ於テ多大ノ事績ヲ挙ケツツアリ然シテ是等宣教師ヲ日本ニ派遣シ居ル米国基督教徒ハ前記ノ如キ議会ノ行動ニ依リ大打撃ヲ蒙ルモノナリ自分ハ埴原「ノート」ヲ見テ排日立法ニ投票スルコトハ合衆国ノ威厳保持ノ為喫急事ナリト思惟シタルモノナルモ埴原「ノート」ニ対シテハ日本側ヨリ既ニ full apology アリタル以上出来得ヘクハ友好的温和ノ方法ニ依リ排日ヲ実現スルニ如クハ無シ大統領ノ立場ハ日本ニ在ル米国宣教師ノ事業ヲ困難ナラシムルカ如キコト無キ方法ニ依リ日本移民入国禁止ヲ実現センコトヲ切望スルニアルヲ以テ政派ノ別ナク妥協案ニ賛成ヲ希望スル旨述ヘタリ

二、最後ニ「ショートリッジ」発言シテ自分ハ唯今問題ノ討議ヲ為サントスルニ非サルモ妥協案カ正式ニ上院ノ議ニ上ラハ協議会越権ノ事由ヲ以テ反対スヘク尚移民問題ノ一般政策上ノ点ヨリ見テモ妥協案ノ条項ハ甚タ不都合ノモノナルコトヲ主張スヘキコトヲ予メ声明スト述ヘ尚移民ノ如キ内政問題ニ付他国ト協議ノ上ニ非サレハ立法セサル如キ事例ヲ作ラハ今後日本以外ノ諸国モ続々日本ト同種ノ要求ヲ為スニ至ルヘク斯ノ如キ措置ニハ絶対ニ反対スル外ナク今回ノ妥協案ハ協議会ニ返付シ再考セシムヘキモノナリトノ趣旨ヲ述ヘタリ

八五　五月十一日（着）　在米国埴原大使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

両院協議会ニ於ケル排斥条項実施期日ノ取扱イニ付キ報告ノ件

第四〇四号

往電第四〇一号ニ関シ

十日午後一時迄ニ接到ノ情報ニ依レハ十日午前十時両院協議会開催排斥条項実施期日ニ関シ協議シタルカ結局九日下院ニ於テ否決セラレタル proviso ヲ削除シ排斥条項ハ最初ノ下院通過法案通トシ其実施期モ本年七月一日トスルコトニ決定セラレ尚協議会ハ外国海員ノ問題其他ノ点ニ付協議スル処アリ是亦大体決定シタルニ付本日中ニ取纏メタル上本日ノ下院議事録ニ登載スルコトトナルヘク下院ニテ改メテ賛否ヲ決スルハ十二日トナルヘシト云フ

桑港ニ転電「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ヘ転電セシメ
他ノ在米領事ヘハ当方ヨリ転電セリ

八六　五月十一日(着)　在米国埴原大使ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

協議会決定ニ対スル大統領ノ反応ニ付キ報告ノ件

第四〇六号
往電第四〇四号ニ関シ
諜報者ノ報告ニ依レハ十日協議会ニテ排日条項ニ関シ大体ノ意向定マリタル際従来ノ行掛モアルコト故一応大統領ノ意向ヲ質シタル上決定シタシトノ議起リタルヲ以テ「リード」ハ右協議会ノ意向ヲ齎シテ大統領ヲ往訪シ意見ヲ求メタルニ大統領ハ I have nothing further to say ト答ヘタルヲ以テ協議会ニテハ前記往電ノ通決定シタリト云フ尤協議会ニテモ右大統領ノ言ニ付「ヴェトー」ヲ暗示スルモノナリトスルモノト然ラストスルモノト解釈二様ニ分レ居レル趣ナリ（午後三時）
桑港ニ転電シ布哇及沿岸領事ニ郵送セシメ他ノ在米領事ヘハ当方ヨリ郵送済

八七　五月十二日(着)　在米国埴原大使ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

五月九日下院ニ於ケル移民法案審議ノ模様報告ノ件

第四一一号
往電第四〇一号ニ関シ
五月九日下院ニ於ケル移民法案審議ノ模様左ノ通
両院協議会案ノ審議ニ入ルヤ直チニSabathヨリ排日条項実施期ヲ延期シタルハ協議会ノ権限踰越ナリトノ理由ニテ議事規則上反対スト述ヘRakerハ「紳士協約廃棄ニ関シ日本ト商議スル」旨ノ条項ハ両院ヲ通過セル法案ノ何レニモ含マレ居ラサル新タナル事項ニシテ協議会ノ権限ヲ踰越セルモノナル而已ナラス議会ノ権限ヲ行政部ノ為ニ放棄スルモノナリトノ理由ニテ（脱）該法案ヲ協議会ニ返付シ再審セシム可キ事ヲ予告シタリ之ニ対シ議長ハ上院カ下院ノ法案ヲ全部否決シテ之ニ代フルニ上院側ノ法案ヲ以テシタル場合ニハ両院協議会ハ全然新タナル条項ヲ起草シテ両院ニ報告スルノ権限ヲ有スルハ慣例ノ認ムル所ナリ依テ Sabath, Raker ノ反対ハ成立セスト裁断シタリ茲ニ於テ法案自体ニ対スル討論ニ移リ「ジョンソン」ヨリ協議会案ハ今年七月以後右条項実施迄ハ「クオータ」ヲ日本ニ適用スルモノニテ其ノ間ニ入国シ得ヘキ日本移民ハ僅カニ八十名ニ過キス右協議会案ハ唯日本ニ対スル礼譲ヲ講スル為メ排日条項実施ヲ八ケ月間延期セルニ過キサルヲ以テ議会ハ此事情ヲ諒トシ可決センコトヲ求ムル旨力説シタルカ其間ニ若シ議会カ之ヲ否決セハ此移民法全体ハ遂ニ法律ト為ル望ミナキ事情ニアルヤノ趣旨ヲ洩シタルニ対シ議員ヨリ大統領ハ之ヲ否認スヘシト云フ意味ナリヤト質問シ「ジョンソン」ハ余ハ否認セラルル危険ヲ冒スヲ欲セサル次第ナリト答ヘテ大統領カ否認スル虞アル旨ヲ暗示シ次テ Burton ハ日本カ今ヤ一流ノ文明国ノ列ニアル事ヲ称讃シ之ニ不拘其ノ風俗習慣ノ懸隔ニ顧ミ吾人ハ其入国禁止条項ヲ制定セントスルモノナルカ下院原案ノ如キ方法ニテ之ヲ実行スレハ日本国民ハ永ク其怒ヲ忘ルル事ナカル可シ云々ト協議会案ノ支持ヲ力説セリ次テ Sabath ハ本案中反対スヘキハ単ニ日本人問題ニ止マラス一九二七年後ノ「クオータ」ニ関スル条項ノ如キ最モ甚シキモノナリトテ其理由ヲ説明シ本法案ハ協議会ニ返付ス可シト主張セリ次テ Raker ハ大統領カ此案ニシテ容レラレスハ法案ヲ否認ス可シト云フニ等シキ事ヲ協議会委員ニ述ヘ斯クテ協議会ハ大統領ニ屈服セリ之レ大統領ノ権限外ノ行動ニシテ議会ハ正ニ行政部ニ其権限ヲ奪ハレツツアリト為シ法案ノ協議会返付ヲ主張スルヤ「ジョンソン」ハ痛烈ニRakerノ反省ヲ求ムル所アリタルモRakerハ飽ク迄憲法違反ヲ論シ又本日労働省第二次官 White ハ自分ニ若シ大統領案通過セハ来年三月迄ニ多数ノ日本人入国ヲ見ル可キノミナラス支那印度人モ続々入国スルノ虞アル旨ヲ確言セリト述ヘ次テ Webb ハ諸団体及個人ヨリノ協議会案反対電報数通ヲ読ミ上ケ更ニ協議会ノ経過ニ関シ最初大統領カ提出セル一九二六年延期案ハ協議会ノ否決スル所トナリタルニ不拘大統領ハ更ニ今回ノ案ヲ強制シテ協議会ノ決定ヲ翻ヘサシメタル内部ノ事情ヲ説明シ其ノ憲法ニ違反スルコトヲ繰返シ力説セリ之ニ続テ賛否ノ演説交々行ハレタルカ其内 Tinchar（「カンサス、リパブリカン」）ハ協議会案ヲ支持シ該案反対者ノ種類ハ㈠移民法案ナラハ何テモ反対スルモノ㈡日本ト云フ文字ヲ見レハ何テモ曲解スル西海岸出身ノ議員㈢本法案ヲ否決セハ「クーリッヂ」虐メノ種トナルト考ヘ居ルモノナリト云フヤ民主党側議員ハ一斉ニ笑

声ヲ発シテ弥次リ立テタリ Longworth（「リパブリカン、フロワリーダー」）ハ外交ノ任ニ当ル行政部ノ云フ所ニ依レハ移民問題ニ関シ日本ハ怒ヲ表明セサル迄モ少クモ憂慮ヲ禁セサル旨表明シタリ日本ノ強大国タルハ異論ナキ所ナリ同時ニ日本カ米国ニ友誼ヲ重ネタルハ過去ノ歴史殊ニ華府会議ノ実証スル所ナリ日本ハ米国ニトリ「ヴァリエーブル、フレンド」ナルト共ニ一朝地位ヲ転動セハ米国ノ「デンヂュラス、エネミー」ナルヤモ知レス吾人ハ何故斯ノ如キ隣邦トノ友好関係ヲ毀損スルカ如キ措置ヲ必要トスルモノナリヤ西岸諸州ハ多年排日移民法制定ニ努力シ今ヤ漸ク其ノ努力ノ報ヒラレントスルニ際シ此協議案ヲ否決スルハ恰モ瀬戸際ニテ大魚ヲ逸スルニ等シ知ラスヤ議会中ニハ移民制限ノ政策ニ反対シ居ル議員尠ナカラサルコトヲト述ヘ最後ニ「ジョンソン」立チテ協議会案ニ依レハ多数日本移民渡来ニ危険アリト頻ニ吹聴シツツアル加州方面ノ宣伝ハ事実ニアラス過去数日間ニ数百ノ在米日本人ハ迎妻ノ目的ヲ以テ帰国シタルハ事実ナルモ来ル七月一日以後ハ「クオータ」制限ニ依リ彼等ノ入国ハ撃退セラルルモノナリ更ニ自分ハ数年来如何ニモシテ紳士協約廃止ノ途ヲ講セントシテ努力ヲ重ネ来リ今日幸ニモ大統領ヨリノ提案ニテ円満ニ其目的ヲ達スヘキ途開カレタル次第ニテ之レニ勝ル喜ナク八ケ月間其形式上ノ実施ヲ延期スルカ如キハ何等問題トスヘキニ非スト結ヒテ討論ヲ終リ直ニ票決ニ入リタル結果「レーカー」ノ動議ニ基キ訓令付ニテ議案ヲ協議会ニ返付スルコトトナリタル次第ナリ尚右動議ハ問題トナリ居ル「プロヴィゾ」ニ同意スル事ヲ許サストノ「インストラクション」ヲ付シ議案ヲ協議会ニ再付托スヘシト云フニアリ

八八　五月十三日　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

ジョンソン協議会報告ヲ下院ニ提出セル件

第四一一四号　（五月十四日接受）

往電第四〇四号ニ関シ

五月十二日午後「ジョンソン」ハ協議会報告書ヲ下院ニ提出シタリ下院ハ今明日中ニ採否ヲ決スヘク其上ニテ上院ニ付議セラルル筈（十三日午前）

桑港ニ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ転送セシム他ノ在米各領事ヘハ当方ヨリ郵送ス

八九　五月十五日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

議会対政府関係不円滑ノ実情ニ付キ報告ノ件

第四一九号

大統領選挙前ノ政局殊ニ議会対政府関係頗ル不円満ナル実情ハ屢次報告ノ通リナルカ最近益々甚タシキニ至レリ議会カ党略ノ上各種ノ査問委員会ヲ設ケ互ニ内情発キ合ヒニ熱中シ重要ナル法案進捗セス為ニ屢々大統領側ヨリ警告ヲ受ケ又重要法案ニ付キテハ常ニ政府ノ意見ト多大ノ懸隔アリ（減税案老兵年金案ノ如キ其著シキ例ナリ）而シテ一般輿論殊ニ新聞カ常ニ政府ニ味方セル為メ議会側ハ一層昂奮シ委員会モ異常ニ神経過敏トナリ現ニ移民法案ニ対スル大統領ノ妥協運動ニ付テモ加州方面ノ議員連ハ日本大使ノ内密運動ヲ疑ヒ「ハースト」系新聞ノ如キハ本問題ノ変遷ヲ Jap's tricks ナリト評シ居ル有様ナルカ最近伊国大使カ紐育州選出議員 Celler ニ宛テ伊国移民ノ為メ奮闘ヲ謝シタル私信カ問題トナリ議員側ニ於テハ之ヲ外交慣例ヲ破レルモノニシテ暗ニ議会ニ干渉セルモノナリト批難シ専ラ物議ノ種トナリ居ル有様ナリ将又最評判悪シキ年金案ヲ大統領カ veto スルヤ上院ニ於テ僅ニ一票ノ差ヲ以テ辛ウシテ over-ride ヲ免レタルカ如キ議会内ノ党派関係愈々錯綜シ政府ノ議会ニ於ケル地位安固ヲ欠キ又議会以上ニ昂奮セル為メ各州大統領予選ノ形勢ハ今ノ処優勢ナルモ政府ノ対議会関係ハ非常ニ困難ナルコト目下ノ実況ナリ

御参考迄

九〇　五月十五日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

大統領ト下院領袖トノ協議ニ付キ報告ノ件

第四二一号

往電第四一四号ニ関シ

十四日午後大統領ハ国務長官ヲ初メ下院ニ於ケル共和民主両党ノ首領ヲ招致シ協議スル所アリ其結果下院ニ於ケル移民法案審議延期説伝ヘラレタルカ午後五時下院共和党ノ「リーダー」タル Longworth ハ協議会ニ於テ移民法案関係事項ヲ議シタルハ事実ナルモ両院協議会ノ報告ハ予定ノ通リ明十五日ノ下院ニ上程スル筈ナル旨声明シタリ尚大統領ヨリノ協議ノ内容ニ就テハ確実ナルコト判明セサルモ日本ト商議ヲ了ル迄排斥条項ノ実施ヲ見合スコトニシタシト

ノ意見ニテ党派関係ヲ超越シ大統領ニ協力センコトヲ求メタルモノナリト噂セラル

桑港ヘ転電シ布哇及沿岸領事ヘ転電セシメ他ノ在米領事ヘハ当方ヨリ転電済ミ

九一　五月十五日　松井外務大臣ヨリ　在米国埴原大使宛（電報）

在日アメリカ大使ウッズノ排日条項実施ニ関スル所見通報ノ件

第二〇七号

五月十四日佐分利ハ他用ヲ以テ米国大使ト談話中両院協議会ニ付議セラレタル妥協案ハ排日条項ノ実施ヲ延期シ其ノ間ニ日本ト条約締結ノ商議ヲナス趣旨ナリシトノコトナルカ右ハ如何ナル事項ヲ規定スヘキ条約ヲ意味シタルモノナリヤト問ヒタルニ対シ同大使ハ大統領ハ選挙後ハ全然自由手腕ヲ有スルヲ以テ延期々間中ニ日本ト条約締結ノ商議ヲ為シ而シテ其ノ中ニ規定スヘキ事項ハ単ニ日本人ノ入国ヲ禁止スルコトノミニアラスシテ之ト同時ニ米国ニ在ル日本人ノ待遇問題ヲモ規定セムトノ趣旨ナリ

要スルニ日本ヲ強要シテ日本人ノ入国禁止ノ条約締結ヲ迫ラントスルニハアラスシテ条約当事者双方ノ立場ヲ十分考量スル趣旨ノモノナリト答ヘタリ尚大使ノ内話ニ拠レハ曩ニ大統領カ妥協案ヲ提出スルニ至レルハ大使ノ「サゼッション」ニ基クモノナリトノコトナルカ前記条約ニ関スル意見ハ大使ヨリ政府ニ建議セルモノナリヤ又然リトスルモ政府ニ於テ之ヲ承認シ其ノ意味合ニテ妥協案ヲ議会側ニ提議セルモノナリヤ固ヨリ不明ナルモ何等御参考迄

尚愈々排日条項通過ノ場合ニ大統領カ veto スヘキヤ否ヤノ問ニ対シテハ大使ハ此際仮令大統領カ拒否スルトモ議会ニ於テ override セラルヘク又大統領カ拒否ノ手段ニ出ルトキハ却テ世間ノ信用ヲ増スヘシトノ説アルモ選挙ニ関係多キ労働者連ハ斯カル見解ヲ取ルコト無キカ故ニ此際大統領トシテ拒否ノ手段ニ出ツルハ賢明ナル措置ナリヤ疑ナキ能ハスト大統領ハ拒否セサルヘシトノ意味ヲ洩セリ

九二　五月十五日　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

両院協議会ノ報告下院ニテ承認決定ニ付キ報告ノ件

第四二三号　（五月十六日接受）

往電四二一号ニ関シ

十五日午後両院協議会ノ報告下院ニ上程セラレ討議ノ結果五八対三〇八ノ多数ニテ該報告ヲ承認スルコトニ決定シタルカ上院ニ於テモ該報告ヲ上程シ目下討議中本日中ニ採決セラルル筈（十五日午後八時）

桑港ヘ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ヘ転電セシム他ノ在米各領事ヘハ当方ヨリ転電セリ

九三　五月十五日　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

上院ニテ移民法案ヲ可決ニ付キ報告ノ件

第四二五号　至急　（五月十六日接受）

往電第四二三号ニ関シ上院ハ本日午後五時半六十九票対九票ノ多数ヲ以テ移民法案ヲ可決セリ大統領ノ手許ニ提出セラルルハ明後十七日ナルヘシトノコトナリ（十五日五時四十分）

桑港ニ転電シ布哇及沿岸領事ニ転電セシメ他ノ在米領事ヘハ当方ヨリ転電済

九四　五月十七日（着）　在米国埴原大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

下院及ビ上院ニ於ケル討議ノ模様ニ付キ報告ノ件

第（欠）号

往電第四二三号及第四二五号ニ関シ十五日下院ニ於ケル討議ノ模様ハ「ジョンソン」ヨリ協議会報告ノ説明アリタル後数名ノ発言アリタルモ討議ハ主トシテ米国市民ノ父母妻子等ノ入国問題ニ集中セラレ兵籍条項ニ関シテハ特別ノ議論ナシ又上院ニ於ケル同日ノ討議モ始メ「リード」ヨリ説明アリタル外論議ハ外国海員関係ノ条項ヲ主トセルモノニテ日本人問題ハ別段討論スル者無カリシ模様ナリ尚「ジョンソン」ハ前記報告説明ニ当リ大統領ト協議会トノ妥協案ニ言及シ最初ノ妥協案ハ二十ケ月実施延期中条約締結ト云フニ在リシ為協議会ハ遂ニ之ヲ拒絶シタルモ第二ノ八ケ月延期ノ妥協案ハ単ニ実施延期ノ問題ナリシ為協議会之ヲ容レタルニ拘ハラス下院カ条約又ハ取極メノ成立ヲ恐レテ承認セサリシハ遺憾ナリ移民ニ関（スル）条約ハ現在ノ上院ニテハ素ヨリ今後ノ如何ナル上院ニ於テモ決シテ批准スルカ如キ事無カルヘク一般世人モ又米国カ世界ノ如何ナル国トモ再ヒ紳士協約類似ノ取極メヲ為ス事ヲ容認セサルヘシ

ト述ク居レルカ「リード」ハ協議会ニテ上院ノ即時実施案ヲ捨テタル理由トシテ立法ノ結果将ニ入国セントシ海上ニ在ル者迄モ拒斥スルハ不公平ニシテ即時実施ハ結局実行不可能ト成ルヽキ憂モアリト説明シ更ニ「ロビンソン」ヨリ協議会報告ハ七月一日実施トスル外排斥条項ニ就キ何等ノ制限モ認メ居ラサル次第ナリヤトノ質問ニ対シ移民ヲ飽迄国内立法事項ト確認シ居ルヲ以テ排斥条項ニ就テハ全然条約其他何等ノ制限ヲモ認メ居ラスト答ヘタリ

議事録郵送

九五　五月十八日(着)　在米国埴原大使ヨリ松井外務大臣宛(電報)

移民法案大統領ニ送達セラレタル件

第四三一号

往電第四二五号ニ関シ

十七日午後二時法案ハ大統領ニ送達セラレタリ

各領事ニ転電ス

九六　五月二十七日(着)　在米国埴原大使ヨリ松井外務大臣宛(電報)

五月二十六日クーリッヂ大統領新移民法案ニ署名及ビステートメント発表ノ件

別電　五月二十七日着在米国埴原大使発松井外務大臣宛電報第四四八号

クーリッヂ大統領ステートメント

第四四七号　至急

貴電第二三一号ニ関シ五月二十六日午前十一時右貴電解訳完了ニ先チ大統領ハ移民法案ニ署名シ別電第四四八号ノ通ノ「ステートメント」ヲ発セリ

(別電)

五月二十七日着在米国埴原大使発松井外務大臣宛電報第四四八号

第四四八号　至急

In signing this bill, which in its main features I heartily approve, I regret the impossibility of severing from it the exclusion provision which, in the light of existing law, affects especially the Japanese. I gladly recognize that the enactment of this provision does not imply any change in our sentiment of admiration and cordial friendship for the Japanese people, a sentiment which has had and will continue to have abundant manifestation. The bill rather expresses the determination of the Congress to exercise its prerogative in defining by legislation the control of immigration instead of leaving it to international arrangements.

It should be noted that the bill excepts from the exclusion provision government officials, those coming to this country as tourists or temporarily for business or pleasure, those in transit, seamen, those already resident here and returning from temporary absences, professors, ministers of religion, students, and those who enter solely to carry on trade in pursuance of existing treaty provisions. But we have had for many years an understanding with Japan, by which the Japanese Government has voluntarily undertaken to prevent the emigration of laborers to the United States, and in view of this historic relation and of the feeling which inspired it, it would have been much better in my judgment and more effective in the actual control of immigration, if we had continued to invite the co-operation which Japan was ready to give and had thus avoided creating any ground for misapprehension by an unnecessary statutory enactment. That course would not have derogated from the authority of the Congress to deal with the question in any exigency requiring its action. There is scarcely any ground for disagreement as to the result we want, but this method of securing it is unnecessary and deplorable at this time.

If the exclusion provision stood alone, I should disapprove it without hesitation if sought in this way at this time, but this bill is a comprehensive measure dealing with the whole subject of immigration and setting up the necessary administrative machinery. The present quota act of 1921 will terminate on June thirtieth, next. It is of great importance that a comprehensive measure should

take its place and that the arrangements for its administration should be provided at once. In order to avoid hardship and confusion I must, therefore, consider the bill as a whole and the imperative need of the country for legislation of this general character. For this reason the bill is approved.

九七　六月十七日（着）　在米国埴原大使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

排日条項実施ニ関スル妥協案ニ付キ報告ノ件

第五三四号

貴電第二八八号ニ関シ御来示ノ妥協案（一九二六年三月一日迄延期案）ハ行政部ヨリ何等公表シタル事ナシ両院協議会モ何等正式ニ之ヲ公表シタル事ナシ上下両院議場ニ於テハ数言之ニ言及セル議員アリ従テ右妥協案ニ対スル記録議事録ニ掲載セラル内重ナルモノ左ノ通

㈠五月十五日下院議場ニ於テ移民委員長「ジョンソン」ハ「排日条項実施ヲ二十ケ月間延期シ其ノ間ニ新条約成立セハ該条項ヲ実施セス」トスル案両院協議会ニ提案セラレタルモ云々ト云ヘリ往電第四二七号及五月十六日付公第五一五号付属議事録第八八七五頁参照

㈡五月六日上院議場ニテ議員 McKeller ハ往電第三八二号妥協案全文ヲ朗読シタル上両院協議会ノ某委員ヨリ右案ヲ自分ニ提示シ之ハ大統領ヨリ出テタル提案ナルカ上院民主党議員ノ右案ニ対スル意向内探有度旨依頼アリタリト述ヘタリ五月六日郵送議事録第八一六六号参照

㈢五月六日下院議場ニテ議員「レイカー」ハ本件妥協案全文ヲ朗読シ新聞ノ伝ル処ニ依レハ大統領ハ右ノ案ヲ両院協議会ニ提出シタル趣ナリト述ヘタリ五月九日郵送議事録第八四八七頁参照

2　日米間交渉

九八　一月一日　伊集院外務大臣ヨリ在米国埴原大使宛（電報）

新移民法案中ノ差別待遇規定削除並ビニ国籍ニ関スル憲法改正決議案阻止ニ付キ国務長官ニ申入レ方訓令ノ件

別　電一　同日伊集院外務大臣発在米国埴原大使宛電報第二号

新移民法案中ノ差別規定ニ対スル抗議ノ理由

二　同日同電報第三号　憲法改正決議案ニ対スル抗議ノ理由

第一号

貴電第八二二号ニ関シ今回ノ合衆国議会ニ提出セラレタル移民法案及帰化不能外国人ノ子ノ国籍ニ関スル憲法改正決議案ニ付テハ貴官ハ既ニ国務長官ニ面会シ其意見ヲ求メラレタル由ナルカ移民法中ニ帰化能力ヲ標準トスル差別待遇規定ヲ設クルコトニ付テハ貴官御承知ノ通現行移民法制定当時帝国政府ノ最モ強硬ニ抗議シタル所ニシテ主義ニ於テ飽迄容認シ難キ所ニ有之又国籍ニ関スル憲法改正決議案ニ付テハ其ノ成立ノ暁在米二十数万ノ本邦人ハ多年刻苦ノ基礎ヲ一朝ニシテ失フコトトナルヘク其ノ影響ノ重大ナルニ鑑ミ政府ノ痛心ニ不堪ル所ナルト同時ニ該決議案提出ノ日本国民ニ与ヘタル反響ハ強烈ニシテ従来飽迄穏健説ヲ主張シ来リタル人士ニ於テモ米国カ斯迄非道ノ処置ニ出ルニ於テハ此上黙止シ難シト為スニ至リ有識有力階級ノ論調モ著シク険悪ニ傾キツツアリ其結果ハ啻ニ政府ヲ窮境ニ陥ルルノミナラス国民ノ対米感情ヲ悪化シ為ニ両国国交ノ為メ憂慮スヘキ事態ヲ醸成スルノ虞アルニ付キ貴官ハ帝国政府ノ訓令トシテ更ニ国務長官ニ面会セラレ移民法中差別待遇規定削除方並ニ決議案通過阻止方ニ付キ篤ト懇話ヲ遂ケラレ同長官ノ応対振回電アリタシ

尚ホ貴官ヨリ国務長官ニ対スル交渉ノ形式及論拠等ニ付テハ貴官ノ裁量ニ一任スヘキモ当方気付ノ点ハ移民法ニ付テハ別電乙号ノ通ナルニ付是等ノ諸点ニ付テハ特ニ充分ノ考量ヲ加ヘラレタシ

尚ホ又移民法案ニ関シテハ先方ト協議ノ上必要ニ応シ法案ノ字句ニ付改正ヲ要スル点ヲ具体的ニ文書ヲ以テ国務省ニ申入レラレ当方ノ要求ヲ容レシムル様貴官最善ノ御尽力ヲ希望スルモ決議案ニ付テハ素ト一国ノ忠誠（アレジャンス）ニ関スル国内問題ニシテ文書ヲ以テ抗議ヲ提出スルトキハ先方ヨリモ文書ヲ以テ全然当方ノ要求ヲ拒絶スルノ虞アルノミナラス選挙期日ヲ控ヘ排日論者等ニ依リ政治運動ノ具ニ供セラルル懸念モ存スルニ付此問題措置方ニ付テハ特段ノ考量ヲ用イラレ度差当リ貴官長官間ノ内談ニ止メラレ文書ヲ提出セサルヲ妥当ト思考ス

（別　電一）